

授業科目名	生活デザイン総論Ⅱ				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

グローバル社会では、モノやカネ、ヒト、情報が簡単に移動し、そのためさまざまな課題が見受けられます。そこで本授業では、グローバル社会に対応するために、「共生社会」「持続可能な社会」「リスク社会」に対する現状や課題を把握し、わたしたちの身近な問題についての解決策を考え、これからの社会に対応できるような気付きと問題解決力を備えることを目的とします。具体的には「ユニバーサルデザイン」「消費者問題」を知り、その対応策について学び、議論します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

具体的内容：

ユニバーサルデザインなどの資料を通して、社会の課題を知る。

目標：

社会の課題を学び、再考する。

グローバル社会における自己の役割について課題をみつけ、実践に導く力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

ワークシート

： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。

30%

課題レポート

： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。

30%

発表

： 本学のルーブリックに基づき、評価する。

20%

定期試験

： 本学のルーブリックに基づき、評価する。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中治彦編著 『SDGsと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』 学分社
加賀美常美代編著 『多文化共生論 多様性理解のためのヒントとレッスン』 明石書店
菅付雅信著 『物欲なき世界』 平凡社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日・木曜日・金曜日
 場所： 生活デザイン第3研究室
 備考・注意事項： 授業の前後、オフィスアワーに対応します。

授業計画		授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回	持続可能な社会とシティズンシップ 持続可能な社会とはどのような社会なのか、身近な事例を概説する。21世紀市民として生きるためには、知識のみならず、問題に関わり、どう解決していくのかの実践力が必要である。シティズンシップ思想とその可能性について考察する。	「持続可能な」と思われるものについて写真を撮しておく。 4時間
第2回	ユニバーサルデザインとは何か ユニバーサルデザインと云われているグッズを紹介し、どこがユニバーサルデザインなのか、グループワークを行い、考察する。	身近なユニバーサルデザインを探し、写真を撮しておく。 4時間
第3回	ユニバーサルデザインの課題 ユニバーサルデザインの事例を理解し、企業の製品についても多様な配慮がなされていることに気づく。またグループの発表から、デザインの多様性とその意義について学ぶ。	身近なユニバーサルデザインについて調べる。 4時間
第4回	多様な人々への理解と課題 視覚障害への理解とその課題について、体験を通して学ぶ。さらに校内リサーチを行う。	校内の配慮点と課題についてレポートにまとめる。 4時間
第5回	公共空間のユニバーサルデザイン 公共空間においてユニバーサルデザインがどのように活用されているかについて知る。また、前回の校内リサーチの発表を行い、課題を抽出する。	駅やショッピングモールなど、公共空間リサーチを行い、レポートに書く。 4時間
第6回	持続可能な開発目標 国連のSDGS（持続可能な開発目標）から、社会における課題について知る。第1回の課題であった、持続可能な写真を見て、それがどの課題にあたるのかを考察する。	公共空間において、持続可能と思われるものについて写真を撮しておく。 4時間
第7回	公共空間のユニバーサルデザインについての発表 公共空間でリサーチしたユニバーサルデザインについて発表する。また、他人の発表から多様なユニバーサルデザインについて学ぶ。	振り返りシートを作成する。 4時間
第8回	衣生活におけるデザインの役割1 私たちの衣の消費行動、アパレル産業について知り、これからのデザインの役割を考える。	衣の消費構造について、これからのデザインについて資料を集めておく。 4時間
第9回	衣生活におけるデザインの役割2 これからのファッションデザインについてグループで議論する。	振り返りシートの作成をする。 4時間
第10回	食・住生活のデザイン 現代の食環境、住環境をもとに、ますます広がるデザインの領域から食・住生活について考える。	食・住生活のデザインの写真を集めておく。 4時間
第11回	多文化共生社会とは何か 多文化共生社会を知るために、移民について学ぶ。	ヨーロッパの移民問題について資料を集めておく。 4時間
第12回	多文化共生社会における生活文化 イスラム文化を参照にし、文化の相違と価値観、多様な人々の共生についての現状と課題について学ぶ。	自分の多文化共生体験についてレポートを書く。 4時間
第13回	持続可能な社会の再考 今までの写真資料、授業内容をもとに、持続可能な社会への課題についてグループディスカッションにより考察する。	振り返りシートを作成する。 4時間
第14回	多様な人々に配慮した減災への取り組み 東日本大震災、阪神淡路大震災を比較し、震災の現状と防災・減災の視点を学ぶ。また、デザイン領域からの防災・減災のアプローチについて考察する。	東日本大震災、阪神淡路大震災について調べておく。 4時間
第15回	持続可能な未来と社会貢献 今までの授業内容から、持続可能性についてわたしたちにできることは何か、デザイン領域から再考する。	授業課題レポートを作成する。 4時間

授業科目名	生活デザイン総論 I				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

少子高齢化による人口減少時代の到来、高度な情報技術の発達によるグローバル化、地球環境問題の深刻化など、わたしたちを取り巻く環境は急激に変化し、ライフスタイルや価値観は多様化しています。自分自身の生活をみつめ、どのように人生を組み立てていくのかを視座におきつつ、社会的、経済的、精神的自立をめざし、必要な生活資源について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代生活の諸相と生活設計の理解

目標：

現代社会の現状を知り、自己の生活設計を明確にできる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

現代社会の現状と課題を知り、課題解決できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ワークシート	30%	: 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。
課題レポート	30%	: 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。
発表	20%	: 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。
定期試験	20%	: 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日・木曜日・金曜日

場所： 生活デザイン第3研究室
 備考・注意事項： 授業前後の質問を歓迎します。
 指定曜日のオフィスアワーに対応します。

授業計画			授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	一人暮らしの生活設計 一人暮らしをする場合の生活費について考察する。	1週間の収入と支出について記録し考察する。	4時間
第2回	多様な働き方 非正規雇用と正規雇用の相違について学ぶ。	資料を中心にアルバイトについて考察する。	4時間
第3回	社会保障制度 社会保険（医療・年金・雇用・介護など）について、その利用の方法と問題点を考える。	社会保障制度について新聞記事を収集しておく。	4時間
第4回	男女の役割分業から男女共同参画社会へ 男女の役割分業から男女共同参画社会への系譜、雇用形態（正規・非正規・派遣など）の変化による社会システム、生活システムの変化について学ぶ。	課題レポートを作成する。	4時間
第5回	多様な家族と人生 家族の変遷について学ぶ。現代生活における家族について、ライフイベントから考察する。	家族の機能変化について、振り返りシートを作成する。	4時間
第6回	住生活のマネジメント1 住生活のマネジメントを考える。住まいの機能と住まう権利について考察する。	自身の住環境をもとに、日本の住居についての資料を集めておく。	4時間
第7回	住生活のマネジメント2 日本だけでなく海外諸都市の住環境を例に、これからの住生活を考察する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第8回	発表 今までの授業内容から、自分、家族、住居を含めた現代の基本的な環境について、発表し、意見交換する。	発表資料を準備しておく。批判的思考をもって、発表に対する自己評価と他者評価を行う。	4時間
第9回	食生活のマネジメント 現代の私たちをとりまく食生活、生産と消費について学び、これからの食環境を考察する。	食品産業の動向について、資料を集めておく。	4時間
第10回	衣料の生産と消費 衣生活について、生産から消費までを学ぶ。そのうえで現在の衣についての問題をグループディスカッションする。	衣料品、アパレルについて資料を集める。	4時間
第11回	インターネットとデジタル時代1 生活に欠かせないものとなったインターネットと、その機能、SNSの基礎について学ぶ。	日常的に使うSNSについて情報を得、まとめる。	4時間
第12回	インターネットとデジタル時代2 前回の授業を踏まえたうえで、これからのインターネットサービス、デジタル事業の考察をする。	課題レポートを作成する。	4時間
第13回	ものづくりと産業 様々な分野のものづくりから産業を学び、これからの生産・消費について考える。	身近にあるものづくりについて資料を集めておく。	4時間
第14回	発表 食生活、衣生活、インターネット、デジタル環境、ものづくりと産業を含めたこれからの生活について自分の視点から発表する。	発表資料の作成をする。	4時間
第15回	現代生活の展望 衣食住への理解を深めながら、付加価値としてのデザイン要素、ライフスタイルについて考察する。	振り返りシートを作成する。	4時間

221

授業科目名	アパレル繊維学				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ユニチカ株式会社中央研究所にて繊維材料の研究開発を行う。(1990年～1995年)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維は有史以来、人々の身体を気候の変化や外界から守るだけでなく、美的感覚であるファッションも生み出してきました。繊維は天然繊維から化学繊維まで種類が極めて多いうえに、同じ種類の繊維でも、繊維の特性や太さ・長さなどの形態が異なります。「繊維の基礎知識」、「糸の基礎知識」をベースとして繊維とそれらを用いた繊維製品の知識と技術について十分な理解を得ることで衣料管理に対する専門性を身に付けることができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	繊維は天然繊維から化学繊維まで種類が極めて多いことを理解する。	天然繊維と化学繊維の違いを説明できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	繊維は種類により、繊維の特性や太さ、長さなどの形態が異なることを理解する。	繊維の種類による特徴を説明することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教科書や講義で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。
2．DP5. 計画・立案力		課題を解決するための計画を立案し、解決する方法を提案することができる。
3．DP6. 行動・実践		課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、調査研究を実践することができる。
4．DP7. 完遂		課題に対して、調査研究した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。
5．DP10. 忠恕の心		グループ討議において人の話をしっかり聞いて、それを理解して、自分の意見と理性を持って比較し、自分の意見を述べるることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

課題レポート	30%	： 3点満点で10回実施し、30点満点とする。講義の内容にさらに自分の創意工夫した考えが記載されている(3点)、講義の内容だけをもとに自分の思考が記載されている(2点)、講義の内容をそのまま記載している(1点)。
特定課題に対する考察力	20%	： 授業内容に関する課題に対して20点満点で評価する。授業内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている(20点) 授業内容を完全に正しく理解出来ている(10点) 授業の内容をある程度理解できている(5点)
定期テスト	50%	： 養うべき力が到達目標に達しているかどうかを90分間の筆記テストにより50点満点で判定する。テストはノート、教科書など一切の持ち込みは禁止で行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山下義裕他	繊維材料にフォーカスした生活材料学	アイ・ケイコーポレーション	2018年

参考文献等

- ・島崎恒蔵編著「衣料材料の科学」第3版（建帛社、2010年）
 - ・目下部信幸著「生活のための被服材料学」（家政教育社、1999年）
 - ・日本化学会編「衣料と繊維がわかる一驚異の進化」（東京書籍、2011年）
 - ・日本繊維技術士センター「業界マイスターに学ぶ せんいの基礎講座」（繊維社、2016年）
- その他の参考文献は、授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日の午前中
場所：	本館4階生活デザイン第一研究室
備考・注意事項：	質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「アパレル繊維学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画

回	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	繊維の種類と歴史	人類がなぜ衣服を着用するようになったのかを調べ自分の考えをまとめる。	4時間
		授業の進め方やアパレル繊維学で何を学ぶのかについて説明する。繊維とは何か？どのような種類があるのか？いつから衣服に使用されているのか？などについて概説する。	
第2回	高分子とはなにか？	高分子を Pasta とそうめんをモデルとしてその仕組みを理解する。	4時間
		繊維を構成している高分子とはどのようなものか？低分子化合物との違いや生成（重合）の例について概説する。	
第3回	高分子の構造と特徴	生命体はなぜ高分子からできているのかを調べ自分の考えをまとめる。	4時間
		前回に引き続き、高分子の構造や特徴について、さらに詳細を学ぶ。	
第4回	繊維の性能と構造の関係	高分子から繊維構造を作る過程を理解する。	4時間
		前回までに学んだ高分子の構造が、繊維の様々な性能にどのように関係しているのかについて説明する。	
第5回	繊維の分類	天然繊維と合成繊維の違いについて理解する。	4時間
		繊維の体系図をもとに、製造方法や構造などの違いにより、各繊維がどのように分類されるのかについて学ぶ。	
第6回	植物繊維（綿、麻）	綿と麻がどのように栽培され、その後、繊維としてなる工程を調べ、理解する。	4時間
		天然繊維の中で最も身近に使われている綿の構造や特性、用途について学ぶ。また、最古の繊維と呼ばれ、古くから衣服に用いられている麻の構造や特性、用途についても学ぶ。	
第7回	動物繊維（羊毛）	羊からどのように羊毛が刈り取られ加工され、繊維となる工程について調べ、理解する。	4時間
		動物繊維の中で最も生産量の多い羊毛の構造や特性、用途について学ぶ。また、その他の獣毛繊維についても紹介する。	
第8回	動物繊維（絹）	絹がなぜ人間にとって親しみのある材料なのか、生化学的観点からも学びながら調べて、その理由を理解する。	4時間
		古くから高級品として珍重されている絹の構造や特性、用途について学ぶ。	
第9回	再生繊維（レーヨン）	レーヨンの発明そして今日もいろいろな種類のレーヨンが使われていることを調べ、最新のレーヨンの利点について理解する。	4時間
		代表的な再生繊維であるレーヨンの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。	
第10回	半合成繊維（アセテート）	レーヨンとアセテートの違いを理解し、なぜそれぞれ2種類の繊維が生まれたのかの自分の考えをまとめる。	4時間
		代表的な半合成繊維であるアセテートの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。	
第11回	合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）	カローザスがなぜナイロンを発見でき、ポリエステルを合成できなかったのかを理解する。	4時間
		合成繊維の中でも衣服の素材によく使われているナイロン、ポリエステル、アクリルの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。	
第12回	合成繊維まとめ、その他の合成繊維	合成繊維についてその高分子構造と作り方の違いを理解する。	4時間
		ナイロン、ポリエステル、アクリルの特性について再度解説する。また、その他の合成繊維についてもいくつか紹介し、それらの製造方法や、構造、特性、用途について学ぶ。	
第13回	繊維の性能比較、繊維の鑑別	繊維の性能を理解し、それぞれの利点を理解し、それにあつた製品を考える。	4時間
		繊維の性能表を紹介し、比較して説明する。また、繊維の特性の違いを利用した繊維の鑑別手法について解説し、次年度の実験に必要な基礎知識を学ぶ。	

第14回	新しい繊維、衣服と環境問題 近年の繊維化技術の発展と機能性繊維について解説する。また、衣料品リサイクルの現状について説明する。インターネット検索を用いて、各自最新の繊維について調べる。	衣料品のリサイクルの現状を調べ、これらのリサイクルおあり方を自分の意見でまとめる。	4時間
第15回	繊維の特徴とその魅力 前週の課題レポートを総括し、その中のいくつかの繊維を紹介する。これまでの小テストの解説を行うとともに、アパレル繊維学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。	課題発表から自分が学んだ点、理解できた点、重要と感じた点、疑問点を整理し、アパレル繊維を正しく理解する。	4時間

授業科目名	アパレル材料学				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ユニチカ株式会社において繊維、織物、風合いの研究開発を行う（1990年～1995年）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維製品は衣料分野において各種の新しい機能を持つ繊維や加工技術が開発されるとともに、先端材料、医療分野、電子分野においても、繊維はなくてはならない材料ないし、製品となっています。衣料や材料になるまでには、紡績、製織、ニット、不織布などの糸や布帛の製造、染色や機能加工、仕上げなどの繊維加工、また縫製や製品評価といった、長い工程を学びます。また繊維製品の取り扱いについての知識も習得も目標とします。これらの知識・技術について十分な知識を得た上で、さらに課題を通してより深い知識の習得も目標です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	紡績、製織、ニット、不織布などの糸や布帛の製造、染色、繊維加工、仕上げ加工について理解する。	衣料や資材としての製品になるまでの工程について説明できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	縫製、製品評価、繊維製品の取り扱いについて理解する。	繊維製品を作り出し、評価する工程を説明することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教科書や講義で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。
2．DP5. 計画・立案力		課題を解決するための計画を立案し、解決する方法を思考することができる。
3．DP6. 行動・実践		課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、調査、研究し実践することができる。
4．DP7. 完遂		課題に対して、調査研究した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。
5．DP10. 忠恕の心		グループ討議の時に人の話をしっかり聞いて、それを理解して、自分の意見と理性を持って比較し、自分の意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

課題レポート	評価の基準
60%	： 5点満点で15回実施し、60点満点とする。講義の内容にさらに自分の創意工夫した考えが記載されている（5点）、講義の内容だけをもとに自分の思考が記載されている（4点）、講義の内容をそのまま記載している（3点）。
特定課題に対する考察力	： 授業内容に関する課題に対しての40点満点で評価する。授業内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている（40点）授業内容を完全に正しく理解出来ている（30点）授業内容を半分程度しか理解できていない（10点）
40%	

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

- ・島崎恒蔵「衣料材料の科学」（第3版）（建帛社、2010）
 - ・日下部信幸著『生活のための被服材料学』（家政教育社、1999年）
 - ・中島利誠編著『新版 概説被服材料学』（光生館、2003年）
- その他の文献は、授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日午前中

場所： 本館南4階生活デザイン第一研究室

備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。
その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「アパレル材料学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	被服とは何か？ 授業の進め方とアパレル材料学で何を学ぶのかについて説明する。また、被服とは何か？被服の歴史と現状について概説し、自分たちと被服との関わりについて考えてみる。	4時間
第2回	糸の分類と製造工程 糸の種類について学び、各糸の製造工程やそれぞれの特徴について解説する。	4時間
第3回	糸の太さにより 紡績糸とフィラメント糸それぞれの糸の太さの表し方（恒重式番手と恒長式番手）を学ぶ。また、よりの効果やより方向の違いについて説明する。	4時間
第4回	織物の構造（平織） 織物の三原組織について解説する。最も基本的な組織である平織の構造と特徴、組織図の描き方について学ぶ。	4時間
第5回	織物の構造（斜文織、朱子織） 前回に続き、織物の三原組織について解説する。斜文織および朱子織の構造と特徴、組織図の描き方について学ぶ。	4時間
第6回	織物の構造（三原組織の比較、変化組織） 前回までに学んだ平織、斜文織、朱子織の特徴について比較しながら再度解説する。また、これらの基本組織から誘導された変化組織の例を紹介する。	4時間
第7回	編物の構造（よこ編、たて編）、織物と編物の性能比較 編物のよこ編とたて編の基本組織について解説し、それぞれの構造と特徴、組織図について学ぶ。また、織物と編物の様々な性能を比較し、その違いを解説する。	4時間
第8回	不織布、布の構造特性 繊維同士を直接絡めさせて作る不織布について学び、その製造方法や特徴について解説する。また、布を構成している重要な因子（厚さ、目付、糸密度、含気率など）について学ぶ。	4時間
第9回	布の性質（耐久性） 布の耐久性に関係する諸性質（引張り強さ、引き裂き強さ、摩耗強さなど）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	4時間
第10回	布の性質（形態的性質） 布の形態的性質に関係する諸性質（弾性回復特性、せん断特性、剛軟性など）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	4時間
第11回	布の性質（快適性） 布の快適性に関係する諸性質（吸湿性、吸水性、保温性など）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	4時間
第12回	布の性質（外観的性質） 布の外観に関係する諸性質（しわ、ピリング、風合いなど）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	4時間
第13回	被服の性質（被服構成、着心地） これまで学んだ繊維、糸および布の構造や性質が、最終製品として出来上がった被服の性質にどのように関わっているかについて学ぶ。目的のデザインや着心地の被服を実現するためには、どのような被服材料が適するのかがについて解説する。	4時間
第14回	被服の性質（被服の管理）	さまざまな種類の布の縮み具合を自分の洗濯機を用いて調べる。

第15回	アパレル材料の魅力と未来	アパレルとしての布と産業用としての布，工芸品としての布についてそれぞれの将来への展望を調べる。
	これまでの課題の解説を行うとともに、アパレル材料学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。また、これからの衣生活の中で被服材料の知識をどの場面で、どのように活用できるかについて考える。さらにアパレル製品がネット販売される時の仮題についても説明する。	4時間

授業科目名	ファッションデザイン論			
担当教員名	百々 徹			
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数 2
授業形態	講義			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務			

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、将来、ファッション業界で活躍するために必要となる基本的な知識を学びます。「デザインとは何か」ということから考え始めて、ファッションデザインの歴史や民族衣装などの地域の広がり、さらには衣服のかたちや色についての捉え方や、それを生み出すファッションデザイナーという仕事に至るまで、幅広い知識を身につけられるように、学んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みやデザインに関する知識を得る

目標：

様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる。

- 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

ファッションのデザインと衣服の役割に関する専門的知識

ファッション業界で働くために必要な基礎的知識を学び、将来的に自ら考え、活用していただけるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

様々な資料や知識をもとにして、ファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解を持てるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

40%

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『改訂 アパレルデザインの基礎』 社団法人日本衣料管理協会
『史上最強カラー図解 世界服飾史のすべてがわかる本』 能澤慧子 ナツメ社 2012
『20世紀ファッションの文化史』 成実弘至 河出書房新社 2007

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
場所： 生活デザイン第2研究室

授業計画	デザインとは？	デザインとはなにかを、多角的に考え調べてみる。	授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	<p>あなたの身の回りを見渡してみてください。そのほとんどが「どこかの誰かによってデザインされたもの」ではないでしょうか？ そんなデザインという考え方はいつごろはじまったものなのでしょう。この授業では、デザインというものの発生からその発展について学んでいきます。</p>	デザインとはなにかを、多角的に考え調べてみる。	4時間
第2回	<p>デザインのひろがり</p> <p>広くは都市や公園のデザインから、建築やインテリア、身の周りのプロダクト、最近ではコミュニティやコミュニケーション・デザインという考えまで、デザインの領域は広がっています。そのデザインの広がりそれぞれの動向について学んでいきます。</p>	21世紀に登場した様々なデザイン領域について調べてみる。	4時間
第3回	<p>衣服のデザイン—歴史編</p> <p>ヒトの着衣の歴史は数万年にも及びます。その長い歴史の中で、これまで様々な衣服のかたちが生み出され、ヒトを飾ってきました。この授業では、古今東西の様々な衣服のかたちについて、歴史を中心に学んでいきます。</p>	この授業で習った服のかたちの類型にあてはまる衣服を、自分の身の回りに探してみる。	4時間
第4回	<p>衣服のデザイン—民族編</p> <p>世界中を見渡した時に、裸で暮らすヒトはいるのでしょうか？ おそらくないと考えます。なぜなら、一見裸に見えるようなヒトでも、腰ひもを巻いたり、皮膚に模様を描いたりするからです。この授業では、世界中の様々な民族衣装の文化から、奇想天外な衣服のかたちについて学んでいきます。</p>	気になる民族衣装の一つを選び、その民族の暮らしや衣服の成り立ちについて、調べてみる。	4時間
第5回	<p>衣服のかたち</p> <p>丸、三角、四角、台形、菱形など、数々の幾何学的なかたちはありますが、衣服のかたちもまた、それらの幾何学的なかたちと布が生み出す流体のかたちから構成されています。プロポーション、バランス、コーディネーションなど、ファッションにとっても重要な衣服のかたちについて、その基本的な要素を学んでいきます。</p>	丸、三角、四角、台形、菱形といったかたちの衣服の例を自分で調べてノートに書き留めておく。	4時間
第6回	<p>色をまとう</p> <p>19世紀の半ばに英国人ウィリアム・パーキンが合成染料を発明してから今日まで、衣服はとて鮮やかでカラフルになってきました。では、それ以前の長きに渡り、ヒトはどのようにして布を染めて身にまとうてきたのでしょうか。この授業では、衣服の色に焦点を当てて、その成り立ちからコーディネーションにいたるまで、広く学んでいきます。</p>	自分のお気に入りの色について、その歴史と染め方について調べてみる。	4時間
第7回	<p>ファッションデザインの基本的な考え方</p> <p>私たちの表面のほとんどは衣服で被われています。とすれば、衣服は私という存在をかたどっているとも言えます。衣服をデザインすることとは、それを身にまとう誰かの存在をデザインすることでもあるのです。この授業では、ファッションデザインの基本となるポイントについて学んでいきます。</p>	ファッションデザインが現代社会に対してはたす役割について調べ考えてみる	4時間
第8回	<p>ファッションデザイナーという仕事</p> <p>世界で最初のファッションデザイナーは誰でしょう。一説によればマリー・アントワネットのドレスをデザインしていたローズ・ベルタンだと言われています。この授業では、ファッションデザイナーという存在の変遷と、21世紀における社会的な役割について学んでいきます。</p>	自分の気になるファッション・デザイナーについて、できるだけ詳しく調べておく	4時間
第9回	<p>テキスタイルとファッション</p> <p>私たちが着ているほとんどの衣服はテキスタイルでできています。テキスタイルとは織物や編物、不織布などの多様な繊維製品を表しますが、その作り方や風合い、効能は、衣服づくりにとって重要な意味を持っています。この授業では、天然繊維や化学繊維など多岐にわたるテキスタイルの、その素材や製法とファッションデザインとの関わりについて学びます。</p>	自分のワードローブの中から着心地が気に入っている1着を選び、その素材について調べておく	4時間
第10回	<p>衣服とフォルム</p> <p>いま世界中の人が着ている衣服のかたちは、まさに千差万別です。地域によっても時代によって異なれば、去年に流行した衣服のフォルムと今年の流行とはまた異なります。ところが非常にバリエーションがあるとはいえ、衣服は人がまとう暮らすものである以上、無限のフォルムは持っていないのです。この授業では、素材や物性、あるいはそれが着られる社会環境のなかで生み出される衣服のフォルムについて学びます。</p>	今年の夏に流行しそうな衣服のフォルムを、雑誌やインターネットで調べてみる	4時間
第11回	<p>衣服と人体</p>	自分の体形の特徴を考えながら、自分の持っている衣服がどのようにプラスに寄与しているかを考えてみる	4時間

	<p>衣服はそれだけで存在するのではなく、人が着ることで初めて完成すると言えます。たとえそれがどれほどの手間暇をかけたものであれ、衣服は人が着て、動いて、暮らして、はじめて存在意義を持つものなのです。</p> <p>この授業では、人体、体形、身体部位などとファッションデザインとの関わりについて学びます。</p>		
第12回	<p>ファッションと社会</p> <p>人は衣服によって社会とつながっています。衣服を着ることで社会における自分の地位や役割を表していますし、逆に社会の様々な制約をその一身に帯びてもいるのです。この授業では、ファッションと社会のつながりについて、経済的な側面も踏まえて、様々な角度から考えていきます。</p>	<p>自分の普段着ている衣服が、どのような社会的制約を自分にもたらしているか考えてみる</p>	4時間
第13回	<p>正装と盛装</p> <p>もしある日、あなたの元に「ブラックタイでお越しください」というパーティーの招待状が来たら、あなたは何を着て出かけますか？</p> <p>衣服を着ることは様々な意味がありますが、西洋にはドレスコードという厳しい装いのマナーがあるのです。この授業では、そのドレスコードについて、歴史的な変遷を交えながら、学んでいきます。</p>	<p>日本人が気づかないうちにやっと思いそうな正装に関する間違いの例を調べる</p>	4時間
第14回	<p>ブランドと日本人</p> <p>大きな都市の繁華街には、ルイ・ヴィトンやグッチ、エルメス、シャネルといったラグジュアリーブランドの旗艦店が立ち並んでいます。今や、当たり前のように日本人の生活に入り込んでいるこれらのブランドが、どのように誕生し発展し、さらに日本人に広がっていったのか、その変遷について学びます。</p>	<p>100年以上の歴史があるブランドを2つ以上選び、その歴史について調べてみる</p>	4時間
第15回	<p>まとめ—ファッションデザインの現在</p> <p>これまでの授業内容を振り返りながら、いま現在のファッションデザインの意義や役割について考えていきます。また、そのうえで、これからのファッションデザインの可能性と責任についても、あらためて考え直していきます。</p>	<p>まとめと確認の回を受けるにあたって、事前に自筆ノートの整理を準備しておくこと</p>	4時間

授業科目名	アパレル設計実習 I				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか？平面でのパターン展開や立体裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリーブワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。
ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。

目標：

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に活用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
決められた期限の中で自分がデザインした製作物を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内制作課題1

30%

評価の基準

： 基礎縫いファイル：基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。

授業内制作課題2

60%

： ワンピース：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

作業計画の自己管理

10%

： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限

場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画			授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	授業内容と実習用具について ・単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。授業の方針を理解する。 ・実習用具の種類、名称、使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく	1時間
第2回	手縫いの基礎縫い ・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。 ・用布をパーツに裁断する。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。 ・基礎縫いの必要性を理解する。	今週の授業内容を終えておく	1時間
第3回	ミシンの基礎縫い ・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。	今週の授業内容を終えておく	1時間
第4回	基礎縫いのまとめと提出。制作するワンピースの分析とアレンジ ・まとめておいた基礎縫いをファイルに順番通り整理し、1冊にまとめ提出する。 ・制作するワンピースのデザイン分析とデザインアレンジする為の資料集め	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回	身頃パターン展開の基礎 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。	集めた資料の中から参考にするワンピースを決めておく	1時間
第6回	身頃パターン展開の基礎、ワンピース制作材料の説明 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。 ・ワンピース制作に必要な布地、用尺などの説明。	自分の持っているワンピースの布地を確認しておく	1時間
第7回	ワンピースのパターン作成 ・ワンピースパターンを作成する。 ・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン作成をする。 ・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。	ワンピースに使用できる素材をマーケティングしておく	1時間
第8回	ワンピースのパターン作成 ・ワンピースパターンの作成。 ・完成したパターンを整理する。	ワンピースに使用する素材見本を揃えておく	1時間
第9回	ワンピースの制作、仮縫い ・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。 ・標し付けの種類、方法などを説明後、布に標を付ける。	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第10回	ワンピースの制作、仮縫い ・仮構成（仮縫い）の目的、方法などを説明。 ・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。 ・仮構成したブラウスを試着し、鏡の前で体型の観察、補正、デザイン修正を行う。 ・フィッティングの必要性を理解する。	使用する布地の地直しを終えておく	1時間
第11回	ワンピースの制作 ・本構成（ミシン縫い）の工程順序を考え、縫製工程表を作成する。 ・身頃の構成方法の説明後、実習をする。 ・ミシンの掛け方縫い代の始末、アイロンの掛け方、用具の使用方法などを理解する。 ・デザインによって始末の方法が異なることを理解する。	縫製工程など予定を確認する	1時間
第12回	ワンピースの制作 ・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	衿のリサーチを行う	1時間
第13回	ワンピースの制作 ・袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	袖のリサーチを行う	1時間
第14回	ワンピースの制作 ・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、プレスする。	プレスを終え、細かい修正を行う	1時間
第15回	ワンピースの着装評価と提出 ・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真撮影。 ・コーディネートした写真とワンピースの提出。	作品提出できるように準備を終えておく	1時間

授業科目名	アパレル設計実習 I				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか？平面でのパターン展開や立体的裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリーブワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

養うべき力と到達目標

<p>確かな専門性</p> <ol style="list-style-type: none"> DP2. 専門的知識・技能、職業理解 DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 <p>汎用的な力</p> <ol style="list-style-type: none"> DP5. 計画・立案力 DP7. 完遂 	<p>具体的内容：</p> <p>ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。</p> <p>ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。</p>	<p>目標：</p> <p>基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。</p> <p>上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に活用することができる。</p> <p>自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。</p> <p>決められた期限の中で自分がデザインした製作物を完成させることができる。</p>
--	---	--

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内制作課題1

評価の基準

： 基礎縫いファイル：基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。

40%

授業内制作課題2

： ワンピース：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

50%

作業計画の自己管理

： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画			授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	授業内容と実習用具について ・単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。授業の方針を理解する。 ・実習用具の種類、名称、使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく	1時間
第2回	手縫いの基礎縫い ・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。 ・用布をパーツに裁断する。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。 ・基礎縫いの必要性を理解する。	今週の予定を終えておく	1時間
第3回	ミシンの基礎縫い ・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。	今週の予定を終えておく	1時間
第4回	基礎縫いのまとめと提出。製作するワンピースの分析とアレンジ ・まとめておいた基礎縫いをファイルに順番通り整理し、1冊にまとめ提出する。 ・製作ワンピースのデザイン分析とデザインアレンジする為の資料集め	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回	身頃パターン展開の基礎 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。	集めた資料の中から参考にするワンピースを決めておく	1時間
第6回	身頃パターン展開の基礎、ワンピース製作材料の説明 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。 ・ワンピース製作に必要な布地、用尺などの説明。	今週の予定を終えておく	1時間
第7回	ワンピースのパターン製作 ・ワンピースパターンを製作する。 ・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン製作をする。 ・布の地直し目的、方法などを説明後、実習をする。	ワンピースに使用できる素材をマーケティングしておく	1時間
第8回	ワンピースのパターン製作 ・ワンピースパターンの製作。 ・完成したパターンを整理する。	ワンピースにしようする素材見本を揃えておく	1時間
第9回	ワンピースの製作、仮縫い ・布の地直し目的、方法などを説明後、実習をする。 ・標し付けの種類、方法などを説明後、布に標を付ける。	今週の予定を終えておく	1時間
第10回	ワンピースの製作、仮縫い ・仮構成（仮縫い）の目的、方法などを説明。 ・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。 ・仮構成したブラウスを試着し、鏡の前で体型の観察、補正、デザイン修正を行う。 ・フィッティングの必要性を理解する。	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第11回	ワンピースの製作 ・本構成（ミシン縫い）の工程順序を考え、縫製工程表を作成する。 ・身頃の構成方法の説明後、実習をする。 ・ミシンの掛け方縫い代の始末、アイロンの掛け方、用具の使用方法などを理解する。 ・デザインによって始末の方法が異なることを理解する。	今週の予定を終えておく	1時間
第12回	ワンピースの製作 ・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	今週の予定を終えておく	1時間
第13回	ワンピースの製作 ・袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	今週の予定を終えておく	1時間
第14回	ワンピースの製作 ・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、プレスする。 ・製作したワンピースのコーディネートを考える。	今週の予定を終えておく	1時間
第15回	ワンピースの着装評価と提出 ・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真撮影。 ・コーディネートした写真とワンピースの提出。	今週の予定を終えておく	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅱ				
担当教員名	藤崎美和				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	和裁実務経験17年（着物縫製の仕事をしています）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。和裁の基本的な縫い方（運針と基礎縫い）を1から学んだり、1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。ゆかたの縫製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

和裁用の基礎縫いの練習を15回中3回学ぶ。運針用布で運針をしっかりと練習する。

目標：

基礎的知識・技術を身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

各テーブル毎で協力しながら制作することで、協調性を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

提出物（運針布、基礎ファイル）	40%	： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
試験（作品提出）	40%	： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
小テスト	10%	： 名称テストの採点をする（20点満点）。
受講態度	10%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「和服縫製」発行者：日本和裁士会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業後以外で質問があるときは、助手にお伝え下さい。後日返答いたします。

授業計画		次回までに用具を揃える	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明など 第2回以降の授業内容などを説明する。基礎縫い布の裁断をする。 帯結びの練習をする。	次回までに用具を揃える	1時間
第2回	運針の練習と基礎縫い1（打ち留め・返し留め・重ねつぎ） 和裁に必要な「運針」と「基礎縫い（留め方）」を学ぶ。	各自で運針用布に練習する。	1時間
第3回	基礎縫い2（本返し縫い・二度縫い・袋ぬい） 和裁に必要な「運針」と「基礎縫い（返し縫い）」を学ぶ。	基礎縫いファイルを作成する。ゆかた地の下見をしておく。	1時間
第4回	基礎縫い3（三つ折りくけ・耳くけ・本くけ） 和裁に必要な「運針」と「基礎縫い（くけ方）」を学ぶ。	基礎縫いファイルを作成する。	1時間
第5回	基礎縫いファイルの提出 和裁に必要な「運針」と基礎縫いファイルを提出する。	浴衣生地を購入しておく。	1時間
第6回	浴衣の名称 和裁に必要な「運針」と浴衣の名称を学ぶ。	浴衣の名称を暗記する	1時間
第7回	採寸表の作成と裁断 和裁に必要な「運針」と各自採寸をして採寸表を作成する。 反物の裁断を学ぶ。	採寸表を作成する。	1時間
第8回	名称テストと裁断のつづき 名称テストをする。 裁断を完成させる。	正確に裁断し、各部ごとに確認して提出する。	1時間
第9回	身頃の標つけ 身頃の標付けをする。	身頃の標付けを完成する	1時間
第10回	袖標つけ 袖縫い1 袖の標付けを学ぶ。 袖縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第11回	袖縫い2・運針提出 袖縫いを学ぶ。 運針布を提出する。	運針布を提出する。	1時間
第12回	背縫い（二度縫い） 背縫いの標をして、背縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第13回	身頃の標つけ・脇縫い（1本目） 身頃の標をつけて、脇縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第14回	脇縫い（2本目）と脇の始末（1本目） 脇縫いをする。脇の始末をする。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第15回	脇の始末（2本目） 脇の始末をする。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第16回	試験（作品提出） 運針布、基礎縫い、浴衣を提出する。	浴衣を仕上げて提出する	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅱ				
担当教員名	水谷祥子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるという意識を持てるようにする。1年の前半にあたるこの授業では、和裁用の基礎縫いの練習を中心に、和裁の知識・技術を身につけることとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。

目標：

自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

基礎縫いファイル

39%

運針用布

16%

名称テスト

10%

定期試験（ゆかた）

30%

受講状況

5%

評価の基準

： 提出時に、正確さ、美しさ、内容を理解し分かりやすくまとめられているかにより評価する。（3点×13個）

： 提出時に、美しさ（縫い目の大きさ、そろっているか、まっすぐに縫えているか、しごいてあるか等）、不足がないかなどを見て評価する。

： 第6回授業時に各部の名称を20問中何問暗記できているかをテストし、評価する。

： 袖15点、背縫い、くりこし内あげ縫い、かけ衿縫い各5点で、それぞれポイントとなる部分を見て評価する。

： 各回授業に積極的に取り組んでいるか、授業態度（受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物、授業で使ったプリント提出状況等）を減点方式で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修（ナツメ社、2015年）
その他、授業時に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間教室で質問してください。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明 基礎縫い用布の裁断</p> <p>授業の進め方、準備物と購入物等について学習する。基礎縫い用布を裁断し、準備しておく。</p>	<p>指定した糸、針など次の授業に必要なものを購入する。ゆかた地については下見しておく。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>運針の練習 基礎縫いについて</p> <p>運針時の正しい針の持ち方、姿勢、手の動かし方について学習し、運針用布にその通りに縫ってみる。</p> <p>和裁の基礎縫いについて、種類、使い方などを学習する。</p>	<p>正確で美しい運針ができるように、各自で運針用布に練習する。運針は、用布に規定の本数を縫って、10回目の授業の終わりまでをめに提出する。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>基礎縫いファイルの作成1～とめ方、つなぎ方、縫い方～</p> <p>縫い方と、糸のとめ方、糸のつなぎ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。</p>	<p>運針の練習、基礎縫いの練習</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>基礎縫いファイルの作成2～きせのかけ方、くけ方、しつけ方～</p> <p>きせのかけ方、くけ方、しつけ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。</p>	<p>運針の練習、基礎縫いの練習</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>基礎縫いファイルの整理とまとめ 成人用ゆかたについて</p> <p>作成したサンプルを整理し、名称、方法、要点などを文章や図を使って自分なりにまとめる。ゆかたの構成と名称について学習し、ゆかたに適した布地について考える。</p>	<p>作成したサンプルを基礎縫いファイルにまとめて提出する。ゆかたの各部の名称を暗記し、名称テストに備える。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>採寸と寸法決め 名称テスト</p> <p>前回学習したゆかたの形と名称について簡単なテストをおこなう。</p> <p>採寸の方法についての説明の後、2人1組で採寸する。柄合わせについて学習する。</p>	<p>採寸寸法より採寸表1を完成させ提出する。次の授業までにゆかた地を購入し、布地に合った柄合わせを考えておく。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>小さなゆかたを紙で作る～ゆかたの構成を実感しよう～</p> <p>大きな実物のゆかたでは実感しにくい構成を、小さなゆかたを作ることでよりよく理解する。ゆかた地に見立てた紙を裁断し、のり等で貼り合わせて縮小したゆかたを完成させる。</p>	<p>紙のゆかたで構成と名称を確認し、しっかり理解しておく。柄合わせを考え、裁断の方法についてもよく復習しておく。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>裁断</p> <p>裁断方法について確認した後、柄合わせを考えながら各自裁断する。</p> <p>各パーツごとに、柄合わせの糸標をつけて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖縫いの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>袖標つけ 袖縫い1（袖下、袖口下）</p> <p>袖の標つけ、縫い方について学習し、縫い上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。袖縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>袖縫い2（丸み、袖口、飾りじつけ） 運針提出</p> <p>袖の丸みの作り方、飾りじつけについて理解し、縫い上げて提出する。</p> <p>今回までに各自練習してきた運針用布を提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの背縫い、くりこし内あげ縫いの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>背縫い標つけ・くりこし内あげ標つけ</p> <p>それぞれの標つけの方法について学習し、標つけを仕上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>背縫い・くりこし内あげ縫い1（主に背縫い）</p> <p>それぞれの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。</p> <p>1時間</p>
第13回	<p>背縫い・くりこし内あげ縫い2（主にくりこし内あげ縫い）</p> <p>それぞれの縫い方、かくしじつけについて理解し、縫い上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの身頃の標つけの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>
第14回	<p>身頃の標つけ</p> <p>前身頃、後身頃の標つけについて学習し、標つけを仕上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントのかけ衿つけの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>
第15回	<p>かけ衿つけ</p> <p>かけ衿のつけ方を学習し、縫い上げて提出する。</p> <p>かけ衿つけの後、できあがっていない所を仕上げる。</p>	<p>今までの授業でできあがっていないところがあれば仕上げる。問題のある所、正確に縫えていない所は縫い直し、やり直しをする。</p> <p>1時間</p>

第16回

ゆかた（前期で実習したところまで）の提出

前期の授業で実習したところまでゆかたを仕上げて提出する。
また、これまでに未提出の物があれば合わせて提出する。
提出された物は、それぞれの方法で評価する。

授業内で仕上がらなかった場合は、状況に応じて提出期日を定める。

4時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅲ				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業にて、デザイン、パターンなど衣服制作の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか？後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。
スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。

目標：

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解し、衣生活に活用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
決められた期限の中で自分がデザインした制作物を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内制作課題1

評価の基準
： スカート：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
30%

授業内制作課題2

： ジャケット：衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
60%

作業計画の自己管理

： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。
10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	スカートの原型 ・ デザインパターンの作図 ・ スカート原型の製図方法を学ぶ。 ・ スカートのデザインパターンの製図方法を学ぶ。	デザインするための資料を集める。	1時間
第2回	自分のスカートパターンの作図 ・ 原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。	制作するスカートのデザインを考えておく	1時間
第3回	スカートの制作 ・ 布の地直しをする。 ・ スカート製作に使用する布の裁断。 ・ ファスナー付けなど基礎縫いの説明。	使用する生地や付属を揃えておく	1時間
第4回	スカートの制作 ・ ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。 ・ デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理解する。 ・ ベルト芯、芯地の必要性と扱い方を理解する。 ・ カギホックの付け方を説明後、実習をする。	自分の持っているスカートの付属を確認しておく	1時間
第5回	スカートの制作 ・ 完成したスカートの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。 ・ スカートを着装し評価する。	ジャケットをデザインするための資料を集めておく	1時間
第6回	アウターの制作 ・ 製作するアウターのデザイン分析を行う。 ・ 身頃パターンの展開を行う。	資料を参考にデザインを考えておく	1時間
第7回	アウターの制作 ・ 衿のパターンを引く。 ・ ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。	ジャケットに適した生地のリサーチを行う	1時間
第8回	アウターの制作 ・ 袖のパターンの基本を学ぶ。 ・ 個々でパターンを修正する。	ジャケットに使用したい生地見本を揃えておく	1時間
第9回	アウターの制作 ・ 縫い代付けを行う。 ・ 接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。	自分の持っているアウターを確認し、ディテールのバリエーションを考えておく	1時間
第10回	アウターの制作 ・ 布の地直しを行い、裁断をする。 ・ 表地、スレキ、芯地すべて裁断を終える。	生地や付属など必要なものを揃えておく	1時間
第11回	アウターの制作 ・ ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に入る。	パーツのロックミシン仕末を終えておく	1時間
第12回	アウターの制作 ・ 衿の縫製を説明後、各自縫製する。	衿付けを終えておく	1時間
第13回	アウターの制作 ・ 袖付けを説明後、袖を各自縫製する。	袖付けを終えておく、ボタンの大きさを確認しておく	1時間
第14回	アウターの制作 ・ ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる。 ・ ボタンホールをあけ、ボタンをつける。	ステッチ、ボタンホールまで終えておく	1時間
第15回	アウターの着装評価と提出 ・ 完成したアウターの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。 ・ 作品を提出する。	作品を完成させて提出を終える	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅲ				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか？後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。
スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。

目標：

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解し、衣生活に活用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
決められた期限の中で自分がデザインした制作物を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内制作課題1	30%	： スカート：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
授業内制作課題2	50%	： ジャケット：衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
作業計画の自己管理	10%	： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。
定期試験（作品）	10%	： 作品の内容で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	スカートの原型 ・ デザインパターンの作図 ・ スカートの原型の製図方法を学ぶ。 ・ スカートのデザインパターンの製図方法を学ぶ。	デザインするための資料を集める。 1時間
第2回	自分のスカートパターンの作図 ・ 原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。	デザインを考えておく 1時間
第3回	スカートの製作 ・ 布の地直しをする。 ・ スカートの製作に使用する布の裁断。 ・ ファスナー付けなど基礎縫いの説明。	使用する生地や付属を揃えておく 1時間
第4回	スカートの製作 ・ ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。 ・ デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理解する。 ・ ベルト芯、芯地の必要性と扱い方を理解する。 ・ カギホックの付け方を説明後、実習をする。	今週の予定を終えておく 1時間
第5回	スカートの製作 ・ 完成したスカートの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。 ・ スカートを着装し評価する。	ジャケットをデザインするための資料を集めておく 1時間
第6回	アウターの製作 ・ 製作するアウターのデザイン分析を行う。 ・ 身頃パターンの展開を行う。	資料を参考にデザインを考えておく 1時間
第7回	アウターの製作 ・ 衿のパターンを引く。 ・ ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。	ジャケットに適した生地のリサーチを行う 1時間
第8回	アウターの製作 ・ 袖のパターンの基本を学ぶ。 ・ 個々でパターンを修正する。	ジャケットに使用したい生地見本を揃えておく 1時間
第9回	アウターの製作 ・ 縫い代付けを行う。 ・ 接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。	今週の予定を終えておく 1時間
第10回	アウターの製作 ・ 布の地直しを行い、裁断をする。 ・ 表地、スレキ、芯地すべて裁断を終える。	生地や付属など必要なものを揃えておく 1時間
第11回	アウターの製作 ・ ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に入る。	今週の予定を終えておく 1時間
第12回	アウターの製作 ・ 衿の縫製を説明後、各自縫製する。	今週の予定を終えておく 1時間
第13回	アウターの製作 ・ 袖付けを説明後、袖を各自縫製する。	今週の予定を終えておく 1時間
第14回	アウターの製作 ・ ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる。 ・ ボタンホールをあげ、ボタンをつける。	今週の予定を終えておく 1時間
第15回	アウターの着装評価と提出 ・ 完成したアウターの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。 ・ アウターを着装し評価する。 ・ 作品とレポートを提出する。	今週の予定を終えておく 1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅳ				
担当教員名	藤崎美和				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	和裁実務経験 17年(着物縫製をしています)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。和裁の基本的な縫い方（運針と基礎縫い）を1から学んだり、1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。ゆかたの縫製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

着付けときものたたみ方を学ぶ

目標：

着装を習得する。和服のマナーについても考えることができる。

汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

協同学習を通して協調性を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（作品）	50%	： 作品の内容で採点する。
着付けテスト	10%	： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
提出物	10%	： 感想文やプリントの提出の内容で採点する（20点満点）。
受講態度	10%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
創作小物	20%	： 創作小物の提出の内容で採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「和裁縫製」発行者：社団法人 日本和裁士会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後
場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業後以外で質問がある場合は助手にお伝えください。後日返答いたします。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	おくみ標つけ・おくみの柄あわせ、襟下くけ（1本目） おくみの柄をあわせて、おくみの標をつける。 襟下のくけを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第2回	襟下くけ（2本目）・前身ごろの標とおくみつけ（1本目） おくみのつけ方と始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第3回	おくみつけ2 おくみのつけ方と始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第4回	おくみくけ（1本目・2本目） おくみの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第5回	衿標つけ・衿の部品を準備 衿の標つけを学び、衿つけに備える。 創作小物を考える。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第6回	衿つけ（下前半分）・額縁と裾くけ 衿のつけ方を学ぶ。 裾くけを学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第7回	衿つけ（上前半分）・裾くけ（つづき） 衿つけを学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第8回	衿の始末（掛衿間くける） 掛衿間の衿の始末を学ぶ。 創作小物を製作する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第9回	衿先留 衿くけ（衿先まわり） 衿先の始末を学び、衿をくける。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第10回	袖つけ1・2 袖付けを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第11回	袖つけ始末1・2 袖付けの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。 創作小物を制作する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。 1時間
第12回	袖つけ始末2（つづき）とアイロン仕上げ 袖付けの始末をする。 アイロンで仕上げをして、浴衣のたたみ方を学ぶ。	完成した浴衣を提出する 1時間
第13回	浴衣の仕上げと創作小物の提出 アイロンで仕上げをして、浴衣のたたみ方を学ぶ。 創作小物を提出する。	創作小物を提出する 1時間
第14回	ビデオ鑑賞と着付け練習 ビデオ鑑賞で着付けを学ぶ（プリント提出） 着付けの練習をする（帯結び）。	浴衣を縫い上げた感想文を提出する。 1時間
第15回	着付けとたたみ方の練習2 着付けと浴衣をたたむ練習をする。	着付けに必要な小物を次の授業までに準備しておく。 1時間
第16回	着付けテストと試験（作品提出） 着付けのテストをする。 作品（浴衣、創作小物、プリント）を仕上げて提出する。	作品を仕上げて提出する 1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅳ				
担当教員名	水谷祥子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるという意識を持てるようにする。1年の後半であるこの授業では、前期に得た知識・技術をもとにゆかたを縫い上げる。着付け実習を実施し、着装についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

具体的内容：

ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。

目標：

自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。

習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験（ゆかた製作）

70%

実技テスト（襷先縫い）

15%

受講状況

5%

ゆかた巾着

10%

評価の基準

： ゆかたを製作し、身頃、衿、袴各20点、仕上げ10点で、それぞれの部分を4つのポイントについて見る。正確さ、美しさなどの観点から評価する。

： 班で協力し合えたか（5点）、正確に理解できたか（5点）、最後まで縫い上げられたか（5点）の観点で評価する。

： 各回授業に積極的に取り組んでいるか、授業態度（受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物、授業で使用したプリント提出状況等）を減点方式で評価する。

： 進度、正確さ、美しさを見て評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修（ナツメ社、2015年）
その他、授業時に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間に教室で質問してください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	脇縫い 脇縫いの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。脇縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。プリントの脇割りの所を読んでおく。 1時間
第2回	脇縫い始末1（脇割り） 縫いしろの割り方、くけ方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖つけと脇の耳ぐけの所を読んでおく。 1時間
第3回	脇縫い始末2（袖つけ、脇耳ぐけ） 縫いしろのくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽つけの所を読んでおく。衽つけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。 1時間
第4回	衽標つけ 衽つけ 衽の標つけと縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽下ぐけの所を読んでおく。衽下ぐけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。 1時間
第5回	衽つけ縫いしろの始末 衽下ぐけ 縫いしろのくけ方と衽下のくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽つけの所を読んでおく。衽つけ縫いで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。 1時間
第6回	衽標つけ 衽つけ1（衽つけ縫い） 衽下ぐけ 唯一立体的な構成となる衽についての説明を聞いた後、標のつけ方について学習し、衽の標つけを仕上げる。衽つけの待ち針の打ち方、縫い方、注意点について学習し、衽つけ縫いを仕上げて提出する。衽下ぐけを縫い上げる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの三つ衽芯、衽先縫いの所を読んでおく。 1時間
第7回	衽つけ2（三つ衽芯、衽先縫い） 三つ衽芯のつけ方、衽先留めの縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽ぐけの所を読んでおく。 1時間
第8回	衽くけ 衽のくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。衽先縫いの資料を集めておく。プリントの衽先縫いと裾くけの所を読んでおく。裾くけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。 1時間
第9回	衽先縫いテスト 裾くけ 授業までに集めた資料等を参考に、班のメンバーで話し合いながら助け合って、衽先縫いをテスト用布に各自縫い上げ提出する。その後、正確に縫えているかを確認しながら、ゆかたに実践する。裾くけについても学習し、続けて縫い上げる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。次回の巾着作りのため、残布の量を確認し、残布に合う色合いの布やひもを選び、必要があれば購入しておく。巾着のプリントを読んでおく。 1時間
第10回	ゆかた巾着作り1（裁断） ゆかたの残布を使い、リバーシブルの巾着を作る。配色を考え、用意してある型紙を使って、各部分を裁断し、縫い始める。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。巾着に使用する縫い方を調べておく。 1時間
第11回	ゆかた巾着作り2（縫い上げ） 前回に引き続き、ゆかたの残布を使った巾着を作る。各部分を縫い方に気を付けながら縫い上げていく。ゆかたで使わなかった縫い方や方法についても学習する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖つけの所を読んでおく。袖つけに使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。 1時間
第12回	袖つけ 袖つけの縫い方、袖の縫いしろとふりのくけ方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。今までの授業でまだできあがっていない所があれば仕上げる。プリントの仕上げ、たたみ方の所を読んでおく。 1時間
第13回	仕上げ たたみ方 正確に縫えているかを点検、確認し、評価する。問題のある箇所については縫い直す。アイロンのかけ方、たたみ方について学習し、実習する。ゆかたを縫い上げた感想と気づいた点、反省点を文章にまとめる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。着付けのための服装、補正用タオル等を準備しておく。 1時間
第14回	和服について ビデオ鑑賞 着付け練習1 着付けのための準備物と補正について学習する。着付けについてのビデオを観て、要点をプリントにまとめる。ゆかたの着方と帯の結び方を練習する。	一人でゆかたを着付けられるように、家で着付けの練習をしておく。和服での立ち振る舞いやマナーについて考えながら、プリントを読んでおく。 1時間

第15回	<p>着付け練習2 発表</p> <p>前回の授業で学び、練習したことをふまえ、作ったゆかたを実際に自分一人で着付ける。 その後、ゆかたを脱ぎ、たたんで片付けるところまでを実習する。</p>	<p>早く、きれいに、着くずれないように着付けられるよう、繰り返し練習する。ゆかたをきちんとたたみ、正しく保管できるようにする。</p>	1時間
第16回	<p>ゆかた、ゆかた巾着の提出</p> <p>ゆかたを仕上げて提出する。 ゆかた巾着を仕上げて提出する。 また、これまでに未提出の物も合わせて提出する。 提出された物は、それぞれの方法で評価する。</p>	<p>授業内に仕上がらなかった場合は、状況に応じて提出期日を定める。</p>	4時間

授業科目名	被服整理学				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日常生活と非常に関連の深い衣料品について、その素材特性から使用・保管に至る衣料品の取り扱い方について、生活と密着させて考える。最初に、衣服に付着する汚れの種類や特徴について解説した後、それらを除去するための理論について解説する。特に「洗浄」については重点をおき、界面活性剤の特性や洗浄メカニズムを科学的に理解するために、実例を提示しながら解説する。また、日進月歩する機能性を有する衣料品開発について、その最先端の技術を紹介し、将来の衣料品についても考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

衣料管理の中でも特に洗浄と堅牢性に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付ける。

目標：

日常生活において生じるさまざまな取扱いトラブル（色落ち、形状変化・強度低下等の力学的性質変化）について、自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

衣生活における諸事象について、受け身の理解姿勢ではなく原因を探る関心を持つことができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

ミニレポート

評価の基準

： 毎回5点満点として15回実施し、総計を60点満点に換算する。
自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点）
講義内容のみから記載されている（3点）
論点が的確ではない。（1点）

60%

特定テーマに対する課題考察力

： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。
社会的背景も含めて考察出来ている（20点）
授業内容のみで考察出来ている（10点）

40%

使用教科書

指定する

著者

榎本雅穂ら

タイトル

・ 繊維材料にフォーカスした生活材料学

出版社

・ アイ・ケイコーポレーション

出版年

・ 2018年

参考文献等

- 「ファッションと化学」日本化学会編（大日本図書）
「衣服管理の科学」片山倫子ら（建帛社）

履修上の注意・備考・メッセージ

日常の衣生活と密接に関連した授業内容であり、普段何気なく見過ごしている現象を再認識する授業でもある。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスパワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスパワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	衣料繊維の基礎事項（前編） ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。	授業で解説した、普段着用している衣服について、どのような役割の衣服か？について考え直す。	4時間
第2回	衣料繊維の基礎事項（後編） ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。	普段着用している衣服について、特にスポーツ時における着用の意味を普段の着用と比較しながら考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第3回	洗浄（汚れについて） 衣服に付着する汚れの種類について解説し、それらがどのような性質を有するかについて理解する。その知識により、日常生活での汚れと洗浄についての関係を理解する。	普段の洗濯の際に、何を考慮すべきかを考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第4回	洗浄（界面活性剤について） 界面活性剤とは何かを説明し、身の回りに種々の形で存在する界面活性剤について、その特徴や性質、使い分け方法について講義する。	界面活性剤とは何かを考える	4時間
第5回	洗浄（界面活性剤について及びビルダーの効果について） 主として合成洗剤に含まれている種々の添加剤について、その役割と混在させる意味を解説し、洗浄剤についての理解を深める。	洗浄剤に含まれる添加剤の意味を理解し、洗剤の種類の違いによってどのような洗濯効果が得られるか？を考える。	4時間
第6回	洗浄（ビルダーの効果および洗浄機構） 洗浄助剤の有無による洗浄効果への影響や、人間の感性からみた汚れ落ちと科学的な観点から見た汚れ落ちの差について解説する。	人間は何をもって汚れが落ちたと感じるかにいて考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第7回	洗浄（洗浄機構） 洗浄において、親水性および油性それぞれの汚れの除去メカニズムについて解説し、日常生活における効果的な洗浄を理解する。	普段の洗濯を効果的に行うためにはどのようなことを考慮すべきか、について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第8回	仕上げと保管（1） シーズンオフにおける衣服の保管方法について、その意味や重要性を解説する。	普段の日常生活における衣服の収納方法を考え直す。	4時間
第9回	仕上げと保管（2） シーズンオフの衣服の保管方法について、保管中におけるトラブルとその対処法について講義する。	衣服の保管時におけるトラブルを思い起し、その原因について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第10回	精練と漂白（1） 精練と漂白の根本的な違いと、そのメカニズムの相違について理解する。また、蛍光増白剤の効果についても解説する。	消費者が考える白さと、科学的な白さの違いについて復讐しておく。	4時間
第11回	精練と漂白（2） 実際の糸状態での精練・漂白操作と、布状態での精練・漂白の工程について解説し、その工程の違いを理解する。	精練・漂白の具体的手段について、日常生活で行っている方法と比較する。	4時間
第12回	加工（一般仕上げ） 繊維製品の後加工として、現在工業的に行われている加工工程について解説する。また、それらの加工により、日常の衣生活にどのような効果がもたらされているかについて理解を深める。	素材そのものの性質を引き出すために、どのような加工が施されているかを調べておく。	4時間
第13回	加工（特殊加工1） 繊維製品に機能性を付与するために、現在行われている手段について解説する。	特定の性能を付与するための加工手段と繊維の性状変化を考えておく。	4時間
第14回	加工（特殊加工2） 繊維製品に機能性を付与するために、現在研究されている最新技術を紹介し、将来どのような技術が望まれるかについて考える。	将来の快適な衣生活のために考えられる加工を議論できるようにする。	4時間
第15回	衣服管理の総括 快適な衣生活と環境をテーマに今までの講義内容全般を総括し、グループ毎にそのテーマに対する課題提議をしてもらった上で討論を行う。	今後の衣生活をどのようにとらえるかについて考えてみる。	4時間

授業科目名	食物学				
担当教員名	小島ゆかり				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	管理栄養士として学校教育に携わる。(全15回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

私達が生活している社会は日々変化し、それに伴い食生活も変化している。健康で、心豊かな生活を創っていくために、「食物」について学習することは、意義深いことであり、生きる力に繋がっている。「人と食物」「健康と栄養」「食品の栄養と調理」「食の安全」「これからの食生活」「環境問題」など様々な角度から、「食物」領域について、自分たちの食生活を振り返りながら理解を深めていく。基礎的な必要知識を学習し、さらに発展させながら実生活に役立つ能力を身につけることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食に関する知識	食生活全般に関する基礎的な知識を身につけることができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	よりよい食生活を送るための方法	身につけた知識をもとに、自身および社会の「食」に関する問題点を明確にし改善策を考えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		食生活上の問題点を明確にすることができる。
2．DP8. 意思疎通		問題点と改善策を自分なりに考え、意見を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小レポート	20%	: 内容により、各回0～2点で評価する。
課題レポート	10%	: 自分の意見・考えを含めて詳しく書かれているかについて評価する。
定期試験	40%	: 主に知識に関する筆記試験を行う。
授業態度	30%	: 授業への積極的な参加、受講態度などを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「新しい食物学」加藤・長沼(南江堂)、「入門食物学」三好(培風館)、「栄養と健康」(建帛社)、「食物科学概論」的場(朝倉書店)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスパワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業前後の休み時間、非常勤講師室でも対応します。

授業計画			授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	青少年の食生活と自立 <ul style="list-style-type: none"> 健康を支える三本の柱を理解する。 健康に良い食習慣を知る。 子供の食の問題点を知る。 	食生活が関係する問題点について自ら調べる。	4時間
第2回	栄養素の種類と働き <ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きを理解する。 五大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン）を学ぶ。 水、食物繊維について学ぶ。 	栄養素の体内での働きをノートにまとめる。	4時間
第3回	食品の栄養的特質と青少年に必要な栄養の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養成分を知る。 基礎食品群を学ぶ。 栄養素の欠乏症・過剰症を理解する。 	青少年に必要な栄養の特徴をノートにまとめる。	4時間
第4回	食生活指針と食の選択 <ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の選択、加工食品の選択について理解する。 食品添加物について学ぶ。 食品表示を理解する。 	食品の選択方法をノートにまとめ実践する。	4時間
第5回	食品の衛生 <ul style="list-style-type: none"> 家庭内で調理して食べるまでの安全性について学ぶ。 食中毒について理解する。 食中毒予防三原則について知る。 	食品の取り扱いの重要性をノートにまとめる。	4時間
第6回	野菜・果物の特徴・栄養・調理 <ul style="list-style-type: none"> 野菜の特徴・栄養、吸水性や放水性、色素、あくを学ぶ。 果物の特徴・栄養を学ぶ。 褐変現象を理解する。 	野菜・果物の特徴を整理し保存方法をノートにまとめる。	4時間
第7回	穀類の特徴・栄養・調理 <ul style="list-style-type: none"> 米の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。 麦の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。 雑穀の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。 	穀類の特徴をノートにまとめる。	4時間
第8回	魚介類の特徴・栄養・調理 <ul style="list-style-type: none"> 魚類の特徴・栄養・調理について理解する。 貝類の特徴・栄養・調理について理解する。 魚介類の切り方を学ぶ。 	魚介類の特徴をノートにまとめる。	4時間
第9回	肉・乳類の特徴・栄養・調理 <ul style="list-style-type: none"> 獣鳥鯨肉類の特徴・栄養・調理について理解する。 肉の加熱による変化を学ぶ。 牛乳・乳製品の特徴・栄養・調理について理解する。 	肉類、牛乳・乳製品の特徴をノートにまとめる。	4時間
第10回	いも類、豆類、卵類の特徴・栄養・調理 <ul style="list-style-type: none"> いも類の特徴・栄養・調理について理解する。 豆類の特徴・栄養・調理について理解する。 卵類の特徴・栄養・調理、卵の凝固性について理解する。 	いも類、豆類、卵類の特徴をノートにまとめる。	4時間
第11回	調理とおいしさ <ul style="list-style-type: none"> 食物の味について理解する。 味の相互作用（対比効果、抑制効果、相乗効果、変調現象）を学ぶ。 調味と調味料を学ぶ。 	食物の味について課題レポートを作成する。	4時間
第12回	地域の食文化 <ul style="list-style-type: none"> 日本の風土と食について知る。 地産地消、スローフード運動を理解する。 郷土料理について学ぶ。 	食文化について課題レポートを作成する。	4時間
第13回	より豊かな食生活 <ul style="list-style-type: none"> 自分にあった食生活を理解する。 食事を楽しむために、料理、盛り付け、雰囲気について学ぶ。 食事のマナーを知る。 	食生活の重要性を食事全体から考察する。	4時間
第14回	食生活と環境問題 <ul style="list-style-type: none"> 日本の食糧事情を知る。 地球規模で考える食の課題について理解する。 環境問題について私たちにできることを学ぶ。 	環境問題について調べる。	4時間
第15回	総括・自分たちの食生活の見直し・課題発表 <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の総括をする。 自分たちの食生活を振り返り、見直す。 	これまで授業で学んだことをノートに総括する。	4時間

授業科目名	販売論				
担当教員名	里谷 理恵				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ダンスコンテスト、ヘアコンテスト、ショーなどにおける衣装の製作と販売の事業を運営。音楽業界、ダンス業界など異業種とのプロジェクトを立ち上げ、運営。大学で学んだ心理学（認定心理士資格）を活かし、衣装製作を通して、クライアント様に寄り添い共に結果につなげることを目指している。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ファッション販売、ファッションビジネスにおける基本的知識の学びを深める。接客や販売技術、ブランドのブランディングについて学ぶだけでなく、自身のブランディングについても、客観的に考察しプレゼンテーションできる力を身につける。基本的知識を学び理解した上で、よりホスピタリティのある対応はあるのか、その方法について考察し共有することで、理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	ファッション販売技術や商品知識を学ぶ。	ブランドを分析することができ、同時にファッション販売における自身のブランディングについても考察できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	アパレル業界の職業、ファッション販売、ファッションビジネスの知識を深める。	接客スキル、販売技術のスキルを身につける。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		販売技術、商品知識の理解をもとに、現代社会の多様化されるニーズや価値観に合わせたマーケティング、協働する提案を考察することができる。
2．DP6. 行動・実践		多様化する価値観や販売形態を学び、何が自分にとって良いのか、自分で責任を持って選び決めることができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		接客や販売における心理や技術の学び、グループワークにより、コミュニケーション力や自身の個性のブランディングについても考察することで、相互理解につながる意思疎通が円滑にできる。
4．DP10. 忠恕の心		ブランドをリサーチし、ファッション販売における自分の意見や価値観についてもプレゼンテーションができ、相互理解ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)
 - 講義の他に、課題レポート作成やグループワーク、プレゼンテーションを実施します。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
課題レポート	45% : レポートの内容及び考察を加味し、5段階評価を行う。
グループワーク、プレゼンテーション	30% : 本学ルーブリックの基準に基づき評価する。
定期試験	25% : 筆記試験。「販売における基本的な知識を理解できる」「設問について適切な答えを書いている」などから評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大沼淳(2018)『ファッション販売3：ファッション販売能力検定3級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 大沼淳(2018)『ファッション販売2：ファッション販売能力検定2級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 大沼淳(2018)『ファッションビジネス〔I〕改訂版：ファッションビジネス能力検定3級の公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 『ファッションビジネス〔I〕改訂版：ファッションビジネス能力検定3級の公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 『ファッション販売』商業界、『販促会議』株式会社宣伝会議、石井貴士(2017)『勝てる場所を見つけ勝ち続ける 1分間ブランディング』ヨシモトブックス。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前夜

場所： 授業の教室

備考・注意事項： その他連絡を取りたい場合はEメール (boheurinfini311@yahoo.co.jp) まで。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ファッション販売の基礎知識 ファッション販売とファッションビジネスの基礎知識、小売業の業態などを学び、お店の在り方や備えるべきサービスを考察し、販売の基礎知識を深める。	4時間
第2回	ファッション販売技術の基本 挨拶、言葉使い、電話対応など販売スタッフの接客についてはもちろん、今後社会に出た時に役立つビジネスマナーを学ぶ。さらに心地良い、よりよいホスピタリティのある対応、仕事について今からできることを考察し、共有する。	4時間
第3回	購買心理に合わせた販売技術 第一回授業外学習での、接客や購買意欲の心理などについてまとめたレポートを共有し再考察する。購買心理に合わせた接客段階を理解し、そこから求められるコミュニケーション力を考察する。	4時間
第4回	接客心理とその対応 お客様のタイプ別の事例を挙げ、接客時の心理について学び、ホスピタリティのある接客とはどういうことか、考察し理解を深める。	4時間
第5回	接客心理とコミュニケーション力 接客会話、アプローチ、ニーズ確認など接客の要点を学ぶ。	4時間
第6回	ファッション業界と販売におけるサービスとホスピタリティ ファッション業界について学んだ上で、接客販売だからこそこのサービスとホスピタリティとは何か、考察する。	4時間
第7回	ブランドについて コンセプト、ターゲット、ショッパイメージ、ブランディング、販売方法について事例を挙げて学ぶ。	4時間
第8回	ブランドリサーチの発表 販売員に必須の情報や知識として、第5回授業内容に基づき、自分の好きなブランドをインターネットや雑誌を使って調べ、プレゼンテーションをする。	4時間
第9回	接客販売の価値と売れるスタッフ 販売チャネルが多様化する中、接客販売が持つ強みの活かし方、売れるスタッフになるにはどうすべきか、を考え共有する。	4時間
第10回	MD:マーチャンダイジング 売り場やサイトについてのレポートを基に、MD(商品計画)の基礎知識を学び、小売業態の種類、プロモーションなどについて、情報を集め考察する。	4時間
第11回	MD発表 シーズンごと、月ごとに売り場での商品販売計画を立て、グループで発表し、情報を共有し再考察していく。	4時間
第12回	店舗運営・管理	4時間

	仕入れ、在庫管理、予算、人材育成、コンプライアンスについての基本的知識を学び、業務内容を通して、会社にとっての販売力の重要性について理解を深める。		
第13回	販売スタッフの業務とキャリアプラン 販売業務だけでなく、管理業務やアパレル業界の職種とその仕事について学び、どの業界や職種でも重要となってくる自己啓発やキャリアプランについても考察する。	将来の夢や目標、こうなっていたい自分像はどんなものかを考え、キーワードとイメージ素材を使って、ヴィジュアルボードで表現する。	4時間
第14回	販売促進技術 顧客獲得、リピート率のアップにつがることはなにか考察し販売促進方法を学ぶ。	チャトルシートを作成する。	4時間
第15回	ブランディング 会社、ブランド、お店の価値や見せ方を学び、事例を調べて考察する。授業を通して、セルフブランディングについて考察する。気づいた点、今後につなげたい課題点、自身の自己啓発などをふまえて理解を深める。	今後のセルフブランディングのために、自分の好きなことなどについて自己分析レポートにまとめる。	4時間
第16回			時間

授業科目名	ドローイング演習				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ファッションの専門的な学びとして、ファッションドローイングの表現技術を習得することを目的とします。ファッション表現の第一歩となるデザイン画を描くために、衣服を身につける人体のプロポーションを理解し、様々なポーズ、顔やヘアスタイルの描き方を学びます。そして、洋服の着装方法や画材を使用しての着色技法を習得します。その後、トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションの専門的な知識、技能としてファッションドローイングの表現を学ぶことができる。

目標：

トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

ファッションの専門的なドローイング技術、知識を学ぶことで、将来ファッション業界で活躍するために、今の自分に足りていないことを学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

T-SHIRTコンテストの提出物

評価の基準

： T-SHIRTコンテスト提出物の完成度、現代性を評価します。

25%

最終提出物

： ウェディングドレスのデザイン画の完成度、現代性を評価します。

20%

課題提出

： 複数回、授業内課題の提出の完成度で評価します。

30%

定期試験（作品提出）

： 課題の完成度、現代性を評価します。

25%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高村是州著 『ファッションデザインテクニック』 グラフィック社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日・木曜日・金曜日

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 授業前後、オフィスアワーで対応します。

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	デザインとドローイングの概要説明 ファッション業界の中でのデザインとドローイングの役割を学ぶ。 自由なテーマでスタイル画を描く。	スタイル画の修正をしておく。	1時間
第2回	基本プロポーションと着装 リアルな女性とデザイン画で描く女性のプロポーションの違いを学ぶ。 スードを描く時の重要なポイントになる身体の向きと体重移動を学ぶ。	身体の向きと体重移動の関係を復習しておく。	1時間
第3回	応用プロポーションと着装 身体を中心線、重心線、身体の向きを理解し、ポーズのバリエーションを学ぶ。 スカート・トップスの着装姿を描く。	布の動きの描き方を復習しておく	1時間
第4回	顔・ヘアスタイル・ボディパーツの描き方 正面向きの顔の描き方(目・耳・鼻・口)とヘアスタイル、手、足の表現を学ぶ。	自分の好きな顔を描けるように復習しておく	1時間
第5回	アウトラインの描き方 デザイン画の輪郭線となるペン入れを学ぶ。 ペンの種類と用途を説明。	ペンの種類と用途を理解しておく	1時間
第6回	着色表現 画材の種類と用途、着色表現を学ぶ。 目的に応じた選び方と仕上がりの違いを説明。	画材ごとの特徴を理解しておく。	1時間
第7回	シルエットとファッションアイテムの理解 シルエットの種類、服のフォルム構成を学び、生地の動き、ドレープ、フレアー、ギャザーなどの表現を学ぶ。	ドレープ、フレアー、ギャザーを描けるように復習する。	1時間
第8回	テキスタイル表現1 ドット柄・花柄などプリント柄の表現を学ぶ。	プリント柄ごとにどのような画材が適しているか理解する。	1時間
第9回	ファッションイメージの表現 いろいろなファッションテイストのイメージを、ポーズ、ヘアスタイルや表情、メイクでステップアップさせる表現を学ぶ。 ストライプ柄、チェック柄の説明と描き方。	ポーズ時の重心の位置を復習し、自然なポーズを理解する。	1時間
第10回	テキスタイル表現2 トレンドの素材や、デニム、ツイード、ファー、アニマル柄の表現を学ぶ。	学んだ素材表現を復習しておく。	1時間
第11回	デザイン表現1 スカート・パンツ・シャツ・ジャケットなどのアイテム画を学ぶ。	人体に乗った布地の動きを復習する。	1時間
第12回	デザイン表現2 Tシャツデザインコンテストのデザイン・イラスト表現。	コンテスト課題を仕上げておく。	1時間
第13回	オリジナルテーマからのデザイン展開1 オリジナルのウェディングドレスのデザインを学ぶ。 シルエット・ディテール・バランスを説明。	テーマに必要なリサーチを行う。	1時間
第14回	オリジナルテーマからのデザイン展開2 ウェディングドレスの着色方法を学ぶ。 画材の使い方を説明。	ドレスのボリューム感を描けるように復習する。	1時間
第15回	まとめ 前回までの技術の総まとめをし、デザイン画仕上げの総括をまとめる。	デザイン画を仕上げておく。	1時間

授業科目名	パターンメイキングⅠ				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣服の構造を理解し、平面（生地）から立体（洋服）へとイメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。各種デザインへの発展を目的にデザイン・素材に応じたパターン展開とディテールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテムのトワール組み立て（仮縫い）を行い洋服の構成を学ぶ。また、各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、製品用パターン（工業用パターン）の制作とデザインを明確に他者に伝える為の縫製仕様書の作成を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

パターン用語・パターン記号などの専門知識、ダーツ移動などの基礎展開を習得する。
各アイテム毎にトワールの組み立てを行いシルエット確認を行う。

目標：

デザインに応じたパターンの制作が出来る。
履修内容を用いてデザイン上で必要なパターン修正が出来る。
期日までに各アイテムのパターン・トワールの制作が出来る。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1	25%	： 基礎的なパターン展開力・スカートのパターン・トワールの完成度で評価する。
授業内課題2	25%	： パンツの構造の理解。パンツのパターン・トワールの完成度で評価する。
授業内課題3	25%	： シャツのパターン・トワールの完成度、衿や袖などの構成の理解度で評価する。
授業への取り組み	10%	： 積極的参加・受講態度
定期試験	15%	： スカートシルエットパターン展開（1/2作図）実技試験の出来を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間限りの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる自習の時間
第1回	パターンメイキング基礎知識・スカート原型 パターンメイキングとは？ パターンメイキング基礎（各部名称・採寸方法・定規の使い方説明） スカート原型作成・セミタイトスカートパターン展開・縫い代付け・パターンカット	セミタイトスカートパターン展開復習 2時間
第2回	セミタイトスカートトワール組み立て シーチングの地直し・裁断・トワール組み立て・シルエット確認	トワールを完成させておくこと 2時間
第3回	スカートバリエーション（1/2原型使用） Aラインスカートパターン フレアースカートパターン ギャザースカートパターン	各シルエットパターン展開復習 2時間
第4回	スカートバリエーション（1/2原型使用） ヨーク切り替えスカートパターン プリーツスカートパターン マーメイドスカートパターン	各シルエットパターン展開復習 2時間
第5回	パンツ キュロットパンツ原型作成・パンツ原型作成	パンツ原型展開復習 2時間
第6回	パンツバリエーション（1/4原型使用）・タックパンツ（実寸） スリムパンツ・ブーツカットパンツ・ワイドパンツ（1/4） タックパンツパターン展開・ポケット部分・本股明き部分（実寸）	ポケット・ファスナー部分の構造を調べておく 2時間
第7回	パンツトワール組み立て準備 タックパンツパターンパーツ抜き取り・縫い代付け・シーチング裁断	必要なパーツに接着芯を貼っておく 2時間
第8回	パンツトワール組み立て パンツトワール組み立て（ポケット部分・パンツ本体）	ファスナー付けの出来る状態まで仕上げしておく 2時間
第9回	パンツトワール組み立て 本股明き部分（ファスナー付け）・ベルト付け・裾始末	トワールを完成させる 2時間
第10回	ダーツマニピュレーション 身頃ダーツ移動・分散・分割	各ダーツの名称を覚える 2時間
第11回	ベーシックブラウス 身頃と袖の関係性・袖山の高さについて説明 ブラウスパターン （サイドダーツ・ウエストダーツ・ステンカラー・パフスリーブ・カフス）	各パーツの写し取り（清書） 2時間
第12回	ベーシックブラウス トワール組み立て準備 ブラウスパターン縫い代付け・パターンカット・シーチング裁断	見返し・衿・カフスに接着芯を貼っておく 2時間
第13回	ベーシックブラウス トワール組み立て ブラウストワール組み立て（身頃・衿付け・後ろ衿ぐりバイヤステープ始末）	様々な衿付けの縫製方法を調べておく 2時間
第14回	ベーシックブラウス トワール組み立て ブラウストワール組み立て（袖付け・袖口見返し始末・カフス付け）	様々な袖付けの縫製方法を調べておく 2時間
第15回	ベーシックブラウス ブラウストワール組み立て完成 裾始末（三つ折り始末）・アイロンかけ 縫製仕様まとめ	実技試験の準備を各自しておくこと 2時間

授業科目名	パターンメイキングⅡ				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書の作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣服の構造を理解し、イメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。各種デザインへの発展を目的に、デザイン・素材に応じたパターン展開とディティールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテム毎にトワールの組み立てを行い、衣服の構成や縫製について理解を深める。各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、工業用パターン・仕様書の作成を行う。後期授業では、前期で学んだ基礎展開を応用しワンピース・ジャケット・コート等の重衣料のパターン・縫製仕様を習得。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ワンピース・ジャケット等の素材・縫製に付いての知識を深める。

目標：

素材に応じたパターン展開が出来る

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

決められた時間内にジャケットの工業用パターン作成およびトワール組み立てが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題1

評価の基準

：ワンピースのパターン・トワールの完成度で評価する
(2型・各20%)

40%

授業内課題2

：テーラードカラー・二枚袖の構造の理解度、パターン・トワールの完成度で評価する。

35%

授業への取り組み

：積極的参加・受講態度

10%

定期試験

：身頃ダーツ移動(1/2原型使用)の実技試験の出来で評価する。

15%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間連続の授業を全15回(合計30時間)実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。パターンからトワール完成まで数回に分けて授業が進みます。休まないように出席する事が大切です。やむを得ず休んだ場合は時明き授業までに授業内容の確認をしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかかる目安の時間
第1回	衿バリエーション スタンドカラー・コンパティブルカラー・台衿付きシャツカラー・フラットカラー・フード	様々な衿のデザイン・縫製方法を調べておく 2時間
第2回	袖バリエーション フレアスリーブ・パフスリーブ・チューリップスリーブ・ラグランスリーブ	様々な袖のデザイン・縫製方法を調べておく 2時間
第3回	フィット&フレアワンピース 身頃パターン（パネル切替）・フラットカラー・パフスリーブ	ダーツの移動方法を復習しておく 2時間
第4回	フィット&フレアワンピース ワンピースパターン 縫い代付け・パターンカット	シーチングにアイロンをかけ、地直しておく 2時間
第5回	フィット&フレアワンピース シーチング裁断・組み立て（身頃・衿付け）	様々なパネル切替ワンピースのデザイン・素材を調べる 2時間
第6回	フィット&フレアワンピース 袖付け・カフス付け・裾始末・裏地説明	トワールを完成させておくこと 2時間
第7回	ビスチェワンピース ビスチェワンピース（1/2原型使用） 身頃パターン・サーキュラスカート 縫い代付け・シーチング裁断	今週の予定を終えておく 2時間
第8回	ビスチェワンピース ビスチェワンピース（1/2原型使用） トワール組み立て	今週の予定を終えておく・テーラードジャケットのデザインを調べておく 2時間
第9回	テーラードジャケット テーラードジャケット 身頃ダーツ移動・パネルライン切替	ダーツ移動を復習しておく 2時間
第10回	テーラードジャケット テーラードジャケット テーラードカラー・表衿、見返し厚みだし	ショールカラーのデザイン・縫製方法を調べておく 2時間
第11回	テーラードジャケット テーラードジャケット 二枚袖（明きみせ） 二枚袖の構造について説明	袖口本明き始末の仕様を調べておく 2時間
第12回	テーラードジャケット テーラードジャケット パーツ抜き取り・縫い代付け・パターンカット	シーチングにアイロンをかけ、地直しておく 2時間
第13回	テーラードジャケット トワール組み立て準備 シーチング裁断・接着芯貼り	今週の予定を終えておく 2時間
第14回	テーラードジャケット トワール組み立て トワール組み立て（身頃・衿）	今週の予定を終えておく 2時間
第15回	テーラードジャケット トワール組み立て・完成 トワール組み立て（二枚袖・裾始末・衿ぐり中とじ） アイロンかけ	実技試験の準備としてダーツ移動の復習を各自しておく。 2時間

授業科目名	ファッションアイテム演習				
担当教員名	林 塔子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

現代の生活の中には様々なデザイン、ファッションがあふれています。この授業ではファッションコーディネートに欠かせないアクセサリや小物を実際にデザイン・制作をする事を通して、自己の「美」に対する意識を育て、素材に対する興味や発想力を深めます。ニードルフェルト・織等の技術を習得する事を通して、自分なりの工夫や考える力、最後まで取り組む忍耐力、そして身の回りにある物がどのように作られているのかという事に改めて気づく新しい視点が生まれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP7. 完遂

具体的内容：

フェルト・織の技術を理解し、技術を生かすデザインを考えることができる。

目標：

身の回りにあるもののデザイン・技術・素材に対するの興味が生まれる。

習得した技術を工夫しながら次の制作に生かすことができる。

最後まで各課題を根気よく丁寧に仕上げる事ができる。仕上げの大切さを認識する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： ニードルフェルト（基礎）10点・（応用）15点・枠織15点・平織りマフラー30点の計70点で評価する。

70%

受講状況

： 各授業への積極的参加（作業への取り組み意欲や工夫などは加点）・受講態度（受講マナーや私語など、授業を妨げる行為は減点）を総合的に評価する。

20%

定期試験（作品提出）

： 定期試験での課題の提出を以って評価する。10点

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内容説明の補足として、サンプル、プリントなどを提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。予習として次週の作業がスムーズに進むようプリントの当該箇所を読み、準備すること。授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室又は研究室

備考・注意事項： 質問には授業の前後にも答えます。

授業計画	全体の説明と練習課題（フェルトボール）	次週のイニシャルストラップのデザインを考える。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>授業の全体を通しての説明。</p> <p>次にニードルフェルトの技法説明。練習としてフェルトボールの制作。</p> <p>次の課題のニードルフェルト（基礎）・イニシャルストラップのデザインを考える。</p>	次週のイニシャルストラップのデザインを考える。	1時間
第2回	<p>ニードルフェルト（基礎）</p> <p>ニードルフェルトの技法の基礎としてイニシャルストラップを制作。</p> <p>技法説明を理解し、デザイン計画をたて制作。</p>	次週のアクセサリーのデザインを考える。	1時間
第3回	<p>ニードルフェルト（応用）</p> <p>ニードルフェルトの技法によるペンダント、またはブローチの制作。</p> <p>基礎課題を踏まえ、アクセサリーのデザイン計画をたて制作。</p>	次週のアクセサリーのデザイン・仕上げについて考え、準備する。	1時間
第4回	<p>ニードルフェルト（応用）</p> <p>ニードルフェルトの技法によるペンダント、またはブローチの制作。</p> <p>仕上げ</p>	枠織のデザインを考える。	1時間
第5回	<p>枠織（プレスレット）の準備・制作</p> <p>枠織の技法によるプレスレットの制作。</p> <p>技法・道具の使い方の説明を理解し、経糸の色を決める。</p> <p>経糸を枠に張る。</p>	枠織のデザインを考える。	1時間
第6回	<p>枠織（プレスレット）制作</p> <p>枠織の技法によるプレスレットの制作。</p> <p>デザインを考えながら、糸の色を選び織る。</p>	枠織の仕上げを考える。	1時間
第7回	<p>枠織（プレスレット）制作・仕上げ</p> <p>枠織の技法によるプレスレットの制作。</p> <p>枠織プレスレットの制作・仕上げ。</p> <p>次週からの平織りマフラーのデザイン・技法・経糸の計算の簡単な説明。（プリントを参照）</p>	平織の説明を理解できるようプリントの復習する。それを踏まえて次週のマフラーの構想を考える。	1時間
第8回	<p>平織り（マフラー）のデザイン計画・糸計算</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>マフラーのデザイン・技法・経糸の計算の説明。（数種類の経糸計算の例などをプリントにて提示。）</p> <p>デザイン計画をする。（次週までに糸を購入し、準備する。）</p>	糸計算のプリントを復習、理解する。糸をデザイン・計算通りに購入する。	1時間
第9回	<p>平織り（マフラー）の織機説明・経糸準備</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>織機の説明、及びマフラーの経糸整経</p> <p>デザインの通りに経糸をつくる。</p>	平織の技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第10回	<p>平織り（マフラー制作）の経糸準備</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>マフラーの経糸整経・経糸張り</p> <p>織機に経糸を通す。</p>	平織の技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第11回	<p>平織り（マフラー）経糸張り・糸巻き</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>マフラーの経糸張り・糸巻き</p> <p>経糸を織機に巻きとり、調子を整えて糸を張り、織る事ができる状態にする。</p>	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第12回	<p>平織り（マフラー）制作</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>卓上織機の織り方を理解する。</p> <p>デザイン計画通りに、緯糸を織る。</p>	平織技法の予習（次週のプリントを読み、理解する）・準備。	1時間
第13回	<p>平織り（マフラー）制作</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>デザイン計画通りに緯糸を織る。</p>	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第14回	<p>平織り（マフラー）制作・仕上げ</p> <p>平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用）</p> <p>マフラーを卓上織機で織りあげ、織機から外す。</p> <p>仕上げ（房をつくる）</p>	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第15回	<p>平織（マフラー）仕上げ及び総評</p> <p>マフラーの仕上げ。（房を作る）</p> <p>作品の総合合評</p>	自分の服に合わせて身に着けてみる。	1時間

授業科目名	テキスタイル基礎実験				
担当教員名	澤田和也・山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

被服材料学と被服整理学に関する分野の基礎的な実験を行い、繊維や被服材料の特性、消費性能について深く考える能力を養うとともに、被服の適切な取り扱いについて理解を深めるようにすることを目的とする。いずれの分野においても「日常生活と繊維」をキーワードに繊維の特性、消費性能に関わる種々の実験を通してその現象を体験する。また、実験に対する報告書の作成方法について基礎から習得し、論理的に実験現象を理解できる素養を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

- DP7. 完遂

具体的内容：

実験科学的に繊維を評価する手段の基礎を学び、実験操作の基礎を身に付けることができる

目標：

衣料管理士課程への基礎実験として、被服整理学関連および材料学関連の基礎実験スキルを身につける。

実験に失敗した場合の原因究明や対応策をグループで協力して考える力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験への取り組み状況	30%	： 実験に対する姿勢や意欲を重視するため、積極的に作業に参加しているか、主体的な行動ができているか、実験に集中して正しい操作を行っているかの点について評価する。
実験レポートの内容	40%	： レポートごとに、実験内容や操作法の習得度と科学的な観察や考察ができていないかを評価する。
定期テスト	30%	： 実技テストと筆記テストを行う。実技テストはすべて個人ごとに行い、90分間で実験に対する考察力を評価する。筆記テストでは実験内容の理解が到達目標に達しているかを確認する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	全体説明	前期の被服整理学における洗浄領域、アパレル繊維学の素材の種類について理解しておく	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	全体説明 テキスタイル基礎実験の整理分野、材料分野それぞれの内容について概説し、今後の実験実施方法について説明する。	前期の被服整理学における洗浄領域、アパレル繊維学の素材の種類について理解しておく	1時間
第2回	(材料分野) 説明、繊維の水分率 実験を行う上での注意点と、試料の採取方法、レポートの作成方法について説明する。また、各種繊維の乾燥前後の質量から水分率を求める。	繊維の種類によって繊維の水分率が異なることを繊維の分子構造から考える。	1時間
第3回	(材料分野) 繊維の形態観察、燃焼性 繊維の鑑別の基礎となる2つの手法を学ぶ。まず、顕微鏡により各種繊維の断面と側面の形態観察を行う。その後、種々の繊維を燃焼させ、その燃え方、煙や灰の状態などを観察する。	繊維の断面形状が繊維の光沢、繊維の手触り、繊維の染色性と関連していることを調べる。	1時間
第4回	(材料分野) 糸の太さ、より 糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。測定した糸の長さや質量から、糸の太さ(番手)を求める。また、糸のより方向を判定し、検燃器でより数を測定する。	身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている糸について表記されている番手と糸のより方向を調べる。	1時間
第5回	(材料分野) 織物の構造① 織物の構造特性を調べる手法を学ぶ。織物の厚さ、質量(目付)を測定し、含気率を計算する。また、織物の表面を観察し、その組織図を作成する。	織物の織構造の種類とその特徴について学習する。	1時間
第6回	(材料分野) 織物の構造② 織物の構造特性を調べる手法を学ぶ。糸密度、織り縮み率、織り糸太さの測定を行う。	織物のたて糸とよこ糸では異なる糸が用いられる場合が多い。織物を作る人は織構造、糸密度などをどのように設計しているのかを調べる。	1時間
第7回	(材料分野) 防しわ性、剛軟性 モンサント法により織物のたて方向およびよこ方向の防しわ度を測定する。また、45度カンチレバー法およびハートループ法による剛軟度測定も行う。	織物のしわの原因が何に起因しているのかを調べる。	1時間
第8回	(材料分野) 寸法安定性、まとめ 織物を水に浸漬し、その前後のたて方向およびよこ方向の長さから寸法変化率を求める。これまでの実験やレポートの総括を行う。	洗濯などで織物が縮むことが多い、原因を繊維の観点からと織構造の観点の両方から考えてみる。	1時間
第9回	(整理分野) 石けんおよび人工汚染布 JIS規格に従い、モデル人工汚染布を作成する。またそれを洗浄するための石けんの作成を行う。	モデル汚れの基本成分や、石鹸の構造を理解できるようになる。	1時間
第10回	(整理分野) 草木染による染色 種々の草木を用いて、媒染剤との組み合わせで色相変化を確認する。	媒染剤の役割について理解する。	1時間
第11回	(整理分野) 綿布の漂白、綿布の蛍光増白 綿布に対し、複数の漂白剤により漂白と蛍光増白操作を行い、目視と表面反射率測定によりその効果を確かめる。	目視と表面反射率による白さの違いを理解できるようになる。	1時間
第12回	(整理分野) 人工汚染布の洗浄試験 モデル人工汚染布(自作および、市販)を洗浄剤(自作石鹸および市販合成洗剤)で洗浄し、洗浄効果を確かめる。	洗浄による白度の向上を異なる洗浄剤により評価し、その違いの意味を理解する	1時間
第13回	(整理分野) ドライクリーニング溶液の特性 ドライクリーニングのしくみと洗浄性を確かめる。	水系洗浄と非水系洗浄の相違を理解する	1時間
第14回	(整理分野) 糸の合成(レーヨン・ナイロン)と染色の基礎 6, 10ナイロンおよび銅アンモニアレーヨンの糸を作成し、制作した糸の染色を試みる。	界面重合反応の概要を理解できるようになる。再生繊維の基本的作成法を理解できるようになる	1時間
第15回	(整理分野) オパール加工と繊維の違いによる染色性の差 綿・ポリエステル混紡繊維に対して、綿の選択的除去を行い、染色性の差を確かめる。	混紡と交織の違い、繊維と染料の相性を知る	1時間

授業科目名	色彩学				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

普段、何気なく目にしていて風景や物体から受ける印象は、その色彩が変われば大きく変化することもあり、色は日常生活の様々な場所で非常に重要な役割を担っている。この授業では、将来ファッションの世界や日常生活のあらゆる場面で活用することのできる色彩の基礎的な知識と感覚を身につけることを目的とする。なぜ色が見えるのか？に始まり、色の表示法、色の心理的効果や視覚効果、配色理論に基づいた様々な配色、ファッションやインテリア分野での色の役割と活用事例について学ぶ。この学びが色彩検定2級の取得にも役立つ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	色彩がアパレルのファッションや生活のデザインとどのように関わっているかを学ぶ	色彩検定2級もしくは3級色が与える印象や効果について理解し、適切に活用することができる
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士2級を習得するために必要な色彩の知識を理解する	衣料管理士2級資格衣服のデザインやコーディネートをする際に、色彩知識に基づいた配色・コーディネートができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		色彩がファッションに与える課題を見つけることができる
2．DP5. 計画・立案力		アパレル制作やインテリアにおける配色を立案できる
3．DP6. 行動・実践		流行色を調査するために行動できる
4．DP7. 完遂		アパレルファッションに及ぼす色彩の役割を理解して、自分の学びや将来の仕事にかけるスキルを身につける
5．DP10. 忠恕の心		自分の良心に忠実であることと、他人に対する思いやりが深いことの忠恕の心の中で、色彩が人の心をなごませる力があること学ぶ

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。10回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
演習課題	: 授業外学習において、授業の内容を理解して、与えられた課題に対して適切な答えが得られているかどうかを評価する 色彩検定を取得するための学習も評価する
小テスト	: 授業の5回目と10回目に小テストを行い、授業がどの程度理解できているかを評価する
定期テスト	: 衣料管理士2級と色彩検定2級に必要な色彩配色を考える力があるかどうか、色相環・トーン図の配置や意味を理解できているかどうかを評価する。テスト90分間でノート、教科書など一切持ち込み禁止とする。

60%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
A・F・T対策テキスト編集委員会	A・F・T 色彩検定公式テキスト2級編	A・F・T企画	2010年
	日本色研 新配色カード199a	日本色研事業	2017年
桜井輝子	この1冊で合格! 色彩検定2級テキスト&問題集	新星出版社	2107年

参考文献等

日本色研事業『新配色カード199a』は必ず購入すること。授業中のアクティブラーニングで使用します。問題集もできる限り購入してください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

配色演習などの課題では『新配色カード199a』を使用します。各自購買部で購入してください。はさみ・のりを使用することがあります。必要な時は事前に連絡しますので、持参してください。

毎年6月ならびに11月に行われる「色彩検定」2級もしくは3級を受験することを強く進めます。ただしこの授業はそのための内容以外のアパレル・ファッション・化粧の色彩に関する内容も多いので、必ず授業外学習において色彩検定の受験対策の勉強をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の午前中

場所： 本館南4階生活デザイン第一研究室

備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「色彩学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画

回数	色のはたらき	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>色のはたらき</p> <p>はじめに授業の進め方と色彩学の授業で学ぶ内容について概説する。次に衣料管理士2級および色彩検定2級、3級に必要な能力について説明する。そして身の回りの色がどのように役立っているのかについて学ぶ。</p>	4時間
第2回	<p>色はなぜ見えるのか?</p> <p>色を見るために必要な三要素について説明し、光の性質や現象、眼の構造について学ぶ。</p>	4時間
第3回	<p>混色とは?</p> <p>2色以上の色を混ぜ合わせて別の色を作り出すことを混色といい、その種類（加法混色と減法混色）について学ぶ。また、混色を利用した身近な事例を紹介する。</p>	4時間
第4回	<p>色の分類と三属性</p> <p>色の表示の基本知識として、色の分類（無彩色と有彩色）と色の三属性（色相、明度、彩度）について学ぶ。さらに、色相環、等色相面および色立体がどのようなものなのかについて解説する。</p>	4時間
第5回	<p>色の表示（PCCS）</p> <p>色を表すため、表色系と呼ばれるルールがある。ここでは表色系の1つであるPCCSについて学び、PCCSに基づいた色相、明度、彩度の表し方について解説する。</p>	4時間
第6回	<p>トーン概念</p> <p>PCCSのトーン概念図に基づき、明度・彩度との関係や各トーンが持つイメージについて学ぶ。</p>	4時間
第7回	<p>色の心理的効果</p> <p>色によって受ける印象は変わってくる。ここでは、暖かい色と寒い色、軽い色と重い色、軟らかいと硬い色など、どのような色がどのような心理的効果を与えるかについて学ぶ。</p>	4時間
第8回	<p>色の視覚効果</p> <p>色の対比効果や同化効果、錯視効果について演習を交えて学び、その効果を体感する。</p>	4時間
第9回	<p>配色効果①</p> <p>様々な配色の効果について学ぶ。今回は色相を手掛かりにした配色理論について解説し、配色演習を行ってその効果を確認する。</p>	4時間
第10回	<p>配色効果②</p> <p>様々な配色の効果について学ぶ。今回はトーンを手掛かりにした配色理論について解説し、配色演習を行ってその効果を確認する。</p>	4時間
第11回	<p>ファッションと色彩</p>	4時間

	ファッションの世界で色がどのように活用されているかについて解説するとともに、ファッションコーディネート事例を紹介する。		
第12回	インテリアと色彩 インテリアの分野で色がどのように活用されているかについて解説するとともに、インテリアの配色事例を紹介する。	公共の場所で配色を工夫している事例を調べる。	4時間
第13回	色相環とトーン図 色相環やトーン図を参照し、これまでに学んだ配色などに関する問題を解く。その後、解答の発表と解説を行う。	具体的な色彩学の問題課題に取り組む。	4時間
第14回	配色演習 他の人のコーディネートの中から、これまでに学んだ様々な配色を見つけ、配色カードを用いてその配色を再現する演習を行う。	自分の好む配色のコーディネートと雑誌などに紹介されているコーディネートと比較して、違い点の理由を調べる。	4時間
第15回	課題の修正、授業のまとめ これまでの課題で特に間違いの多かった部分について詳細な解説を行うとともに、色彩学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。	色彩学で学んだ知識をもとにファッションのコーディネートができる能力が身についているかどうか確認する。	4時間

授業科目名	衣環境学				
担当教員名	坂下理穂				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

衣服は、着用目的や時期、部位などによって求められる機能が異なり、さらに、年齢や性別が違えば、サイズや形態だけでなく生理機能、運動機能および心理特性も異なってくる。よって、快適で健康的な衣服の設計には、着用する人の身体条件を取り巻く環境条件の相互関係を捉える必要がある。この授業では、人間の生理・心理・健康を基盤に、我々の生活環境と衣服との関係を理解し、着衣が人体に及ぼす影響と求められる衣服の機能や適した素材、デザインへの配慮を考慮し、快適で健康的な衣環境を形成できる能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「アパレル生理・衛生」分野の専門知識	衣服と健康の関わりを理解し、TP0に応じた着衣のあり方を思考できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得	健康と快適性を追求したテキスタイル設計およびアパレル設計を考へ、消費者に適切にアドバイスする応用力を修得できる。
汎用的な力		快適で健康的な衣生活を実現するために、環境条件に適した衣服を選択できる。
1．DP6. 行動・実践		人間—衣服—環境系の中における着衣と健康との関わりについて正しく理解し、衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。
2．DP8. 意思疎通		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・その他(以下に概要を記述)
プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
中間テスト	： 「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができているか」という観点から中間評価する。
小テスト	： 毎回授業終了時に小テストを行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。
受講状況	： 授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する。
演習課題	： 授業途中で演習を行い、「専門的知識を用いて、衣料管理士として消費者に適切な解答ができているか」等の観点から評価する。
定期試験	： 「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができているか」という観点から期末評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本衣料管理協会編	・ アパレル生理・衛生論	・ 日本衣料管理協会	・ 2016年

参考文献等

田村照子 編著、小柴朋子・平田耕造 共著 「衣環境の科学」 建帛社
日本家政学会被服衛生学部会 編 「アパレルと健康」—基礎から進化する衣服まで— 井上書院

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み
場所： 生活デザイン第二研究室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—なぜ衣環境を学ぶのか— 授業の進行や概要、学ぶ意義について説明する。	4時間 衣環境学を学ぶ意義を踏まえて、現在の自分の衣環境について確認する。次回に該当するテキスト部分を通読しておく（P1～9）。
第2回	アパレルと健康 衣服の機能と、人間—衣服—環境の関係を理解し、健康で快適な衣環境について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P9) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P11～22)
第3回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節（前半） 健康の条件として、体温・皮膚温の定義や違い、測定方法、体温調節と寒暑感の関係について学ぶ。	4時間 様々な環境条件を想定して体温調節と熱移動について考察する。次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P22～31)
第4回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節（後半） 自律性体温調節反応（皮膚血管反応や発汗反応）について、行動性体温調節反応との違い、体温調節と環境温熱の因子との関連について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P31) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P32～44)
第5回	アパレルによる気候適応 II. 衣服による気候調節 快適な衣服気候とはどのような状態か、衣服を通して熱や水がどのように移動するのか、衣服の形態や着装と衣服内気候との関連について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P44) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P45～55)
第6回	アパレルによる気候適応 III. アパレル製品の保温性・放熱性 衣服の保温力と蒸発熱抵抗の単位や測定法と、着衣の快適気候域について学ぶ。	4時間 復習としてテキスト演習問題を解く。 (P55) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P56～72)
第7回	アパレルによる気候適応 IV. 気候適応障害の予防と対策 熱中症や低体温症、冷え性の予防と対策について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P72)
第8回	中間テストと振り返り 前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを実施し、その後これまでの授業内容を復習する。	4時間 確認テストの結果、理解が不十分であった内容を復習して理解に努め、次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P73～82)
第9回	アパレルの拘束性と運動機能 I. 身体拘束の指標と衣服圧 衣服圧の発生要因と測定方法や、布地の伸長特性および身体曲率との関係について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P82) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P83～93)
第10回	アパレルの拘束性と運動機能 II. 動作に伴う身体の変形とアパレルの運動機能性 動作時の身体の変形とそれに伴う着衣に求められる運動機能性について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P93) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P94～115)
第11回	アパレルの拘束性と運動機能 III. 衣服圧の人体障害とアパレルにおける有効利用 衣服圧における履物や寝具の圧迫が人体へ及ぼす影響と、衣服圧の有効利用について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P115) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P117～136)
第12回	アパレルと皮膚の生理・衛生 皮膚の構造と役割を理解し、皮膚に接触する下着や寝衣に必要な条件、汚れによる機能性劣化や臭いの予防する加工法について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P126、136) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P137～156)
第13回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 I. アパレルによる障害と対策 衣服そのものによる危害と衣服による健康被害の回避対策について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P147、156) 次回に該当するテキスト部分を通読しておく。(P157～166)
第14回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 II. 高齢社会におけるアパレル 成人と身体機能や形態が異なる高齢者に適した衣環境について学ぶ。	4時間 復習としてテキストの演習問題を解く。 (P166)

第15回	まとめ—アパレルの進化と衣環境— 新しい機能性衣服の紹介と共に、これまでの授業内容を振り返りながら、理解度を確認する。	これまでの授業内容を復習し、再度各演習問題を解いて定期試験に備える。	4時間
------	---	------------------------------------	-----

授業科目名	ファッションビジネス概論			
担当教員名	百々 徹			
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数 2
授業形態	講義			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	神戸ファッション美術館で学芸員として衣装の研究・保存・調査・レクチャーなどの業務に従事した実績を有する 神戸を中心として企業や団体の販売促進や集客向上のコンサルティング業務の実績を有する			

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義は、ファッション産業やマーケティングのこれまでの流れや、現状を学ぶことで、ファッションビジネスに関する基礎的な知識を身につけます。ファッションの専門分野で働くことを目指す人はもとより、生活者としての消費生活を営む上でも、有効となる“自ら考える能力”を養います。
授業では、最近のファッション業界の動向も踏まえて、変わりゆくファッションビジネスの状況を伝えながら、その構造と仕組み、さらには今まさに業界が抱える問題点や、今後の展望まで考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ファッション・ビジネスだけでなく幅広い業界の仕組みや問題点に関する知識を得る

目標：

様々な知識をもとに、ファッション産業とそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

授業から得た知見と、自ら調査した事柄をあわせて、業界や市場の現状の課題を検討し、将来に向けての展望を考える力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

40%

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『改訂 衣生活のための消費科学』 社団法人日本衣料管理協会
- 『ファッションビジネスの進化』 大村邦年 晃洋書房 2017
- 『Fashion Bussiness 創造する未来』 尾原蓉子 織研新聞社 2016
- 『ザ・ファッション・ビジネス』 明大商学部(編) 同文館出版 2015
- 『ファッションビジネスの文化論』 内村理奈 北樹出版 2014
- 『誰がアパレルを殺すのか』 杉原淳一・染原睦美 日経B P社 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 3限

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<p>消費科学とは</p> <p>21世紀に入ってこれまで拡大し続けてきた大衆消費社会も大きな潮流の変化が見られ始めています。特に、消費者の多様化と生産者の責任については、一層複雑な様相を呈してきています。このような状況の中でますます重要性を増す、消費科学の役割や、特に繊維製品に関する消費科学のこれまでと現在について学びます。</p>	消費科学という言葉について、自分のわかる範囲でできるだけ広範に調べておく 4時間
第2回	<p>繊維製品の品質とは</p> <p>消費者ニーズが多様化するなかで、繊維製品のバリエーションも多岐にわたっている昨今ですが、その分、品質の保証や評価の手法がますます重要になってきています。この授業では、衣服の品質評価とその試験方法や品質保障の現状について学んでいきます。</p>	授業で学んだ品質評価基準について、海外の事例も含めてより広範に調べてみる 4時間
第3回	<p>繊維製品の品質表示</p> <p>2017年に繊維製品の組成や取り扱いについての表示方法が大きく改正されましたが、それらの表示について正しい情報を消費者に対してしっかりと説明する義務が、衣服の生産・販売をする企業や店舗には発生してきます。この授業では、繊維製品の品質表示の概略と改正後の表示方法について学んでいきます。</p>	自分が一番最近買った服の品質表示のタグを確認し、そこに何が表示されているか調べておく 4時間
第4回	<p>ファッションビジネスの仕組み</p> <p>1着の衣服が手元に届くまでに、いったいどれほどの人が関わっているのでしょうか？ 様々な業態の企業が複合的に携わり、素材から製品化、流通などの工程を経て、ようやく店頭に出まわります。 この授業では、ファッションビジネスを構成している、多種多様な業態を紹介し、その仕組みについて学びます。</p>	ファッションビジネスの仕組みについて自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる 0時間
第5回	<p>繊維産業とファッションビジネス</p> <p>日本の繊維産業のなかには、海外のラグジュアリーブランドと取引している企業もあります。 年々縮小している産地の現状も事実ですが、その一方でまだまだモノづくりの国としての可能性を秘めているのです。 日本を中心とした繊維産業について、糸から織り布、染色の産地の実状や、新素材開発の取組み、国外からの需要などを、学びます。</p>	日本の繊維産業の現状について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる 4時間
第6回	<p>ファッションビジネスにおける企画と生産</p> <p>服づくりには、単にモノづくりの要素だけではなく、物語づくりの要素も不可欠です。 日本の服づくりの中核を担うアパレルメーカーの企画や生産、ビジネス運営について、海外の実状とも比較しながら、学んでいきます。</p>	アパレルメーカーの現状について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる 0時間
第7回	<p>ファッションビジネスにおける製造と流通</p> <p>グローバル化する現代のファッションビジネスにおいて、どこで製造し、どこで販売するかは、まさに地球規模になりつつあります。 それらの工程を管理し、品質を高めていくことが、ビジネスの成功においても非常に重要な要素となります。 流通戦略や流通チャンネルについて解説します。またSPA（製造小売業）などの実状についても学んでいきます。</p>	SPAと呼ばれる業態について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる 0時間
第8回	<p>ファッションビジネスにおける小売りと販売</p> <p>2000年代以降、急速に増えつつある大型ショッピングセンターは、ファッションビジネスにおける小売りと販売の形態について、いま大きく変わりつつある一つの要因ともいえます。 多様化する小売りの業態と現状、さらに販売のあり方について、学んでいきます。</p>	自分の身近にあるファッション店舗について自分で独自に調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる 4時間
第9回	<p>消費者とその行動</p> <p>日本では戦後間もない1950年代から現在に至るまで、社会における消費の在り方は大きく変化してきました。それにあわせて、消費者の取る行動もまた変わり続けています。 この授業では、消費者の価値観やライフスタイルの変化や、消費者行動を引き起こす様々な要因について学んでいきます。</p>	消費者行動と店舗との関係について、自分でもより詳しく調べておく 4時間
第10回	<p>消費者調査とその方法</p> <p>すべての消費者は、それぞれ異なる考え方やライフスタイルを持ち、多種多様な行動をしながら暮らしています。その多様な消費者の実態を把握するためにおこなう調査を消費者調査といいます。この授業では、消費者調査の種類やそのやり方、さらにその意義について学んでいきます。</p>	インターネットを使って、衣料に関する消費者調査について調べておく 4時間
第11回	<p>ファッションビジネスにおけるブランディング</p>	自分のなかの身近なブランドへのこだわりについて考えて、その考察内容も加味しながら、ノートをしっかりまとめる 4時間

	<p>老舗のバッグ・ブランドであるルイ・ヴィトンが、新進気鋭のデザイナーやアーティストとコラボレーションして、実験的な商品をつくり出すのはなぜでしょう？</p> <p>伝統と革新を両立するブランドのイメージを保ち続けるため、ラグジュアリーブランドは様々な取り組みを絶やしません。</p> <p>この授業では、ラグジュアリーブランドから新興ブランドまで、ファッションビジネスにおけるいろいろなブランディングについて、学んでいきます。</p>		
第12回	<p>ファッションビジネスの多様化</p> <p>インターネットサービスの企業であるAmazonが、東京コレクションのスポンサーになりました。そこには、Amazonが本格的にファッション産業に参入する可能性が高まっているという背景があります。</p> <p>いまファッションビジネスの世界は、これまでのメーカー企業に加えて、新しい業態の参入が激しくなりつつあります。</p> <p>この授業では、ファッションビジネスにおける新しい業態について、紹介していきます。</p>	<p>ファッションが買うだけでなく、借りるやシェアするというものにもなりつつある事例について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。</p>	4時間
第13回	<p>ファッションビジネスの課題</p> <p>2017年、『誰がアパレルを殺すのか』という衝撃的なタイトルの本が発売され、業界の注目を集めました。</p> <p>これはファッションビジネスの世界が、いま新しく生まれ変わりつつあるということをあらわしているのです。</p> <p>この授業では、同書の内容を紹介しながら、アパレル業界が抱えている課題について考え、またその先を見据えた取り組みも紹介していきます。</p>	<p>アパレル業界の現状の課題や新たな取り組みについて自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。</p>	0時間
第14回	<p>ファッションビジネスにおける新たな価値創造</p> <p>人気のファッション・ブロガーがファッションショーの最前列を飾る時代、ファッションビジネスにおける価値の生み出し方も、日々刻々と変わりつつあります。</p> <p>ファスト・ファッションへの反動から生み出された、スロー・ファッションやエシカル・ファッションなどのムーブメントも、これまでにはなかった価値の創造です。</p> <p>21世紀のファッションの可能性について、様々な事例を紹介しながら、考えていきます。</p>	<p>有名ファッション・ブロガーの発信力について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。</p>	0時間
第15回	<p>まとめー日本でファッションビジネスを志すということ</p> <p>いまファッションビジネスは変化の真ただ中にあります。</p> <p>ピンチもありますが、その分、大きなチャンスもあるでしょう。</p> <p>これまでの授業でわかったことを踏まえて、自分たちが働きたいファッションビジネスの未来について、討論してみてください。</p> <p>その皆さんのフレッシュな議論の中に、次代のビジネスの可能性を拓くヒントがあるはずです。</p>	<p>これまでの授業をしっかりと振り返り、自分の意見や考えをまとめて、授業に臨むこと。</p>	4時間

授業科目名	生活造形実習 I				
担当教員名	小林八千枝				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	洋服やウエディングドレスリメイク品、帽子や服飾雑貨、縫製製作。 デザイナーや作家とのコラボレーションによる縫製品製作。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ファッションに欠かすことの出来ない様々なアイテムを製作することにより、ファッションアイテムの構造を理解し、ミシン、手縫いなどの縫製のスキル、テクニックも習得していきます。
出来上がったアイテムにリメイクを施しオリジナル性のある作品に仕上げしていきます。
また、アイテム製作として、コサージュ、帽子など、オリジナルリメイク作品を製作していきます。
出来上がった作品は、着装しコーディネートも考え発表、ディスカッションします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションアイテム（帽子等服飾雑貨や小物）製作。リメイク作品製作。

目標：

製作する事により物の構造を理解し、縫製技術も身に付け、ファッションにおける服飾雑貨の重要性を知る。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

オリジナルデザインリメイク案を考え、製作手順も考える。

作品製作に必要な資材を揃え作品完成するための手法を考え製作していく。

製作する喜びを感じ、完成させる喜びと達成感を知る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
製作課題作品提出されなかった場合は本科目全体の評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50%	: 課題作品を期日までに完成させ、提出する。
授業内課題発表	10%	: 出来上がった作品を装着し発表（プレゼン）、品評。
受講態度	30%	: 遅刻、早退なく積極的に授業に参加しているか。真剣に作品製作に取り組んでいるか。
定期試験（作品提出）	10%	: 定期試験内で製作した作品を提出し評価とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「文化ファッション大系 服飾講座1 服飾造形の基礎」
「文化ファッション大系 ファッション工芸講座1 帽子基礎編」
オリジナルプリント配布、使用。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1～3時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3.4限
場所： 436教室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	実習概要説明 前期の授業内容説明と必用用具等説明。ミシン（本縫い、ロックミシン）の特性と操作方法説明。	シラバス内容再度確認しておく。 1時間
第2回	ミシントレーニング1 生地と糸や針についても学び、本縫いミシンの設定の仕方、操作方法を学ぶ。	授業内容復習。 1時間
第3回	ミシントレーニング2 ロックミシンの操作方法を習得する。 習得したミシンテクニック使い、小物入れを製作する。	作品を見て作業工程復習。 1時間
第4回	手縫いテクニックを学ぶ。 様々な手縫い手法テクニックを学ぶ。 フリル、ギャザーの作り方付け方、刺しゅうテクニックを学ぶ。 次の製作物コサージュの説明。	コサージュデザイン案考える。材料調達しておく。 2時間
第5回	コサージュ製作。 習得したミシン、手縫いテクニック使いコサージュを製作する。 次回の授業、アイテムデコレーション製作の説明。	アイテム選び、デザイン案考える。 2時間
第6回	アイテムデコレーション製作実習1 ジャケット、スカートに施すオリジナルデコレーションデザイン出し。オリジナルアイテム製作。	デザイン案練り直し、材料調達。 2時間
第7回	アイテムデコレーション製作実習2 デザイン案に沿って、アイテムデコレーション製作。	次回の作業工程考えておく。 1時間
第8回	アイテムデコレーション製作実習3 アイテムデコレーション製作続き。	ここまでの作業工程復習。作業工程予測。 1時間
第9回	アイテムデコレーション製作完成。 アイテムデコレーション完成。 発表。品評。	自分の持つてる帽子の形、数をしらべてくる。 1時間
第10回	帽子について。 帽子の種類やデザイン、構造、各部位の名称等帽子について学ぶ。 ヘッドサイズをはかってみる。 帽子の使用するテキスタイルをイメージする。 帽子製作に使用する資材（接着芯等）説明	生地を購入しておく。縫製工程予測しておく。 2時間
第11回	帽子（ワークキャップ）製作実習1 パターン配布。パターン指示説明。パターン修正。 生地へのマーキング、裁断。 芯貼り。アイロンテクニック実演説明。 帽子に加えるオリジナルデザイン案考える。	デザイン案に合う材料調達しておく。 1時間
第12回	帽子（ワークキャップ）製作実習2 表地縫製。裏地縫製。つば（ブリム）縫製。 各部位への効果的なアイロンテクニック実演説明。	帽子に加えるデザイン案練り直してみる。 2時間
第13回	帽子（ワークキャップ）製作実習3 裏地合わせ（中綴じ）の必要性と縫製テクニック実演説明。アイロンの重要性、縫い代の始末、スッテッチの重要性とテクニックを学ぶ。	次回の作業工程予測してみる。 1時間
第14回	帽子（ワークキャップ）製作実習4 びん革（サイズテープ）の必要性説明。 付け方縫製テクニック実演実演、説明。 オリジナルデザイン案加える。	ここまでの作業工程復習。 1時間
第15回	帽子（ワークキャップ）完成。 仕上げアイロンのかけ方実演説明。帽子完成。 帽子の保存方法について説明。 発表、品評。 後期の授業説明。	後期までにオリジナルの作品を製作してみる。 4時間

授業科目名	生活造形実習Ⅱ				
担当教員名	小林八千枝				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	洋服やウエディングドレスリメイク品、帽子や服飾雑貨、縫製製作。デザイナーや作家とのコラボレーションによる縫製品製作。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

これまでに習得した縫製テクニックや、スキルを生かし、帽子、バッグをオリジナル性のあるデザインを考えファッションに欠かせないアイテム作品を製作します。
授業の後半では、パンツをスカートにリメイクしたオリジナルスカートを製作します。
製作する作品には、テーマやトレンドも考え、取り入れた作品を製作し完成させていきます。
出来上がった作品は、装着し作品に合ったコーディネートも考え発表、ディスプレイします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッションアイテム（帽子やリメイク作品）製作。

目標：

製作する事により物の構造を理解し縫製技術も身に付けファッションにおける服飾雑貨の重要性を知る。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

オリジナルデザイン、リメイク案を考え、実現する為の製作上程も考える。

作品に必要な資材を考え揃え、完成させる手法も考える。

製作する過程を楽しみ、完成させる喜びと達成感を知る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。
製作課題作品提出されなかった場合は、品科目全体の評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50%	: 課題作品を期日までに完成させ提出する。
授業内課題発表	10%	: 出来上がった作品を装着し発表（プレゼン）、品評。
授業態度	30%	: 遅刻、早退がなく積極的に授業に参加出来ているか。真剣に作品製作に取り組んでいるか。
定期試験（作品提出）	10%	: 定期試験で製作した作品を提出して評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「文化ファッション大系 服飾講座1 服飾造形の基礎」
「文化ファッション大系 ファッション工芸講座1 帽子基礎編」
オリジナルプリント配布、使用。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1～3時間の授業外学習が求められる。
「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3,4限

場所： 436教室

授業計画		授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	実習概要説明 後期の授業内容説明。次回から製作、誰かに送る帽子（ハット）のデザイン、縫製工程説明。製作工程等説明。	贈る人物決めてデザイン考えてみる。材料調達。 2時間
第2回	プレゼントする帽子（ハット）製作について。 帽子のデザインについて学ぶ。 今回製作のハットは、自分以外の誰かをイメージし、製作する。 パターン配布。パターン修正、帽子の構造について説明。作業工程説明。必用資材について説明。 生地へのマーキング、裁断。	帽子の構造を考え縫製工程を予測してみる。 1時間
第3回	プレゼントする帽子（ハット）製作実習1 芯貼り。アイロンテクニック実演説明。表地、裏地縫製。 ブリム（つば）縫製テクニック、ステッチの必要性とテクニック。 アイロンテクニック実演説明。 表地と裏地中合わせ。（中綴じ）の必要性とテクニック実演説明。	帽子の縫製工程を復習しておく。 1時間
第4回	プレゼントする帽子（ハット）製作実習2 縫い代始末。 びん革（サイズテープ）の必要性、付け方実演説明。 効果的なアイロンテクニック実演説明。	作業、縫製工程を復習しておく。 2時間
第5回	プレゼントする帽子（ハット）製作3 仕上げ、完成。 出来上がったハットにリメイク施し完成、仕上げアイロン。 発表。品評。 次回の授業説明。	トートバッグデザイン案考える。生地を調達する。 2時間
第6回	オリジナルトートバッグ製作について。 オリジナルトートバッグデザイン案出し。 パターン製作。生地裁断。	完成までの時間考え。作業工程考えてみる。 1時間
第7回	オリジナルトートバッグ製作。完成。発表。 オリジナルトートバッグ縫製製作。 完成。発表品評。	ショップに出かけベレー帽の素材や色等の流行りをリサーチ。製作するための生地考え購入しておく。 3時間
第8回	ベレー製作について。 ベレーの構造説明。パターン配布。製作工程説明。 生地へのマーキング、裁断。	ベレー製作工程予測してみる。 1時間
第9回	ベレー製作1 表地各パーツ縫い合わせ。裏地各パーツ縫い合わせ。 アイロンテクニック実演説明。	ベレー帽へ施すリメイク案を考える。 2時間
第10回	ベレー製作2 表地と裏地中合わせ。（中綴じ）の必要性とテクニック実演説明。 縫い代始末実演説明。 びん革（サイズテープ）付け方実演説明。	ベレーに似合うファッションコーディネートを考えてみる。 2時間
第11回	ベレー製作3 仕上げ、完成。発表。 ベレーにオリジナルリメイクを施し完成。 ベレーに合ったコーディネートで発表。品評。 次回授業説明。	リメイクパンツ調達。リメイク商品を店舗でリサーチ。 3時間
第12回	パンツからスカートへリメイク製作実習について。 パンツとスカートの構造の違いについて考える。 パンツを解体してみる。 パンツをスカートへリメイクデザイン案出し。	雑誌やショップ等でスカートデザイン案がないか意識しておく。帽子とのコーディネート考えておく。 2時間
第13回	パンツからスカートへリメイク製作実習1 デザイン案に近づく様にどンドンリメイク製作していく。 その都度、浮かんだアイデアを加えていく。	作業工程を予測してみる。 1時間
第14回	パンツからスカートへリメイク製作実習2 リメイク製作していく。 完成に近づけていく。	リメイク作品に合わせたファッションコーディネートを考え次の授業までに準備しておく。 2時間
第15回	パンツからスカートへリメイク 仕上げ、完成。発表。品評 リメイク作品完成。 （前期で製作したバッグや、コサージュ等あわせてもよい。） 製作についての感想も含め発表、品評する。	製作した作品を身に付けてかけてみよう！ 3時間

授業科目名	デザイン表現実習 I				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示 不可

授業概要

本授業では洋服をデザインする為の基礎を学びます。デザインをする為にはテクニックと知識の両方が必要です。前期の授業では個性の認識、発展を目標としており、まずは基礎的なテクニックを学びます。そのあと、個々の個性を自己認識していくために必要な情報を集め、分析、理解します。インプットした知識を自分の個性というフィルターを通して新しい洋服のクリエイションを行います。前期はデザインに重要な色、スカートのデザインを学びます。さらにリメイク作品を制作します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	デザインを学ぶために様々なものをリサーチする	リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現することができる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる	学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる
2．DP9. 役割理解・連携行動		グループ作業を通じて、グループでの自分の役割を見つけ、連携して作品制作に取り組むことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション1

評価の基準

： 作ったプリント柄の美しさ、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。

20%

定期試験（発表・作品提出）

： スカートのデザインの創造性、現代性、デザイン画をまとめたポートフォリオの完成度とその、プレゼンテーションの内容を評価します。

40%

リメイク作品制作

： リメイク作品の創造性、現代性、縫製などの完成度を評価します。

30%

授業内課題

： デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」
その他の資料は随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	色を学ぶ、自分の好きな色は…? ファッションで色は非常に重要な要素です。色の組み合わせやプリント柄など、自分の好きなアーティストの色使いから学び、自分の好きな色や色の組み合わせを見つけます。	アーティストのリサーチを行う 1時間
第2回	色を学ぶ、プリント柄 基本的なプリントの送りを学び、自分の好きな色、アーティストを参考にオリジナルモチーフを考える。	プリントの送りを理解しておく 1時間
第3回	色を学ぶ、プリント柄 前の授業で作ったオリジナルモチーフを送り柄にする。作ったプリント柄をボディ上に配置し、洋服での見え方を確認する。	自分の持っている服にオリジナルモチーフを合わせてバランスを確認しておく 1時間
第4回	デザイン画の基礎/デコレーション、リメイクの実習 人体の仕組みを学び、デザイン画の基礎を学ぶ。様々なポーズを描く為のベースを作る。グループに分かれて古着を使い、デコレーションやリメイクで世界観を表現する	人体の仕組みを復習しておく 1時間
第5回	デザイン画の基礎、様々なポーズを描く/デコレーション、リメイクの実習 正面、デアンシェ、3/4など様々なポーズを描く。使う古着を決め、どんなアイテムを作るかデザインを考える。	リメイクするアイテムを考えておく 1時間
第6回	着色を学ぶ/デコレーション、リメイクの実習 布地の描き方を学び、着色の練習を行う。布地ごとの描き方や着色方法を学ぶ。デコレーションやリメイクのデザインをデザイン画にする。	着色方法を復習しておく 1時間
第7回	アイテムを学ぶ、スカート/デコレーション、リメイクの実習 スカートというアイテムを学ぶ。シルエット、ボリュームのバリエーションと名称。自分の好きなスカートのリサーチを行う。デザイン画を元にデコレーションやリメイクの手法を考える。	スカートのリサーチを終えておく 1時間
第8回	テーマの設定/デコレーション、リメイクの実習 スカートをデザインする為のテーマを設定する。テーマをヴィジュアルで表現し、その中からデザインする為の要素を探す。デコレーション、リメイクの制作を行う。	テーマリサーチを進めておく 1時間
第9回	ディテール、素材のリサーチ、平面図/デコレーション、リメイクの実習 スカートに適した素材を知る為、実物を見て学ぶ。ベルトやポケットなどディテールの作りを学び、平面図の描き方を学ぶ。デコレーション、リメイクの制作を行う。	リメイクの制作を進めておく 1時間
第10回	マーケットリサーチ、スカート マーケットを見て、どのようなスカートがトレンドかとリサーチする。色やプリント柄、シルエットやボリュームなど、自分のテーマに沿ってリサーチを行う。	テーマの候補を複数考えておく 1時間
第11回	スカートをデザインする これまでに行ったリサーチ（テーマ、ディテール、シルエット、ボリューム、素材など）をまとめて、自分のスカートをデザインする。	リサーチを終えておく 1時間
第12回	スカートをデザインする テーマに基づき、シルエット、ボリュームを決める。	スカートのディテールを実物のスカートを見て確認しておく 1時間
第13回	スカートをデザインする リサーチしたディテールを自分のテーマにあわせて発展させる。	スカートに適した素材をリサーチしておく 1時間
第14回	スカートをデザインする デザイン画を5体以上描き、そのうち2体を着色、平面図も描き仕様書を作る。	デザイン画を仕上げしておく 1時間
第15回	ポートフォリオ作成・プレゼンテーション準備 自分の作品をまとめたポートフォリオのレイアウトを作成し、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーション準備を終えておく 1時間

授業科目名	デザイン表現実習Ⅱ				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示 不可

授業概要

本授業では洋服をデザインする為の基礎を学びます。デザインをする為にはテクニックと知識の両方が必要ですので、基礎的なテクニックを学んでから自分の個性を洋服で表現できるように様々なリサーチを行い、知識をインプットします。インプットした知識を自分の個性というフィルターを通して新しい洋服のクリエイションを行います。後期はコンセプトメイキング、シャツ・ブラウス・ワンピースのデザイン、ジャケットなど重衣料のデザインを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

デザインを学ぶために様々なものをリサーチする
デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる

目標：

リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現することができる
学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（発表・作品提出）	40%	： コンセプトメイキングのポートフォリオの内容、完成度とそのプレゼンテーションを評価します。
プレゼンテーション2	25%	： シャツ・ブラウス・ワンピースのデザインの創造性、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。
プレゼンテーション3	25%	： ジャケットのデザインの創造性、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。
授業内課題	10%	： デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」
その他の資料は随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	コンセプトとは… コンセプトの説明。 洋服をデザインする為に最も大事な自分のコンセプトを作るための準備を始める。	コンセプト作成に必要な資料を集めておく 1時間
第2回	アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース シャツ、ブラウス、ワンピースというアイテムを学ぶ。 衿や袖などディテールのバリエーションとその名称。 自分の好きなシャツ、ブラウス、ワンピースの検索を行う。	シャツ、ブラウス、ワンピースの検索を終えておく 1時間
第3回	テーマを探す 自分のコンセプトを表現できるテーマを探す。 ディテールの検索を行う。	ディテールの検索を終えておく 1時間
第4回	ディテール研究 実物のシャツ、ブラウスを用意してディテールを学び、衿や袖、カフスなど検索したディテールをテーマに基づいて発展させる。	テーマ検索を進めておく 1時間
第5回	3D研究、シルエット、ボリュームを探す ワンピースの検索から、テーマを表現できるシルエットやボリュームを実際の布を使って探していく。	自分のイメージに合う布地を探しておく 1時間
第6回	シャツ、ブラウス、ワンピースをデザインする 見つけたディテール、シルエット、ボリュームを使って自分のコンセプト、テーマを表現する シャツ、ブラウス、ワンピースを5体デザインする。内、2体は着色と平面図を描き仕様書とする。	デザイン画を進めておく 1時間
第7回	プレゼンテーション シャツ、ブラウス、ワンピースのポートフォリオを作り、プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの修正を終えておく 1時間
第8回	コンセプトの発展 コンセプトを発展させていき、自分のデザインを確立させていく。 コンセプトを表現するテーマを探す。	コンセプト発展に必要な資料を集めておく 1時間
第9回	アイテムを学ぶ、ジャケット ジャケットというアイテムを学ぶ。 衿、袖、ポケットなどのディテールの検索や自分の好きなジャケットのシルエットを探す。	ジャケットの検索を終えておく 1時間
第10回	3D研究 自分のコンセプトを表現するためのデザインポイントを探す。 ボディを使って、ディテールやシルエットをテーマに基づいて発展させる。	デザインポイントを明確にし、説明できるようにしておく 1時間
第11回	3D研究 ボディを使って、ディテールやシルエットをテーマに基づいて発展させる。	3D研究で見つけたボリュームをまとめておく 1時間
第12回	ジャケットをデザインする 3D研究で見つけたディテールやシルエットを使い、自分のコンセプト、テーマを表現するデザインを描く。 ジャケットを着たコーディネートのデザイン画を描く。 アクセサリなどトータルコーディネートを5体以上描く。	デザイン画を進めておく 1時間
第13回	ジャケットをデザインする ジャケットのデザイン画を5体以上描き、2体は着色と平面図も描き仕様書とする。 自分のテーマ、ディテール、デザイン画のプレゼンテーションを行う。	My Vision Bookの見直しを行う 1時間
第14回	コンセプトの見直し 第1・8・9回目の授業で作成したコンセプトの見直しを行う。My Vision Bookを整理し、必要な資料をコンセプトに加える。	資料のレイアウトを具体的考え、必要な資料を集めておく 1時間
第15回	コンセプトの見直し ジャケットの課題を完成させ、自分のコンセプトを見直しカラーなどビジュアル資料を作成する。	コンセプト資料を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う 1時間

授業科目名	業界研究				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館の学芸員として、資料の整理や展示、プレゼンテーションに関する仕事に従事した経験を有する。 また神戸を中心に企業や団体への販売促進や商品開発の提案の実績も有する				

開放科目の指示：「可」

授業概要

消費者ニーズの多様化や二極化が顕著になりつつある昨今のファッション業界ですが、そこでは大きな潮流の変化もおこりつつあります。授業では、昨今のファッション業界の現状や動向を分析して、そこから時代の消費者ニーズに対応したブランドのコンセプトを打ち立てて、商品の企画や選定、店舗の設計やデザインなどについても学び、アパレル業界における運営プロセスを理解していきます。また、中間と期末にプレゼンテーションを行うことで、自分の考え方や見せ方を周りに的確に伝える力も伸ばしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ブランド企画のための知識と手法

目標：

マーチャンダイザーやバイヤーに必要な資質を身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP4. 課題発見

ファッションビジネスの現状を見据え、新しい発想で、ブランド企画を行うことができる。
コレクションブランドのテーマやスタイリングによるファッション性を分析できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

注意事項等
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	20%	： リサーチ結果を踏まえ、論理的手法に基づいた考察がなされているかの観点から、4段階で評価します。
企画書作成	20%	： ブランド企画の資料に基づき、独自のルーブリックにより4段階で評価します。
資料に基づくプレゼンテーション	10%	： 全学ルーブリックに基づき、評価します。
期末試験	50%	： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高原昌彦 ファッションビジネス入門 織研新聞社
ダニエル・ピンク 大前研一訳 ハイコンセプトー新しいことを考え出す人の時代
尾原蓉子 創造する未来 織研新聞社
吉田康成 デザインを伝える、ポートフォリオの作り方 100人いたら、100通りあるモノ語り 文化出版社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
場所： 生活デザイン第2研究室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	アパレル商品の種類と特質 アパレル業界における商品の種類や特質について、幅広い基礎知識を学びます。	アパレル業界のしくみについて調べておく 4時間
第2回	アパレル商品の各分野における市場特性とその動向 最新のアパレル商品の市場特性や動向について、多角的に調査して、分析を試みます。	WEBや雑誌により好きなモノを収集しておく 4時間
第3回	アパレル企業とその職種 日本におけるアパレル企業の発展のこれまでと、最近の多様な企業のかたち、さらにその職種のバリエーションについて学びます	自分の気になったアパレル関連企業についてより詳しく調査を重ねてまとめる 4時間
第4回	ファッション産業とグローバル化 昨今のグローバル化の広がりと、そのことがアパレル産業にもたらす光と影について、様々な事例を通して、学んでいきます。	特にファッション産業のグローバル化がもたらすマイナスの事象について、調べてみる 4時間
第5回	商品企画とは何か アパレル業界における商品企画の仕事に焦点をあてて、その概略を説明し、実際に自分で商品の企画を試みます。	授業に先立ち、自分の好きな服や気になる服の傾向について調べておく 4時間
第6回	ターゲットとはなにか アパレル業界におけるターゲットの分析の重要性について解説しながら、前回自分が企画した商品のターゲット層の分析を試みます	ターゲットの分類やマッピングについて、インターネットや書籍を使って調べてみる 4時間
第7回	自分のファッションイメージマップを作る これまでの授業で企画し分析した情報をもとに、自分の好きなファッションについてプレゼンテーションするためのイメージマップをつくります	次のプレゼンテーションに備えて、イメージマップを作成しておく 4時間
第8回	プレゼンテーション ファッションイメージマップの考察レポートをもとに、発表する。質疑応答など、必ず全員が質問をするように、活発な議論を行う。	他の学生からの質問や意見をしっかりとノートに整理して、まとめておく 4時間
第9回	ファッション情報の収集と分析・分類 パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京などの各都市での最新のコレクションを調べて、その情報を収集し、分析・分類し、そこに共通するような自分だけのキーワードをあたえてファイリングしていきます。	できるだけ多くの最新ファッション情報に触れて見識をひろめておく 4時間
第10回	コンセプトをたてる 自分がもしブランドをつくるとしたらと仮定して、これからの時代を拓いていくようなコンセプトを立てていきます。	コンセプトについてキーワードと説明文を完成させる 4時間
第11回	セレクトショップを仮想する これまでの情報を参考に、オリジナルなセレクトショップのブランドコンセプトを考える。また同時にターゲット絞り、ターゲット特性についても考える。	オリジナルなブランドの企画案を考えておく 4時間
第12回	セレクトショップの商品を集める 自らのオリジナルセレクトショップ・ブランドの店舗に置くと想定して、世界中から様々なファッション・アイテムを集めてみる	既存のセレクトショップと自分のショップとの違いについて説明する準備をしておく 4時間
第13回	ブランドとブランドマネジメントについて アパレルブランドからラグジュアリーブランドまで、様々なブランドについて学ぶと同時に、それぞれのブランドマネジメントの特徴について知見を広める	自分の気になるブランドが、その価値を高めるためにどのような取り組みをしているか調べておく 4時間
第14回	店舗を構想してみる 自分の展開したいセレクトショップについて、ターゲット層や商品群のことも考えながら、その店舗について構想してみる。	WEB、DMなど販促方法を調べておく。 4時間
第15回	プレゼンテーション それぞれ自分が構想したセレクトショップについて、その商品展開から店舗のイメージまで、できるだけ詳細にプレゼンテーションしていく	できるだけ他の人の発表もしっかり聴き、その様々なアイデアをノートにまとめておくこと 4時間

授業科目名	卒業研究 I				
担当教員名	澤田和也・伊東義輝・山下義裕・百々 徹				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	およそ数名程度ごとのグループに分かれ、アパレル企画の方法、デザイン、布の選定、染色、パターンメイキング、縫製、プレゼンテーションに至るアパレル業界全般の流れを共同作業で学ぶ授業体系をとる。実際の授				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「卒業研究 I」・「卒業研究 II」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

情報収集力および情報分析力

評価の基準

： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

30%

基礎的な実技

： 作業への取組姿勢や技術力を評価する

20%

表現力

： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

30%

定期試験

： 前期の総まとめとして、卒業研究の実施内容についての理解度を実技評価する

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜1限
場所： 生活デザイン第1、2、3研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	授業概要の説明、グループ作業の行い方など デザイン特論についての概要を説明し、1年間課題に取り組むグループ分け、グループでの作業を説明する。また、研究倫理教育を実施する。	グループ内でそれぞれの性格や個性から分担すべき役割について話し合いをしておく。 4時間
第2回	素材からのデザイン企画 素材からの商品企画を行うため、担当する素材とそれを扱う企業をリサーチし、担当素材の特性を理解する。	マーケットリサーチの準備をしておく。 4時間
第3回	マーケットリサーチ 担当する素材の既存市場のリサーチと、新しいデザインの可能性をリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。 4時間
第4回	プレゼンテーション：マーケットリサーチ リサーチした既存市場の分析と担当素材の新しいデザインの可能性をまとめて提案する。	プレゼンテーションの修正を終えておく。 4時間
第5回	新しいデザイン：担当素材の新しい可能性を見つける 担当素材を使った新しいデザイン、新しいマーケットの提案を行う。 衣服に限らず、生活全般からイメージを膨らましてインテリア、雑貨などもデザインする。	担当した素材の特徴について調べる。 4時間
第6回	デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定 ターゲットの生活や対象のマーケットのイメージを作り、テーマに沿ってデザインを考える。	デザインテーマを考えておく。 4時間
第7回	テキスタイルをデザインする テーマ、ターゲットのイメージからテキスタイルデザインを行う。 染めやプリント、刺繍など様々な手法をリサーチし、イメージにあった手法を取り入れて考える。	テキスタイルの参考となるヴィジュアル資料を集めておく。 4時間
第8回	テキスタイルを制作する 担当素材を使って染めやプリント、刺繍、タック、ギャザーなど様々な加工を試してみる。	使いたい加工を決めて、加工した素材のイメージを考えてくる。 4時間
第9回	担当素材のテキスタイルデザインを完成させる テキスタイルデザインを完成させる。40cm×215;40cm程度の素材スワッチを作成する。	プレゼンテーションの準備を終えておく。 4時間
第10回	プレゼンテーション：デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイル デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルをまとめてグループごとにプレゼンテーションを行う。	今回の衣服、雑貨デザインに必要な資料を集めておく。 4時間
第11回	マーケットリサーチ：衣服、インテリア、雑貨デザインリサーチ グループごとのデザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルデザインにあった衣服、インテリア、雑貨の参考となるデザインをリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。 4時間
第12回	デザインを行う。 デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定にあった衣服、インテリア、雑貨のデザインを行う。	デザインの参考となる資料を集めておく。 4時間
第13回	デザインの決定、デザイン画を描く グループごとにテーマ、ターゲットにあったデザインを決め、デザイン画を描く。	デザインの参考となる資料を集めておく。 4時間
第14回	デザイン画を描く デザイン画を描き、着色し平面図を描き、仕様書を作成する。	仕様書までまとめておく。 4時間
第15回	プレゼンテーション 前期の内容をまとめてプレゼンテーションを行う。	指摘を受けた修正についてプレゼンテーションを変更しておく。 4時間

授業科目名	ファッション心理学				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館に学芸員として勤務の実績を有する 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコースに教員として勤務の実績を有する				

開放科目の指示：「可」

授業概要

着装、購買、選択などの服飾に関する行動における心理的、社会的機能に着目し、社会学、社会心理学、心理学の基礎理論を中心に社会科学的な観点からファッションを理解します。普段の生活の中で、モノとしてのファッションではなく、人との関わりの中でどのようにファッションがとらえられているのかについて考察し、ファッションの今後の動向について分析する能力を身につけます。人間の心理が、ファッションに対してどのような行動をとってきたのか、購買意欲にどのようにつながっているのかについても分析します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションについての消費行動について社会心理学的な読み解きを行う。

目標：

ファッション心理特性を知り、ファッション企画力や販売力を身につける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

人間の心理特性を知り、ファッションと人間との関係についての課題を考察する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 授業の内容をふまえた論述ができていれば5点、そこに独自の見解や具体例などが示されていれば4点、授業の内容のみの場合は3点、少しは内容を理解している2点、まったく理解していない1点とする。

40%

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『被服と身体装飾の社会心理学』S.B.カイザー／1994／北大路書房
- 『ファッション中毒』ミシェル・リー／2004／NHK出版
- 『隠れた脳ー好み、道徳、市場、集団を操る無意識の科学』ジャンカー・ヴェグンタム／2011／インターシフト
- 『買ったがる脳』デイビッド・ルイス／2014／日本実業出版社
- 『赤を身につけるとなぜもてるか？』タルマ・ローベル／2015／文藝春秋
- 『装いの心理と行動』小林茂雄・藤田雅夫編著／2017／アイ・ケイ・コーポレーション
- 『誘うブランド』ダリル・ウェーバー／2017／ビー・エヌ・エヌ新社
- 『モードの迷宮』鷺田清一／1996／ちくま学芸文庫
- 『ひとはなぜ服を着るのか』鷺田清一／1998／NHKライブラリー
- 『ファッションと哲学』アニエス・ロカモラ&アネケ・スメリク／2018／フィルムアート社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限目
 場所： 生活デザイン第2研究室
 備考・注意事項： 生活デザイン学科専用アドレス 件名 「科目名 氏名 学籍番号」
 オフィスアワー以外の時間にも対応します。生活デザイン第2研究室まで来室してください。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ファッション心理学とは ファッション心理学で何を学ぶのか、なぜこのような学問が必要なのかについて理解する。	振り返りシートの作成	4時間
第2回 着衣のはじまりとその動機 そもそもなぜヒトは衣服というものを着はじめたのか？その起源と動機について考え、私たちが衣服を着る理由と機能について考えてみます。	着衣の起源と照らし合わせて、自分が衣服を着る理由について内省してみる	4時間
第3回 着衣と身体 衣服はそれだけではあまり意味をなさず、それを着て、動いて、暮らして、初めてそこに大きな意味が生まれます。つまり、衣服と身体との交わりである着衣から、衣服の意味ははじまるのです。この授業では、精神分析的な視点から、衣服が身体を通じて人に与える影響について、考えていきます。	着る服によって、自分にどのような心理的变化が起こっているかを、観察して書き留める	4時間
第4回 《わたし》と着衣 鏡を見ると、そこには自分の姿が映っています。でも、人は、その自分の表面のほとんどを衣服で覆っていることが常態です。この授業では、衣服というものが、自己のイメージを形成し、認識するのか、その心理的メカニズムについて、学習します。	自分のワードローブが、自分のセルフイメージをどのように作り上げているか、可能な限り分析してみる	4時間
第5回 着衣のロールプレイング 哲学者の鷺田清一は、「すべての衣服は制服である」と言っています。自分が“自由に”装っているつもりであっても、そこには社会の様々な規制や規範が含まれているのです。この授業では、女らしさや男らしさ、学生らしさや社会人らしさなどの「らしさ」を演じるための衣服の役割と機能について、学んでいきます。	就職活動におけるスーツの意味と、それを着た時の自分の心の変化について、考察してみる	4時間
第6回 服を見せる／私を魅せる 人はどうしてここまで自分を装うことに躍起になるのでしょうか？それは着衣という行為が、非常に饒舌にその人自身を語る非言語的なコミュニケーションの一つだからです。この授業では、コミュニケーションの道具として衣服が果たしている役割について、学んでいきます。	本人の意思とは裏腹なメッセージを伝えてしまう衣服の例について考えてみる。	4時間
第7回 見かけと印象 昔は、「人は見かけで判断してはいけない」と言われていましたが、実際には私たちは普段の生活の中で、他人の見かけから多くの情報を得て、多くのことを判断しています。この授業では、人の見かけがどのように周囲に受容され承認されているのか、学んでいきます。	電車内や街中で周りの人たちを観察し、その人たちの服装からどのような印象を自分が受けているのか、分析してみる	4時間
第8回 着衣と集団 ユニバーサルスタジオジャパンに遊びに行くと、グループごとにお揃いの服を着て楽しんでいる若者たちにたくさん出会います。着衣は往々にして「わたし」を「わたしたち」にまとめたりつないたりする役割を果たすのです。この授業では、衣服を着ることで、どのようにして集団が形成され、そのメンバーに共同意識を持たせると同時に、排他意識も持たせるのか、そのメカニズムについて学んでいきます。	自分の体験談として、「皆んなとつながる衣服」についてまとめてみる。	4時間
第9回 はみ出す着衣 まとまるための着衣がある一方で、社会からはみ出るための着衣もあります。社会の趨勢に抗うための着衣や、社会的な枠組みを飛び越えるための着衣などです。この授業では、あえて社会からはみ出すための着衣について、その社会心理的な意義について学んでいきます。	パンクやコギャルなどの若者のサブカルチャーとその装いについて、自分の興味の範囲を掘り下げて調べてみる	4時間
第10回 流行の心理学 毎年毎シーズン、次から次へと新しい流行が現れては消えていきます。わたしたちはその流行に翻弄されながら、常に自分のクローゼットの中身を更新し続けているのです。この授業では、この流行が生み出される仕組みについて、様々な理論を学び、流行とは一体何かについて学んでいきます。	この春夏のシーズンの流行について調べ、それがどのようにメディアから発信されているか、分析してみる。	4時間
第11回 わたしの彩り テルアビブ大学の心理学教授タルマ・ローベルが書いた本のタイトルは『赤を身につけるとなぜもてるのか？』といいます。これは本当でしょうか？またそれは一体どのような心理的要因で、実際に起こるのでしょうか？この授業では、色をまとう行為としての着衣について考え、色彩が人に引き起こす心理的作用について、学んでいきます。	自分の好きな色や普段よく身につけている色が、どのような心理的作用をもたらすのか、インターネットや書籍を通じて調べてみる。	4時間

第12回	人はどうしてブランド品に魅了されるのか	自分が欲しいと思っているブランド品をあげ、それを持つことが自分に何をもたらしてくれるのかを分析的にまとめてみる。	4時間
	ルイ・ヴィトンやエルメス、カルティエやティファニーなどのラグジュアリー・ブランドから、ユニクロやMUJI、ZARAやH&Mの手に入れやすいブランドまで、人はどうして“有名なもの”、すでに“人気を博しているもの”を身につけたがるのでしょうか？ この授業では、ブランドというものを追い求める人間の心理について、心理学や脳科学などの見地から説明していきます。		
第13回	どうして「それ」を買ってしまうのか？	自分がよく行く服屋さんに足を運び、その店内レイアウトや照明、商品の並べ方についてよく観察し、それが来店者に与えているであろう効果について分析してみる。	4時間
	消費社会が非常に高度に発展した現代では、消費者の購買意欲をかき立てるマーケティングの手法も日々進化しています。 この授業では、脳科学を利用したマーケティングの手法について、その概略と今後の可能性について学んでいきます。		
第14回	わたしの心はどこまでわたしのものか？	サプリミナル広告の事例について、インターネットや書籍で調べてみる。	4時間
	「どうして自分はこれを買ったのだろうか？」「どうして自分はこのような行動をとったのだろうか？」 自分で自分の心のことは一番よくわかったつもりですが、自分で自分のことがよくわからなくなるのも、これもまたよくあることです。 この授業では、サブプリミナルという概念について学び、その潜在意識に働きかける広告やマーケティングについて説明していきます。		
第15回	まとめ—ファッション・ヴィクティム	「自分はファッション・ヴィクティムかどうか」を考えてみて、そうである理由、またはそうでない理由について、自分の考えをまとめてみる	4時間
	流行に追い立てられ、次から次へと衣服を買い替える人のことを「ファッション・ヴィクティム（犠牲者／いけにえ）」と言います。人は多かれ少なかれ、着るものにこだわらなくては生きていけない動物であり、その意味ではいけにえなのかもしれません。 最終回の授業では、これまでの授業を振り返りながら、着衣が人にとってどのような機能と役割をはたし、これからのように発展していく可能性があるのか、考えていきます。		

授業科目名	卒業研究Ⅱ				
担当教員名	澤田和也・伊東義輝・山下義裕・百々 徹・米田三沙子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	およそ数名程度ごとのグループに分かれ、アパレル企画の方法、デザイン、布の選定、染色、パターンメイキング、縫製、プレゼンテーションに至るアパレル業界全般の流れを共同作業で学ぶ授業体系をとる。実際の授				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

情報収集力および情報分析力	30%	： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。
基礎的な実技	20%	： 作業への取組姿勢や技術力を評価する
表現力	30%	： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。
定期試験	20%	： 卒業研究の成果を、卒業制作展の場において如何に学んだことを表現しているかの実技試験に充てる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

無し

履修上の注意・備考・メッセージ

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 1限
 場所： 生活デザイン第1、2、3研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	担当素材の染めや加工を行う。 前期で作成した素材加工スワッチをベースに、アイテム製作に必要な分量の素材加工を行う。	素材加工の下準備を進めておく 4時間
第2回	染色を行う① 制作相手のデザインに必要な担当素材の染色を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく 4時間
第3回	染色を行う② 作品の制作イメージに合わせ、デザインに必要な素材の追加作成を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく 4時間
第4回	二次加工を行う① 染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を行うことで、素材の表情を豊かにする。	加工を進めておくこと 4時間
第5回	二次加工を行う② 染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を終える。	次週までに加工を仕上げしておく。 4時間
第6回	パターンメイキング① グループごとにデザインしたアイテムのパターンを作成する。	パターン作成を進めておく 4時間
第7回	パターンメイキング② グループごとにデザインしたアイテムのパターンを作成する。	パターン作成を進めておく 4時間
第8回	パターンメイキング③ グループごとにデザインしたアイテムのパターンを完成させる。	次週までにパターンを完成させておく 4時間
第9回	裁断、縫製。 完成したパターンを使用して、素材の裁断を行う。	裁断を終えておく 4時間
第10回	縫製の下準備 裁断した素材に芯張り、ロック始末など下準備を終える。	次週までに下準備を終えておく。 4時間
第11回	縫製① デザインしたアイテムを縫製する。	各グループで縫製を進めておく 4時間
第12回	縫製② 仮縫い、チェックを行い、修正する。	修正を終えておく 4時間
第13回	縫製③ 縫製を終え、デザインしたアイテムを完成させる。	各グループでアイテム製作を終えておく。 4時間
第14回	プレゼンテーション準備、作品展示案を練る プレゼンテーションをまとめて、作品展示の空間イメージを考える。	プレゼンテーションの準備を進めておく。 4時間
第15回	最終プレゼンテーション すべての内容をまとめてプレゼンテーションを各グループごとに行う。	プレゼンテーションの修正を終えておく。 4時間

授業科目名	家庭経営学				
担当教員名	古田豊子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の小学校で校長を6年間経験し、家庭科の研究に取り組んだ。全国小学校家庭科教育研究会全国大会大阪市大会を開催し、大会実行委員長および会場校校長として全学級公開を行う。近畿小学校家庭科教育研究会会長・大阪市家庭部部長を務める。(全15回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

私たちは、人口減少時代を迎え、価値観、社会政策の転換など、激動の社会の中に生きている。このような社会の波に流されず、持続可能な社会の実現を意識し主体的に家庭を営むためには、あふれる情報を適切に取捨選択し、臨機応変な対応力が求められる。本講では、より良く、幸せに円滑に家庭を営んでいくための必要な基礎知識と応用力、実践力を養う。衣食住、生活設計、家族関係も重点的に学習し、現代社会と生活の課題解決できる知識と家庭における実践を必修とする。

養うべき力と到達目標

<p>確かな専門性</p> <p>1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解</p>	<p>具体的内容：</p> <p>家族関係、生活設計を中心とした生活経営分野の内容を学ぶ。</p>	<p>目標：</p> <p>円滑な家庭経営ができるような知識を身につける。</p>
<p>汎用的な力</p> <p>1 . DP6. 行動・実践</p>		<p>家庭を運営するための基礎知識と技術を実際の生活のなかで実践できる。</p>

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業中の毎回の授業後のコメント	: 内容の妥当性で、独自の基準に基づいて評価する。 30%
課題レポート	: 内容の妥当性で、独自の基準に基づいて評価する。 40%
定期テスト	: 授業内容の理解度を評価する。 30%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 暮らしの中から始める持続可能な社会	・ 開隆堂	・ 年
	・ 中学校技術・家庭科教科書(家庭分野)	・ 開隆堂	・ 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	家庭経営学で何を学ぶか 現代社会の特質と家庭経営に必要な事項について概観する。	「家族とは何か」についてレポートを書く。 4時間
第2回	現代家族の特徴と機能 多様な家庭の形態を知り、現代家族の特徴と機能について学ぶ。グループワークにより、戦後、家族の機能や役割の担い手の変化について考察する。「家族」とは何か、プレーストーミングを行う。	多様な家族について調べておく。 4時間
第3回	家族のライフサイクル 持続可能な社会の実現とは何かについて学ぶ。	持続可能な社会について調べておく。 4時間
第4回	家族の機能と社会構造 家庭生活をめぐる男女平等参画社会について学ぶ。	自分の家族について、再考する。 4時間
第5回	家庭の経済と生活設計—経済と家計— 子どもの権利と子どもの貧困について、事例をもとに考察する。	子どもの貧困事例について、新聞記事等、資料を収集しておく。 4時間
第6回	持続可能な社会における家庭生活 ライフコースと生活段階別にみた生活課題について、グループワークにより考察する。	考察レポートを書いておく。 4時間
第7回	持続可能な食生活 生活資源としての生活時間について、グラフによる国際比較から考察する。タイムユースリテラシーについて学ぶ。	世界の国々の生活時間の相違から考察レポートを書く。 4時間
第8回	持続可能な衣生活 家計のしくみと構造について、所得階層、ライフステージ別の家計簿を通して考察する。	家計簿をつけて、ワークシートを完成させる。 4時間
第9回	子どもの教育と経済 消費者問題の歴史的経緯について事例を通して学ぶ。	消費者問題について調べておく。 4時間
第10回	子どもの生活と保育 消費者トラブルに関する事例から、法的制度やその対策について学ぶ。	ITの消費者トラブルについて調べておく。 4時間
第11回	子どもの貧困・子育て支援 開発目標について学ぶ。	課題レポートを作成する。 4時間
第12回	高齢者の生活と地域のつながり ライフスタイルや自己の生き方について考える。	課題レポートを作成する。 4時間
第13回	地域社会とボランティア 幼児期からどのように消費者教育をすべきかについて学ぶ。消費者かるたを作成する。	幼児期から高校生までの消費問題について調べておく。 4時間
第14回	生活と消費の変遷 成人期に必要な事例を取り上げ、その対策について考える。	消費者教育の教材を考えておく。 4時間
第15回	まとめと総括 これまでの授業内容を総括して、課題を決め、グループディスカッションを行い、解決策を提案する。	授業全体のキーワードノートを作成しておく。 4時間

授業科目名	保育学				
担当教員名	範 衍麗				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、幼児の心身の発育発達、基本的な生活習慣の確立、事故や病気の手当てなどの知識を学びます。また、幼児のための遊び道具の制作や触れ合い遊びなど子どもとのかかわる技術を体得します。現代社会における幼児の生活についての現状と課題を把握し、子育てのあり方を学びます。幼児を取り巻く社会状況の変化について学び、幼児のもっとも身近にいる家族と家庭の在り方、地域や社会の子どもを育てるシステムについても理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育学分野の専門知識

目標：

幼児の発達と生活の特徴などの基礎的な知識を身につける。保育に関する知識・技能を実践の中で活用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

子どもを理解しつつ、子どもとのかかわることを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への理解	30%	: 授業内容を理解し、分かりやすく記述されています。
学習課題	20%	: 指定されたキーワードが含まれて、まとめられています。
小テスト	20%	: 2回小テストを行います。各回は10点満点とします。
期末レポート	30%	: レポートのテーマの正確な理解に基づいて書かれています。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

鯨岡峻「育てられる者から育てる者へ」NHK放送出版協会 2003年 ISBN 978-4140019382
岡野雅子他「新保育学」南山堂 2011年 ISBN 978-4-525-63005-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日12:10～13:00
場所： 中央館4階第8研究室

備考・注意事項： 授業内においての質問を行う事。またはメールにて連絡等を行う事。
kozakifan@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	オリエンテーション、保育学とは 保育学を学ぶ意義を理解します。 本授業の見通しを得ます。	中学校学習指導要領技術・家庭科の家庭分野の目標や内容を調べます。	4時間
第2回	子どもの身体の発育発達 乳幼児の身体の発育について学びます。 幼児期の運動能力の発達について学びます。	子どもの身体の発育発達について調べてまとめます。	4時間
第3回	子どもの精神機能の発達 認知の発達や社会性の発達について学びます。 乳幼児の知覚や情緒の特徴を理解します。	子どもの精神機能の発達について調べてまとめます。	4時間
第4回	基本的生活習慣の確立 生活リズムや食事など基本的な生活習慣の形成について学びます。 幼児期の自主性を育む方法を学びます。	自らの基本的な生活習慣を見直し、1週間の生活チェックを実施しまとめます。	4時間
第5回	基本的生活習慣の確立 排泄・清潔・衣服など基本的な生活習慣の形成について学びます。 社会的な生活習慣の形成について学びます。	幼児期の基本的な生活習慣の形成と発育発達との関係についてまとめます。	4時間
第6回	事故、病気の予防と応急処置 日常に起こりやすい事故や病気の予防と応急処置について学びます。 乳幼児の一次救命処置を体得します。	一次救命処置を練習します。	4時間
第7回	遊びを通じた心身の発達 幼児期の遊びの役割について学びます。 わらべ歌遊びを体得し、発達に即した遊びの指導について考えます。	乳幼児の発達に合った遊びや遊び道具を調べます。	4時間
第8回	子どもとの触れ合い 触れ合い遊びをすることによって、子どもの発達への影響を学びます。 触れ合い遊びを体得し、子どもとのかかわり方を学びます。	授業で体得した触れ合い遊びを子どもと一緒に楽しみます。	4時間
第9回	子どもとのかかわるための教材製作 子どもの発達と遊び道具との関係について学びます。 子どものための遊び道具の製作をします。	遊び道具の製作を完成します。	4時間
第10回	保育指導計画の作成 指導計画作成のポイントを学びます。 保育指導計画を作成します。	保育指導計画を完成します。	4時間
第11回	子育てと地域活動 地域における子育て支援活動を把握します。 子育て支援活動を計画します。	自分の地域にある子育て支援活動について調べます。	4時間
第12回	子育てを支える社会の仕組み 子どもを育てる社会的なシステムの現状を把握します。 保育所、幼稚園、認定こども園などの保育施設について学びます。	子どもの生活についての課題を調べて、まとめます。	4時間
第13回	子どもの生活についての課題と実践 子育て支援の現状や課題について、社会問題の側面から理解します。 子どもの生活についての課題を知り、グループごとに解決案を作成します。	自分の家族に自分を育てる際に苦労したことなどを聞き取ります。	4時間
第14回	家庭や家族の役割 子どもの発達と家庭教育の課題について学びます。 幼児の基本的信頼感の形成を理解し、家族の役割分担について学びます。 関係発達の視点から育てられるものから育てる者への理解を深めます。	自分の親子関係について振り返ります。	4時間
第15回	授業の総括とまとめ 本授業での学びを振り返り、学んだことをまとめます。	最終レポートを完成します。	4時間

授業科目名	ショップ経営学				
担当教員名	橋本洋平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自社アパレルブランドのショップ経営、商業施設内でセレクトショップ運営。（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この講義は、小売業において店長など店舗経営を任される立場について必要な経営の基本を習得することを目標としています。内容としては民間企業に就職した場合に役立つ一般的な知識から、自身で経営者となりブランディングする際に必要な知識まで学びます。実際にショップ経営計画を作成しながら、店舗が発展していく為に必要なオリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方、利益の出し方、計数の見方などをわかり易く学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

就職後に即戦力として活躍するための、店舗経営の基礎や企画書作成およびプレゼンテーション力に関する知識を身につけることができる。

目標：

店舗経営の企画書作成およびプレゼンテーションができるようになります。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

オリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方を身につけましょう。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（レポート）	70%	： 定期試験のレポート（ポートフォリオ）の内容によって、オリジナリティーがあり論理的な考え方であるか、第三者が観て理解しやすく仕上がっているかを、全学ルーブリックに基づいて評価します。
課題レポート	20%	： 課題レポートの内容によって、基本知識の理解度を、全学ルーブリックに基づいて評価します。
授業への参加度	10%	： 教員との授業中のやりとりを、科目独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜講義で示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。具体例をあげてわかりやすく講義します。1～4回は、次回授業までにレポートを課します。5回以降は、1項目づつ、企画書（ポートフォリオ）のページ作成を課します。その回の授業の内容を復習し、次回の授業で企画書の作成が出来るように予習と準備をしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	<p>講義の概要、デザインの重要性について</p> <p>授業を受けるにあたっての注意、授業の概要、ショップ経営におけるデザインの重要性</p>	<p>レポート課題—差別化できているショップ、独自性のあるショップのリサーチ。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>売上高、原価、費用、利益とは</p> <p>勘定科目、利益の種類、貸借対照表、損益計算表を学ぶ。損益計算書、貸借対照表を用いた経営分析</p>	<p>レポート課題—企業の損益計算書・売上速報を分析。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>利益を上げるには</p> <p>損益分岐点の理解と算出</p>	<p>レポート課題—複数のショップの損益分岐点売上高を計算します。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>計画立案のポイント</p> <p>計画をたてていくプロセスを学ぶ。「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」3つの視点から計画をたてる。</p>	<p>レポート課題—「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」が決まっている計画を考える。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>基本計画をたてる</p> <p>各自で「独自性のある」ショップ経営計画を作り始めます。何を？誰に？どこで？販売したいかを決める。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—商品構成・ターゲット・店舗立地のリサーチと写真収集。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>ページ作成・レイアウトについて</p> <p>何を？誰に？どこで？販売したいかを「写真」と「文章」で持ってきて、A4の紙にコラージュ（切り貼り）してページを作っていきます。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—各自の計画に必要な備品のリサーチ、参考資料を収集する。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>ショップ立ち上げについて</p> <p>ショップ立ち上げ時に必要な備品・デザインできる物を知る。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—備品デザインを考えてくる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>必要経費について、資金調達について</p> <p>必要経費を算出し、資金調達の手段を学ぶ。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—備品デザインを考えてくる。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>ショップ備品のデザイン</p> <p>紙とハサミと色鉛筆などを使って、ショップカード・下げ札等のデザインをする。フォトショップ・イラストレーターを使用した制作方法を学ぶ。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—いろんなショップの販促活動をリサーチしてくる。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>販促について</p> <p>リピート顧客作りについて学ぶ。どのような販促活動が、自分の計画に適しているか考える。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—いろんなショップのwebショップの形態・特徴をリサーチしてくる。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>webショップについて</p> <p>webショップの仕組みを知る。webショップのアイデアを考える。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—いろんなショップのレイアウト・ディスプレイをリサーチしてくる。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>VMDについて</p> <p>ビジュアルマーチャンダイジングの基本を学ぶ。A4紙でショップ入り口と内部レイアウトのデザインを試みる。</p>	<p>ポートフォリオ作成—各自の計画に合った店舗レイアウト・ディスプレイの作成をする。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>アイテムバランス</p> <p>VMDにそって、アイテム構成比率を考える。消化率を考えて売上目標を設定する。</p>	<p>ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集—各自で設定したアイテム構成比率にそって、アイテム写真を集めてくる。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>アイテムデザイン</p> <p>仕入れアイテムと自社企画のデザインの違いを知る。自社企画アイテムのデザインを試みる。</p>	<p>ポートフォリオ作成—アイテムデザインの表を作成する。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>ショップ経営計画のプレゼンテーション</p> <p>A4ファイルにまとめた「ショップ経営計画」をプレゼンテーション</p>	<p>プレゼンテーションの時間配分・伝えたい要点を意識してリハーサルしておく。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	創作研究 I				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各目のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング、ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。
被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。

目標：

個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
自分の個性を被服製作で表現することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践

デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。
計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験

50%

トータル作成

40%

作業進捗管理

10%

評価の基準

- ： 個々の個性に基づいたデザインの提案を行い、デザインブックを作成する。そして、その世界観を人に伝えることのできるプレゼンテーションができているかどうかを評価します。
- ： デザインした洋服をシーティングで美しく表現できているかで評価します。
- ： 決められた期限の中で作業を進めることができているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間連続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限

場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画

授業計画			授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	コンセプトメイキング ・自分の個性、好きなものを洋服で表現する為、自分のブランドコンセプトを考える。 ・洋服だけでなく絵画、彫刻、建築など様々な分野をリサーチし、洋服をデザインするための要素をインプットする。	必要な資料のリサーチ	2時間
第2回	コンセプトメイキング ・コンセプトをまとめ、ヴィジュアルで表現する。 ・コンセプトを表現できるテーマを探す。	必要な資料のリサーチ	2時間
第3回	洋服をデザインする為のテーマを設定する。 ・自分のコンセプトを表現するテーマをヴィジュアルで表現する。 ・テーマからデザインに必要なキーワードを出す。	必要な資料のリサーチ	2時間
第4回	デザインアプローチ ・自分のコンセプト、テーマを表現する洋服のデザインを考える。 ・絵画や彫刻、建築などこれまでインプットした資料を洋服のデザインという形でアウトプットし、4コーディネートでのデザインを行う。	必要な資料のリサーチ	2時間
第5回	デザインアプローチ ・4コーディネートでのデザインを行う。 ・プリント柄や色の組み合わせを考える。	必要な資料のリサーチ	2時間
第6回	デザインアプローチ ・ボディを用いて、3Dでのデザイン研究を行う。 ・シルエットやボリュームを見つける。	必要な資料のリサーチ	2時間
第7回	デザインアプローチ ・3Dでのデザイン研究。 ・ディテールのデザインを考える。	自分にあつた画材を用意しておく	2時間
第8回	デザインアプローチ ・集めた資料を使ってデザイン画へ落とし込む。 ・自分のコンセプト、テーマにあつた描画表現をおこなう。	デザイン画を進めておく	2時間
第9回	デザイン画を描く ・4体のデザイン画を描く。	デザイン画を仕上げしておく	2時間
第10回	デザインブックを作る ・コンセプト、テーマ、デザインアプローチ、デザイン画をまとめたデザインブックを作る。	デザインブックに必要な資材を集めておく	2時間
第11回	1、2体目、パターン制作 ・1、2体目のパターン制作を行う。	デザインブックの作成を進める	2時間
第12回	1、2体目、パターン制作 ・1、2体目のパターン制作を行う。	デザインブックの作成を進める	2時間
第13回	1、2体目、パターン制作 ・1、2体目のパターン制作を行う。 ・デザインブックのチェックを行う。	チェック後、デザインブックの修正を行う	2時間
第14回	1体目仮縫い ・1体目のデザインをトータル縫製する。	デザインブックの作成、プレゼンテーション準備を行う	2時間
第15回	2体目仮縫い ・2体目のデザインをトータル縫製する。	デザインブックの作成、プレゼンテーション準備を行う	2時間

授業科目名	創作研究Ⅱ				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各目的のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング、ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。
被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。

目標：

個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
自分の個性を被服製作で表現することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践

デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。
計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験（卒業制作ファッションショー）

70%

作業進捗管理

30%

評価の基準

：卒業制作コレクション作品デザインの創造性、現代性、作品完成度を評価します。

：自分の立てたスケジュールに沿って作業を進めているのかなど自己管理できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン ・3体目のパターン制作 ・ショーのフライヤーデザインを始める	フライヤーのデザインを考えておく	2時間
第2回	3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン ・3体目のパターン制作	3体目のパターン制作を進めておく	2時間
第3回	3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン ・3体目のパターンメイキング ・ショーのフライヤーデザインを完成させる	3体目のパターン制作を進めておく	2時間
第4回	3体目のパターンメイキング ・3体目のパターンメイキング	パターンを仕上げておく	2時間
第5回	3体目の仮縫製 ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく	2時間
第6回	3体目の仮縫製 ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく	2時間
第7回	3体目の仮縫製 ・3体目のデザインをトータル縫製する。	3体目のトータル縫製を進めておく	2時間
第8回	3体目の仮縫製 ・3体目のデザインをトータル縫製する。	モデルの予定を管理しておく	2時間
第9回	モデルフィッティング ・3体をショーで着用するモデルに着せてチェックする。	パターン修正を行う	2時間
第10回	パターン修正、ファッションショー構成 ・モデルフィッティングでの変更点を修正する。 ・ファッションショーの構成を考えていく。	ショーの構成案を作る	2時間
第11回	本生地裁断、ファッションショー構成 ・3体の本生地裁断 ・ファッションショーの構成を考えていく。	3体の本生地裁断を終えておく	2時間
第12回	縫製、ファッションショー構成 ・3体の縫製 ・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。	3体のコーディネートを完成させる	2時間
第13回	縫製、ファッションショー構成 ・3体の縫製 ・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。	3体のコーディネートに必要なアクセサリを揃えておく	2時間
第14回	縫製 ・3体の縫製	3体の縫製を進めておく	2時間
第15回	3コーディネートを完成させて、モデルフィッティング、写真撮影 ・3体の洋服制作、アクセサリなどのコーディネートを完成させる。 ・アクセサリを含めたすべてのコーディネートをモデルに着せて撮影を行う。	今日の予定を終えておく	2時間

授業科目名	ネールアート演習				
担当教員名	高尾理恵				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ネイリストとしてサロンワークの経験を積む。 その後、美容専門学校にてネイル教員として勤務。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

1 ネイルテクニックの基本であるネイルケアを学び、ネイルケアの重要性や必要性を学びます。技術だけではなく、理論も学びます。そして、爪の構造や爪の病気等も学び、ネイリストとして、施術可能なか医師に託さないといけないのかを判断する力を身につけます。サロンワークの中で大切な消毒管理やお客様へのカウンセリングの仕方等も、カウンセリングシートに基づいて学びます。
2 流行のジェルネイルを取り入れ、持ちが良いジェルネイルの塗り方や流行のジェルアートを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ネイルの基礎を理解し実践していく

目標：

手を美しく手入れし、アートまで施せるようになる

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

多くの方の手に触れ経験しネイル技術を実践していく

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業態度

評価の基準

： 積極的に実習に取り組み、課題をクリアしようとしているかの観点から、独自のルーブリックで評価する。

40%

定期試験(作品)

： 授業の集大成として、テーマに沿った作品を努力し作成しているかの観点から独自のルーブリックで評価する。

40%

提出物

： 授業におけるノートの作成及び提出を指示したプリントを、独自のルーブリックで評価する。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- JNA テクニカルシステムベーシック
- JNA テクニカルシステム～ジェルネイル～

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるので、平均すると毎時間1時間の授業外学習が求められる。教材購入日(第2回目の授業時を予定)に指定された教材を購入する必要があります。教材が無いと授業が受けられませんので必ずご購入下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業時の教室

備考・注意事項： 質問に関しては、授業の前後で対応いたします。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	授業の目標と進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目標と進め方 ・ 実習に必要な消耗品準備通達 ・ 爪の形と種類を学ぶ 	爪の形の種類5種類を覚える。教材を準備する。	1時間
第2回	教材購入、確認 ネイルケア① <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材を購入し、道具の確認を行います。 ・ 材料を覚え、衛生的に技術が行われるようにテーブルセッティングを学びます。 ・ ネイルケアの手順を覚える 	ネイルケアの手順を必ず頭に入れておく事。	1時間
第3回	ネイルケア② <ul style="list-style-type: none"> ・ エメリーボードの扱い方を学びます。 ・ モデルの手の持ち方やキューティクルプッシュを学びます。 	エメリーボードを使用し爪の形を整える	1時間
第4回	ネイルケア③ <ul style="list-style-type: none"> ・ クリーナップの仕方を学びます。 ・ ニッパーの使用方法を学びます。 	第3回までの内容を復習する。	1時間
第5回	カラーリング、パフフィン <ul style="list-style-type: none"> ・ マニキュアを用いて、ベースコートからカラートップコートまでプロの塗り方を学びます。 ・ 爪の表面の磨き方を学びます。 	カラーリングの手順を復習する。	1時間
第6回	爪の構造、爪の病気 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる爪の構造を学び理論的にもネイルケアの重要性をも学びます。 ・ 爪の病気の種類を学びネイリストとして施術可能か不可能かを見極める力をつけます。的確なアドバイスを行える力を身につけます。 	爪の構造、爪の病気のプリントを復習する。	1時間
第7回	ジェルネイルの塗り方、オフの仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェルネイルを塗る前に必要なプレパレーションを学びます。 ・ ジェルネイルの扱い方、塗り方を学びます。 ・ ジェルネイルのオフの仕方を学びます。 	プレパレーションの復習をする。	1時間
第8回	ジェルネイル フレンチ、グラデーション <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェルアートの基本となるフレンチ、グラデーションを学びます。 ・ ハケの扱い方をしっかりと学びましょう。 	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第9回	ジェルネイル マーブル、タイダイ <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェルアートのマーブルの種類を学びます。 ・ 同じマーブルでも、ハケの使い方によって色々なマーブル模様をする表現できます。 	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第10回	ジェルネイル ピーコック <ul style="list-style-type: none"> ・ 孔雀の羽の様な模様なので、ピーコックと呼ばれている技法のアートを学びます。 	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第11回	ジェルネイル フラワー、たらし込みアート <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェルアートで最も重要のある、フラワーアートをいくつかの技法に分けて学びます。 	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。次回の授業に必要な道具を準備する。	1時間
第12回	サロンワーク実習① <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。 	カウセリングシートを完成させておく。次回の授業に必要な道具を準備しておく。	1時間
第13回	サロンワーク実習② <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。 	カウセリングシートを完成させておく。	1時間
第14回	流行に沿ったジェルアートデザイン <ul style="list-style-type: none"> ・ その時のトレンドのジェルアートや学生からの要望にも対応し、トレンドジェルアートの技法を学ぶ 	次回から行う作品案を今まで学んだ技法を復習しながら考える	1時間
第15回	課題作品構成 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマは各自で設定し10本のネイルチップを作成する為の構造、デザイン、背景を決める。 	定期試験	1時間
第16回	定期試験(作品提出) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の集大成とし、10本のネイルチップに作品を定期試験時間内に完成させ提出する。 ・ 作品には必ずジェルアートを用いること。 		4時間

授業科目名	ブライダルコーディネート論				
担当教員名	矢野知美				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神社、教会、外資系ホテル、国内ホテル、ゲストハウス、レストラン、フリースタイル、重要文化財、自宅婚…すべての結婚式を約20年の実績で現在もプロデュース。花嫁コンサルとしてのアドバイス。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ブライダル/ウェディング業界の内容、結婚にまつわる（婚約から挙式・披露宴の流れや一般常識）基礎知識について学ぶ。ブライダルは伝統的な知識も必要であるが、時代の流れによりニーズ・流行の動きがある。その背景を理解し実践にてプランニング力を身につけ、ブライダルの勉強を通じて多種多様なビジネス、将来的にはプライベートでも応用できる内容を学ぶ。グループで協力しあう内容もあり、お互いに協調性・提案力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

一般的なブライダルに関する多種多様な知識を得るための学び

目標：

社会に出るにあたって、準備として知っておくべき一般常識を含むブライダルの基礎を習得する。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

花嫁目線で実践的内容の分析・理解

収集した情報や学んだ内容を元に、プロのプランナーと同等に話ができるようになるための資料を作成することができるようになる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

自身をモデルに実際の花嫁と同じ目線で計画をスクラップブックに作成する。

会場等に出向き資料をもらったり、食事したり、授業だけでは感じ取れない部分を行動してみる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	： 宿題発表・資料収集・制作物提出
日常点	20%	： 授業への参加態度（積極的参加・遅刻状況・素直さ・マナー）※私語、化粧、居眠り、携帯電話すべて厳禁
定期試験	40%	： 筆記試験

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ゼクシー（毎月の月刊誌）
 ウエディングプランナーのための実践マニュアル
 THE THEORY OF BRIDAL BUSINESS 著書：三本賢治・谷藤進
 （株式会社ベネフィックスコンサルディング）
 ウエディングプランナーになる!? 著書：桑美奈子（秀和システム）
 結婚式っておもしろい!? 著書：たかはしみき（主婦と生活社）
 和婚 花嫁衣装&和の結婚式新ルール 著書：飯田美代子（芸文社）
 婚約と結婚の手帳
 ー21世紀の結婚あなたの疑問に答えます（早わかりガイド） 監修：安部 トシ子
 大事などころをきちんと押さえる結婚の段取りとしきたり 監修：安部 トシ子

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 出講時
 場所： 授業終了後
 備考・注意事項： あらかじめ文面にて受付ます。必ず氏名・所属を書くこと。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間	
第1回	オリエンテーション（授業概要説明） 授業時に必要な物（スクラップブック等）の使用方法 授業内容の説明 スタンダードなウエディングを知ってもらう	・まだ実感のないウエディングを少しでも身近な事として感じる為に、実際に結婚式を経験されたご両親やご兄弟や身近な人に、結婚式の事（準備期間や費用、大変だったこと）を聞いてレポートする。	1時間
第2回	挙式・披露宴のスタイル 結婚式の流行と変遷、挙式スタイルの種類、婚礼会場の種類について学ぶ 結婚情報誌から自分がしてみたい会場を選ぶ	・両親や兄弟や身近な人の中で、結婚式を経験された人に挙式スタイルを聞き流行についての下調べ、実際の会場（ホテル・ゲストハウス・レストラン）に新規パンフレットをもらいに行ったり、資料請求をしたりしてパンフレットを取り寄せる	1時間
第3回	会場研究 第2回で資料請求して取り寄せた会場のパンフレットを見たり、HPを見ながら皆で研究をします	・自分自身の結婚式で絶対にやりたくない事を10ヶ以上書き出してくる。	1時間
第4回	婚約・結納 婚約とは？ 結納とは？ 必要性も併せて学ぶ 結婚式・披露宴のプランニングについて学ぶ	・両親や兄弟や身近な人の中で実際に結納された方に当時の様子を聞きレポートする・婚約指輪をもらうならどんなものが欲しいかをスクラップしたりデザイン画を描いてくる	1時間
第5回	招待状・ペーパーアイテム 招待状のスタイルや意味、必要性、重要性を学ぶ お祝い切手とは？ その他ウエディングで使うペーパーアイテムの種類等を学ぶ	・実際に自分の時の招待状の文面はどうするか？ デザインも考えてみる	1時間
第6回	引出物・引菓子・プチギフト 引出物・引菓子・プチギフトとはどんな意味がありどんな種類があっってお値段帯は？等を学ぶ	・自分の時には、引出物・引菓子・プチギフト（親族・会社関係・友人）を何にするのかどこの物にするか等ご両親と話してみたりして考えてくる	1時間
第7回	衣装・美容（ヘア・メイク） 花嫁・花婿の婚礼衣装、ご両親の衣装、来賓の方の参列衣装の種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ	・どのような衣装を着たいか、どんなヘアメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする	2時間
第8回	装花全般・テーブルプラン 花嫁の持つブーケの種類や意味や内容を学ぶ その他パーティースタイルのテーブルプラン、テーブルコーディネイトと会場装花についても学ぶ	・どんなブーケを持ちたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする	1時間
第9回	プランニングステージの業務 会場の受付・お料理・お飲物・ウエディングケーキ、ディレクションステージの知識を身につける	・実際にレストランに食事に行った際には、テーブルコーディネイト等意識して見てみる・自分の時は何料理がいいか等家族で話してみてもめてくる	2時間
第10回	プライダル商品の基礎知識 司会・演出・音楽・写真・ビデオ等の基礎知識を身につける 挙式のBGM、讃美歌、披露宴のBGMを学び実際にあてはめてみる	自分の ①生まれたての赤ちゃんの時の写真 ②幼少期（小学校低学年）の一番思い出深い写真 ③とびっきりの笑顔の写真 ④大嫌いな写真・見たくもない写真 ⑤今までで一番[思い出深い]写真 ※例：大切な人との写真など 計5枚を必ずスクラップブックに貼ってくる	2時間

第11回	花嫁セラピー	<p>・将来結婚が決まった自分に宛てた、今の自分からの手紙を書いてくる（発表はありません） ・結婚式で使いたい音楽をピックアップしてみる</p> <p>マリッジブルーになる新婦様に、今の時間を一旦止めて「過去の自分」に会いに行ってもらい、ご自分の“大切なもの”を見したり気付いたり再認識したりしていただくために行う【花嫁セラピー】を実際に体験してみる</p>	1時間
第12回	結婚式当日の流れ①	<p>・日頃 食事に行った際のスタッフのサービスからブライダルのサービスについて、違いと関連のあるところを探求する ・美容・衣装・装花・演出など、ブライダルの中で1番興味があることについて探求する</p> <p>結婚式当日の施工・実施から ウェディングに携わる人（ウェディングプランナーを先頭に沢山のスタッフ）当日のサービスのそれぞれの業務について学ぶ アテンダーの業務、式、サービスのマニュアル、婚礼会場を取り巻くビジネスについて学ぶ</p>	1時間
第13回	結婚式当日の流れ②	<p>・結婚式で使いたい音楽として選んだ曲の歌詞の意味等を考え、選んだ理由や好きな部分を書き出してくる ・音源がある場合は次回持ってくる</p> <p>結婚式当日一日の挙式・披露宴の流れや進行を学ぶ 司会進行をするMCの仕事も学ぶ</p>	2時間
第14回	プランニング実習	<p>本日の計14回までの授業内容で、もう少し深く知りたい事や、学びたい事、もう一度聞きたい質問を考え書きだしてくる</p> <p>実際の新郎新婦が打合せ時に使う進行表に、音楽や進行をプランニングしてみる。仕上げて発表できるように準備する</p>	1時間
第15回	プランニングまとめ・討論	<p>討論した内容を比較し、新郎新婦によって結婚式は十人十色、10組20色であることを知る。</p> <p>まとめ…14回学んだ中で、感じたり思ったりした結婚・挙式・披露宴についての討論会・質問会</p>	1時間

授業科目名	染色加工学				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

我々の身のまわりには非常に多くの染色された衣料品があり、その色彩は、デザインや柄と共に衣料品を評価する際の非常に重要な要素の一つである。一方、染色と言ってもその手法やメカニズムは多岐にわたり極めて複雑である。本授業では、このような日常生活と密接に関連している衣料品の染色についての理解を深めるため、「色の特性」、「染料の構造と特徴」、「染色後の種々の堅牢性」、「伝統工芸染色と工業染色」、「種々の加工方法」、「未来の染色技術」などについて、染色加工工程全般に関しての概略を説明する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

染色プロセスの中でも特に、染着性の特性差に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付けることができる。

目標：

染色物の色落ち、色泣き、脱色、退色、汚染現象について、その現象を自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

染色加工工程で生じる諸現象について、現状も問題点と将来への課題を考察する能力を身に付けることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ミニレポート	30%	： 毎回5点満点として15回実施し、総計を30点満点に換算する。自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点） 講義内容のみから記載されている（3点） 論点が的確ではない。（1点）
特定テーマに対する課題考察力	30%	： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して15点×2回の30点満点で評価する。社会的背景も含めて考察出来ている（20点） 授業内容のみで考察出来ている（10点）
定期試験	40%	： 学期末に染色に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、40点満点として成績評価に加える。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
榎本雅穂	・ 繊維材料にフォーカスした生活材料学	・ アイ・ケイコーポレーション	・ 2018年

参考文献等

「ファッションと化学」日本化学会編（大日本図書）「染色概説」矢部章彦・林雅子（光生館）

履修上の注意・備考・メッセージ

日常生活において生じる着色された衣料品のさまざまなトラブルに対して、普段何気なく見過ごしている現象を再認識し、それを防ぐことも視野に入れた授業でもある。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
場所： 生活デザイン第1研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	染色の基礎事項（色素材料） 衣服の染色に用いる染料と、着色に用いる顔料の相違は何か、両者により色付けされた衣料品はどのような特徴があるかについて説明し、色素と染色の概略を解説する。	染料と、顔料の違いを明確に説明できるようになる。 4時間
第2回	染色の基礎事項（前処理） 染色のために行われている精練や漂白等の前処理を行う意味について理解する。これらの工程を省いた場合にどのような影響が出るかを理解できるように解説する。	なぜ、染色の前処理工程が必要かについて理解し、復讐しておく。 4時間
第3回	染色の基礎事項（染色用水） 染色後に排出される大量の汚染排水について考える。過去と現在の状況を解説し、着色排水の処理にどのような工夫がなされているかについて解説する。	以前と現在の染色排水と環境汚染の問題、将来の課題について考えることができるようになる。 4時間
第4回	染料の特徴（染料の種類） 様々な種類に分類される染料を系統的に分類して、その特徴を説明する。特に、天然染料と化学染料の類似点と相違点について重点をおき解説する。	染料の構造上の分類分けができるようになる。 4時間
第5回	染料の特徴（染着について1） 直接染料、建染染料、ナフトール染料、硫化染料、反応染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。 4時間
第6回	染料の特徴（染着について2） 酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸性染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。 4時間
第7回	染料の特徴（染着について3） カチオン染料、分散染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。 4時間
第8回	染色加工（天然繊維の浸染1） 天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、セルロース系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。 4時間
第9回	染色加工（天然繊維の浸染2） 天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、タンパク質系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。 4時間
第10回	染色加工（化学繊維の浸染1） 化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、アクリル系繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。 4時間
第11回	染色加工（化学繊維の浸染2） 化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、合成繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。 4時間
第12回	染色加工（捺染） プリント染と呼ばれる、捺染の技術について講義する。特に、フラットスクリーン捺染、ローラー捺染等、代表的な捺染の手段について解説し、それぞれの手段の詳細について触れる。	浸染と捺染の相違を理解する。 4時間
第13回	染色加工（印刷） 近年需要が拡大されているインクジェット染色の概要について講義する。従来の顔料による印捺との相違や今後の展望等を解説する。	従来と異なる新しい染色法であるインクジェット染色の特徴を理解できるようになる。 4時間
第14回	将来の染色技術 現在研究されている新しい染色技術、あるいは試験的にすでに実用化されている将来の染色技術について概説する。	現在の染色の問題点等を理解し、今後の方向性を考えることができるようになる。 4時間

第15回	カラーリングの総括	日常生活において、着色物を扱う基礎的知識をまとめることができるようになる。	4時間
	色素の一種である染料と身の回りの着色物質について総まとめをする。		

授業科目名	住居学				
担当教員名	山下麻子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	設計事務所に勤務しており、住宅から店舗まで幅広く家具やインテリアの設計に携わる。(全15回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では、①住生活の歴史や世界における住生活の違いを学ぶ。②快適な住生活を維持するための基礎的知識を習得し、生活における要素を分析・観察しながら、現代に求められる住居について考えることを目指します。高齢化社会など社会が抱える問題にとっても住生活が担う役割は大きく、いかなる環境が快適で効率的なのかを各自が分析し考察出来るようになることが本授業の目的です。自らが自らにとって快適な生活を作り上げていくことの重要性を理解してもらいたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

住生活理解

目標：

住生活の基礎知識：住生活に必要な要素を理解し、図面を読み解くことが出来る。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

環境に応じた住生活の必要要素を見いだすことが出来る観察力を身につける。

必要要素に応じて、改善すべき点や新たな観点を分析し組み立てることが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。
それぞれの評価の観点に基づいて、総合評価が60%を超えた場合に合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

各回の授業内小レポート

評価の基準

： 各回1~4点で評価し、合計60点満点とする。
授業内容を踏まえた論述ができていれば3点とし、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば4点、一般論としての論述ができていれば1~2点とする。

60%

実技課題

： 課題A、B：1~10点、課題C：1~20点で評価し、合計40点満点とする。
授業内容を踏まえ、独自の見解が示されているかにより評価する。

40%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
定行まり子・沖田富美子	生活と住居	光生館	2013年

参考文献等

授業中に適宜紹介。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。レポートや最終試験では、自分の意見が示せていることを特に重視します。授業担当者の言葉だけでなく、受講している他の学生の意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスパワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3限、木曜日昼休み

場所： G23、生活デザイン第二研究室

備考・注意事項： 連絡をとりたい場合はEメールにて(アドレス：asako@geneto.net)。Eメールには 氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	ガイダンス 住居学について考える 住居学が踏まえる役割を考える。 住居の持つ様々な要素を解説する。	自宅の間取り図を描いてくる 4時間
第2回	自分の暮らしから住生活を学ぶ 現在の住居の生活空間について考える。 自宅の間取り図から分かることを発表する。	自宅間取り図を再度見直す。教科書p16-17を読んでくる。 4時間
第3回	住居の歴史①古代のすまい 日本の気候の特徴と古代の住宅の歴史を学ぶ。 気候や風土の及ぼす影響を学ぶ。	教科書p18-27を読んでくる。 4時間
第4回	住居の歴史②中世・近世のすまい 平安時代以降のすまいを学び、現代のすまいに伝わる特徴を知る。 それによって日本に適したすまいを知る。	平安以降のすまいの特徴が自宅にも反映されているか確認してくる。教科書p28-30を読んでくる。 4時間
第5回	住居の歴史③近代のすまい 近代以降、戦前までのすまいの間取りの変遷を学ぶ。 新しい文化、文明の導入がどのような影響を及ぼしたか考察する。	教科書p30-37を読んでくる。 4時間
第6回	住居の歴史④現代のすまい 終戦後、大きく変化したライフスタイルとすまいについて学ぶ。 歴史的な背景が住居に及ぼした影響を考える。	折り込み広告などで入っている賃貸や不動産のチラシを1枚選んでくる。 4時間
第7回	すまいの計画・設計①間取り 住居に必要な機能を整理する。 ゾーニングや動線の基本を理解する。	教科書p78-79を読解してくる。 4時間
第8回	すまいの計画②図面の見かた すまいの図面を理解するための基礎的な記号を学ぶ。図面の種類を知る。 教科書p78-79に載っている平面図を手順に従って描く。	壁厚を書き込むところまでは完成させる。 4時間
第9回	すまいの計画③図面を眺む 平面図の残りの部分を書き込み完成させる。 さまざまな平面図をみて、暮らし方、良いところ、悪いところを図面から読み取る。	平面図を完成させてくる。 4時間
第10回	ゾーニング①教室を自宅に見立ててゾーニング(実技課題A) 先週に続き、さまざまな平面図をみて、暮らし方、良いところ、悪いところを図面から読み取る。 また、これまで学んだことを元に、自分の住空間に必要な要素を考えてみる。	教室を自宅と見立ててゾーニングしてくる。 4時間
第11回	ゾーニング②ゾーニングのプレゼンテーション(実技課題A) 教室を自宅と見立てて、ゾーニングに取り組み各自発表する。 ゾーニングを通して自分のライフスタイルも分析する。	他の人の案がどうだったか各自振り返る 4時間
第12回	魅力ある住空間の見せ方①住空間のポイントを探る(実技課題B) 自らが自らにとって快適な住空間を目指すために、何が自分にとって重要な住空間のポイントなのか伝える術を学ぶ。	生活の中で自分の好きな空間を選び、何故好きなのか分析しておく。撮影もしておく。 4時間
第13回	魅力ある住空間の見せ方②ポイントのプレゼンテーション(実技課題B) 撮ってきた写真を発表し、伝えたいことが表現出来ているか、見た人はどう思うのか考察する。	自宅の問題点を挙げてくる。 4時間
第14回	自宅改造①(実技課題C) 快適さとは熱環境や光など様々な要因が絡んでくる。 そこで自宅の問題点を挙げ、どうすれば改善出来るのか考える。 これまでの実技課題を振り返りながら、自宅の改善案をプレゼンボードにまとめる。	プレゼンボードを仕上げてくる。 4時間
第15回	自宅改造②(実技課題C) プレゼンテーション・講評	プレゼンした案の実践出来る部分を実践する。 4時間

授業科目名	インテリアコーディネート論				
担当教員名	青木順子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	一級建築士として住宅設計を行っている				

開放科目の指示：「可」

授業概要

インテリアコーディネートをするには、感性だけでなく膨大な商品知識が必要です。インテリアの色彩・素材・空間に関する知識を身に着けると空間の細部が見えるようになります。今まで感性だけで評価していた空間構成を理論的に理解することが出来、その知識を土台に更に感性を生かすことが出来るようになります。またインテリアに必要な各種の図面の読み取りを習得して、図面を理解し、心地よい暮らしの空間の提案や創造ができる技術を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： インテリア・建築に関する知識	目標： 空間に使用されている材料や商品の名称が分かり、自らも空間を提案することができる。
汎用的な力 1 . DP7. 完遂		学んだ知識を利用して空間の提案を完成することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況	30%	： 受講態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用などは減点）、授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する
課題	50%	： 50回の演習課題とレポートに対して各回5～10点、合計50点満点で評価する。基準に満たない提出物は合格するまで再提出をする。
定期試験(レポート)	20%	： 事前に示された課題に対するレポートにより評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮後 浩	やさしいインテリアコーディネート	学芸出版社	2008年

参考文献等

- 「インテリアの計画と設計」 彰国社
- 「インテリアコーディネーターハンドブック技術編」 産業能率大学出版部
- 「はじめてのインテリアコーディネート」 学芸出版社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習する。
 次回授業の予習としてテキストに目を通し、既知の知識と未知の知識を判別し学習すべき内容を明確にしてから授業に出席すること。
 授業内マナーを守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業時の教室

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	オリエンテーション、インテリアコーディネートとは 講師紹介を行う。 今後の授業の進め方と評価の方法を説明する。 インテリアコーディネートとは、インテリアコーディネーターの仕事とは何かを知る。 学生のインテリア用語の知識を調査する	レポート課題。次回に該当するテキスト（P6）を確認し既知と未知を分ける 4時間
第2回	インテリアを構成する要素 インテリアを構成する6要素について学ぶ。	次回に該当するテキスト（P7）の通読 4時間
第3回	色彩①色彩の基本 色相・彩度・明度の基礎を学ぶ それらの差異によっておこる様々な効果について理解する。配布された材料を使ってトーン図を作成する。 トーンとイメージが結びつくように演習を行う。 作成したトーン図にあうようにイメージワードを書き込む	次回に該当するテキスト（P10～P12）を通読 4時間
第4回	色彩②カラースキーム（色彩計画） 室内空間を色彩計画する基本ルールを学ぶ。 自分でイメージを設定した空間を着色する	課題（カラースキーム）。次回使用するプリントを通読 4時間
第5回	照明①日本のあかり 「陰影礼賛」より日本のあかりの歴史について学ぶ。陰影の魅力を探る。 照明器具の取り付け方による分類とその名称を理解する	回りの該当テキストを通読（P62～P63）、課題（照明器具調査） 4時間
第6回	照明②光源（ランプ）の種類、照明計画 照明器具の光源（ランプ）の種類と特徴を学ぶ。 住宅の各室の照明計画の相違について学ぶ	次回使用する資料の通読 4時間
第7回	照明③配線図面作成① 配線図面の記号を学ぶ。あたえられた課題の部屋に照明を計画し、図面に表記する	課題（製図）。回りの該当テキスト（P29～P39）の通読 4時間
第8回	照明④配線図面作成② 配線図面の記号を学ぶ。あたえられた課題の部屋に照明を計画し、図面に表記する	課題（製図）。回りの該当テキスト（P29～P39）の通読 4時間
第9回	インテリアの仕上材①仕上表 仕上げ表の見方を学ぶ。仕上材選定の注意点を理解する。内装（床・壁・天井）に使用される種々材料を知る。	次回資料プリントの通読 4時間
第10回	インテリアの仕上材②木 日本の森林の現状を知る。仕上材に使用される多種多様な天然の木材の特徴について理解する。 サンプルに触れることで印象を深める仕上げ表の見方を学ぶ。	次回資料プリントの通読。課題（木の利用） 4時間
第11回	インテリアの仕上材③左官・クロス 伝統的塗り壁の特徴を知る。 クロスが普及した原因と長所を考える サンプルを見て触ることで印象を深める	回りの該当テキスト（P25～P28）を通読する 4時間
第12回	インテリアの構成①建具 ドア・ふすま・障子など開口部の種類と特徴を学ぶ。図面を見て理解できるようにする	次回該当テキスト（P56）を通読する 4時間
第13回	インテリアの構成②伝統的な建具 伝統的な建具（襖・障子）の自由な設計、素材、現代での利用について学ぶ	次回該当箇所のテキスト（P45～P47）を通読、課題レポート 4時間
第14回	インテリアの構成③窓・ウインドウトリートメント 窓サッシの種類、それを装飾するカーテン・ロールスクリーン・ブラインドなどの種類・使用方法・特徴について学ぶ。	今回の授業の復習。回りの総まとめにむけて今までの資料プリントやノートを読み返ししておく 4時間
第15回	インテリアの仕上材④畳 畳の歴史、使われ方、自然素材ゆえの長所・欠点を理解する。	課題（畳の利用） 4時間

授業科目名	ファッションコーディネート論				
担当教員名	小谷秀子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	元アパレルデザイナー。その後、服飾専門学校専任講師となり、現在はパーソナルカラー&パーソナルスタイリングの指導および企業研修等を担当。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ファッションコーディネート論では、スタイリングの際に必要なシルエット・ディテール・カラー・素材の組み合わせ方を学びます。お似合いになるアイテム選びの他に体型カバーのコーディネートテクニックを習得することで幅広いスタイリング力を身につけることができます。また、お客様のファッションニーズを把握するためファッション感性（タイプ別、年齢別）やスタイリング全体のイメージを表すルックスなどコーディネートの専門知識を学ぶことができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

コーディネートに必要な専門知識

目標：

コーディネートに必要な4つの要素を理解し、トータルコーディネート提案できる技術を身につける

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP5. 計画・立案力

体型カバーを理解し、幅広いコーディネート力を身につける。

お客様のファッションニーズを理解し、コーディネート提案できる。

パーソナルカラーを知ることによってその人に似合うカラーコーディネート力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み	20%	: 授業への積極的参加（レポート提出含む）、授業態度（受講マナーや私語、忘れ物、携帯電話など授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
課題提出	30%	: ファッション雑誌などを使用したペーパープランの作成。
プレゼンテーション能力	20%	: 体型カバーの演習にて具体的に分かりやすく効果を取り入れ、コーディネート説明ができていますか評価する。
定期試験	30%	: 「ファッション用語」「体型カバー」「パーソナルカラー」を主とした内容の試験を行い、授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業時の教室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に対応します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にか かかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション・コーディネートの概要とファッション用語 講師紹介、シラバスの説明を行う。 その後コーディネートの必要性と役割・ファッション用語、アイテム知識を講義。またライフスタイルを理解し、「オケージ ン別のスタイル」をペーパープランにて作成する。	ファッション用語を覚えてくる。またオケ ーションスタイルを作成する。	4時間
第2回	シルエットの理解とディテールの取り入れ方 シルエットの違いをパワーポイントにて解説。その後、服のディ テールによるファッションイメージの違いを分析する。「ディ テールの選び方」をテーマにファッション雑誌を使用し、ペ ーパープランを作成する。	ペーパープランを仕上げる。配布したプリン トのディテール名やアイテム名を覚える。	4時間
第3回	素材の組み合わせ方 同素材、異素材の組み合わせ・プリント柄の選び方・質感によ るファッションイメージの違いを理解する。その後ファッショ ン雑誌を使用し、「柄の選び方」のペーパープランを作成する。	色の三属性、色相環、トーンを復習してお く。	4時間
第4回	カラーコーディネート 色の知識を復習後、色の組み合わせ方とその特徴を理解する。カ ラーコーディネートでよく取り入れる配色をパワーポイントに て解説する。また、次回に行うパーソナルカラーについて説明。	婦人服売り場のカラーコーディネートのリ サーチしてくる。	4時間
第5回	人を対象としたカラー選び 実際にカラードレップを使い、色がどのように顔色を変化させる のかデモンストレーションをしながら解説する。また「パーソ ナルカラーの4シーズン別」のペーパープランを作成する。	ペーパープランを2枚完成させる。	4時間
第6回	アクセサリーの知識と演習 パーソナルカラーの取り入れ方を復習後、アクセサ リーの選び方と注意点を学び、その後スカーフ・スト ールの巻き方を実習する。	配布したプリントのアクセサリーの知 識を覚えてくる。また巻物の実技内容を復 習する。	4時間
第7回	服飾小物の知識 靴、鞆、帽子、メガネなど服飾小物の知識と選び方を解説。	配布したプリントの服飾小物の知識を覚えて くる。	4時間
第8回	主なファッションタイプと年齢によるコーディネートの嗜 好の違い ファッションタイプ・マインドエイジ・ファッション感性8分 類について学び、嗜好の違いを理解する。	タイプ別に婦人服売り場をリサーチしてく る。	4時間
第9回	体型カバーのコーディネートテクニック 体型を全体的な角度、部分的な角度でチェックスタイルアッ プに繋げる方法をパワーポイントにて説明。その後ファッショ ン雑誌を使用し、体型カバーを取り入れたペーパープラン作成す る。	体型カバーのコーディネートを再度復習して おく。	4時間
第10回	体型カバーのコーディネートプラン 2～3名のグループに分かれ、それぞれのチームに体型カ バーのテクニックを取り入れたコーディネート2案考えてもら う。また次回のプレゼンテーションに向け事前チェックおよびア ドバイスを行う。	体型カバーのプレゼンテーションの準 備を行うこと。	4時間
第11回	プレゼンテーション グループごとに体型カバーのコーディネートを実際に2スタイ リング制作し、プレゼンテーションを実施し評価する。	体型カバーのペーパープランを完成させる。	4時間
第12回	フォーマルスタイル フォーマルについてメンズとレディースのルールを解説。そ の後、シーンを決めてフォーマルスタイルをスタイル画で表現す る。	スタイル画を仕上げてくる。	4時間
第13回	メンズのコーディネート メンズファッションについて主にジャケットの種類・ス ーツの着こなし方について学ぶ。またネクタイの結び方、ポケット チーフの折り方を実習する。	講義内容を復習し、メンズの売り場をリサ ーチしておくこと。	4時間
第14回	様々なルックス 着こなしの表現方法を様々なルックスから捉える。	講義内容を復習し、現在のトレンドでよく使 用されるルックスを分析しておく。	4時間
第15回	ファッショントレンドの取り入れ方 春夏ファッショントレンドを解説後、総復習を兼ね春物で流行り そうなアイテムをチームで調べ、ディテール、シルエット、 色、素材、全体のスタイルなどチームごとに発表する。	婦人服売り場にて春物をリサーチしてくる。	4時間

授業科目名	衣環境学実験				
担当教員名	坂下理穂				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

快適で健康的な衣環境を形成するためには、人間の身体条件と取り巻く環境条件の相互関係を捉え、人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、適した衣服を選択する必要がある。この授業では、「衣環境学」や他のアパレル関連の講義で得た知識を基礎とし、衣料管理士資格取得に必要とされる人間—衣服—環境の関連性について、実験により高度な応用力を身につける。また、得られた実験結果とともに自身の意見や主張をレポートにまとめ、その成果を発表することによって、体験的に得た成果や知識を他者へ伝える能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「アパレル生理・衛生学」分野の専門的知識と実践力	人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、快適で健康的な衣生活を実現するために、適した衣服を選択できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得	人体とアパレル設計の関係を実験的により詳しく理解し、製品の適否を判断する力と消費者に適正なアドバイスができる高度な応用力を修得する。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		快適で健康的な衣生活を実現するために、実験成果を踏まえて身体および環境条件に適した衣服を選択できる。
2．DP8. 意思疎通		人間—衣服—環境の関係性を正しく理解し、実験成果を踏まえて衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

受講者が自主的に実験を進めることができるように実験内容を計画し、その方法や必要な情報を含めて作成した実験テキストを使用する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験レポート	36%	： 実験レポートを毎週提出し、丁寧にまとめられた結果をもとに考察ができていないか等の観点から評価する。(3点×12回)
発表	30%	： 前半・後半の実験終了後に報告会を実施する。各班で実験結果および考察について発表用スライドを作成。他班の発表内容について相互に討議し、審査も実施する。(15点満点×2回)
定期試験(レポート)	34%	： 最終課題としてレポート提出を行い、実験を通して衣環境学分野に関する理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・日本衣料管理協会編「アパレル生理衛生論」(日本衣料管理協会、2016年)
- ・田村照子編「衣環境の科学」(建帛社、2012年)
- ・日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」(井上書院、2015年)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み
場所： 生活デザイン第二研究室
備考・注意事項： 授業外の質問には、授業の前後に応じる。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、実験機器取扱い・手順の説明 授業の進行や実験で用いる機器の取扱い方法および実験上の安全に関する説明。	「衣環境学」で学んだ内容を理解しておく。 4時間
第2回	グラフ作成方法やレポート提出の説明 グラフ作成方法やレポート提出に関する説明。	エクセルでグラフを作成し、ワードに記載できるようにしておく。 4時間
第3回	暑さ・寒さと温熱環境1(秋季)の測定 気温、湿度、気流および輻射熱を計測し、暑さや寒さに影響する因子について計測する。	秋季の気温などの結果をまとめグラフを作成する。 4時間
第4回	暑さ・寒さと温熱環境1(秋季)の結果集計 気温、湿度、気流および輻射熱を計測し、暑さや寒さに影響する因子について計測して得られたデータを基に考察する。	秋季の気温、湿度に関して、文献から関連内容を調べ、考察を行う。 4時間
第5回	体格・動作の測定 測定器を用いた人体計測を行う。	同じ班のメンバーの体格を測定し、データを増やす。 4時間
第6回	体格・動作の測定結果のまとめと考察 姿勢や動作による衣服の変形や影響について考える。	動作によって衣服設計にどのような工夫が必要かを考える。 4時間
第7回	身体組成の計測 実測により、体格指数や体組成を求める。	体格指数などの計算を行い、自分の体格を知ること。 4時間
第8回	身体組成の算出 班員の体格指数や体組成から、運動量の違いなどを比較する。	班員の体格指数や体組成から、運動量の違いなどを踏まえて考察する。 4時間
第9回	環境と皮膚温・体温の測定 皮膚温・深部体温を測定し、それらと環境の関わりについて学ぶ。	環境によって皮膚温がどの程度異なるかを推察する。 4時間
第10回	環境と皮膚温・体温のデータ整理 皮膚温・深部温データをグラフにし、部位ごとにどの程度ことなるかを整理する。	環境と皮膚温との関わりを文献などを調べ、考察する。 4時間
第11回	温熱性および精神性発汗反応の測定 2種類の発汗反応を観察および測定し、どのような違いがあるのかを学ぶ。	2種の発汗反応を測定し、どの条件でどの部位が多く発汗するのかを調べる。 4時間
第12回	温熱性および精神性発汗反応のデータ整理 得られたデータから、発汗反応にどのような違いがあるかを学ぶ。	発汗反応には部位差があるのか、個人差があるのかを考察する。 4時間
第13回	実験成果のまとめ(前半)―復習― 前半に実施した実験成果についてまとめる。	前半の実験内容と実験結果について復習する。 4時間
第14回	実験成果のまとめ(前半)―プレゼンテーション作成― 前半に実施した実験成果について発表用の資料を作成する。	発表のために資料を作成し、自分の考えを説明できるようにしておく。 4時間
第15回	実験結果の報告(前半) 前半に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。 4時間
第16回	実験結果の報告(前半)と後半の実験説明 後半の実験について、実験で利用する機器の取り扱い方法や実験上の安全およびレポート提出に関する説明を行う。	自分の実験結果を再分析、再考察するとともに、次回以降の実験の項目について通読しておく。 4時間
第17回	衣服気候と着衣行動の測定 衣服の着脱行動が衣服気候に及ぼす影響について考える。	衣服気候が着衣行動にどのような影響を与えるかを推察する。 4時間
第18回	衣服気候と着衣行動のまとめ 衣服の着脱行動が衣服気候に及ぼす影響について考え、データ整理および考察を行う。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ、考察を行う。 4時間

第19回	運動時の体温調節反応の測定 運動時の体温や心拍数の変化を測定し、安静時と運動時の生理反応の違いを学ぶ。	運動強度によって心拍数などにどの程度変化があるのかを班で考える。	4時間
第20回	運動時の体温調節反応のデータ整理と考察 運動時や安静時の生理反応について得られたデータを整理し、考察する。	運動強度によってどのような衣服を選択するのが望ましいかを調べる。	4時間
第21回	着衣による拘束性の測定 衣服圧の測定と、拘束感についての評価により、圧迫による人体への影響について考える。	日常生活で着用する衣服の中で、衣服圧の高いものはどのような衣服なのかを調べる。	4時間
第22回	着衣による拘束性に関するまとめ 測定した衣服圧データを用いて、高圧迫が人体へ与える影響について考える。	高着圧の衣服について、どのように工夫すれば拘束性の低い衣服になるかを考察する。	4時間
第23回	皮膚性状の測定 皮膚の水分、脂質、pHなどを測定する。	部位によって水分量、脂質、pHが異なることを確かめる。	4時間
第24回	汚れの分析 皮膚の汚れとはどのようなものか分析する。	皮膚の汚れの種類について、水分量との関係から考察する。	4時間
第25回	暑さ・寒さと温熱環境（冬季）—測定— 冬季における気温、湿度、気流および輻射熱を計測する。	冬季ではどの場所でどのような気温の変化がみられるかを観察する。	4時間
第26回	暑さ・寒さと温熱環境（冬季と秋季の比較） 同じ場所の気温や湿度に関して、秋季と冬季を比較する。	同じ場所で季節によって気温などに違いがみられた原因を考察する。	4時間
第27回	実験成果のまとめ（後半）と復習 第17～26回に実施した実験成果についてまとめと復習を行う。	後半の実験内容と実験結果について復習し、不足があれば補填する。	4時間
第28回	実験成果のまとめ（後半）と発表準備 第17～26回に実施した実験成果について発表用の資料を作成する。	後半の実験内容と実験結果について発表のために資料を作成し、自分の考えを説明できるようにしておく。	4時間
第29回	実験結果の報告 第9～13回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。	4時間
第30回	実験結果の報告と総括 第17～26回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。 後半の実験について解説を行い、最終レポート提出に関する説明を行う。	自らのレポートに足りない部分を補い、最終レポート提出の準備をする。	4時間

授業科目名	材料学実験				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ユニチカ株式会社中央研究所にて繊維材料の研究開発に従事（1990年～1995年）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣料管理士として繊維製品を扱う様々な現場で活躍できるよう、被服材料に関する知識・技術を身につけることを目的とする。前半の実験では繊維の鑑別の基礎となる繊維の様々な性質を調べる方法を学んだ後、テキスタイル基礎実験で習得した手法も活用して、未知試料の鑑別を実践する。後半の実験では、糸や布に対して各種性能評価試験機による測定を行い、その操作方法と評価法を習得する。毎回の実験レポート作成を通して、繊維、糸、織物の基礎データと実験結果を関連させて考察する力も身につけていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士に要求される実験を正しく行うことができる能力を身につける。 衣料管理士に求められるアパレルテキスタイルの評価が正しく導く能力を身につける。	実験の立案、準備、実験、実験結果の解析が正しくできる。 アパレルテキスタイル材料の実験結果の解析をもとに、規格通りの性能が発現されているかを判断することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見 2．DP5. 計画・立案力 3．DP6. 行動・実践 4．DP7. 完遂 5．DP10. 忠恕の心		実験で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。 課題を解決するための計画を立案し、解決する方法を思考することができる。 課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、実験をすることができる。 実験課題に対して、実験した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。 互いの気持ちを思いやり、また互いの安全に配慮して、実験を行うことができる能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の基準	割合
実験レポート	4点満点で10回実施し、40点満点とする。実験の考察がしっかりとなされ、さらに自分の創意工夫が記載（4点）、実験の内容をもとに自分の思考が記載（3点）、実験内容だけが記載（2点）	40%
課題発表と課題に対する考察力	2回実施する実験内容に関する発表に対して15点×2回の30点満点で評価する。実験内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている（15点）実験内容をもとに考察出来ている（10点）	30%
定期試験	養うべき力が到達目標に達しているかどうかを120分間の筆記テストで行う。テストは繊維材料とその応用に関して、繊維製品品質管理士試験と同程度のレベルである。一切持ち込みは禁止である。	30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・松梨 久仁子編著『衣服材料学実験（生活科学テキストシリーズ）』（朝倉書店、2018年）
- ・島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』（建帛社、2013年）
- ・日下部信幸著『生活のための被服材料学』（家政教育社、1999年）
- その他の文献や該当するJIS規格は実験書に記載、または授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の午前中

場所： 本館南4階、生活デザイン第一研究室

備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。
その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「材料学実験・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	前半の実験の説明、繊維の比重（沈降速度） 実験を行う上での注意点と、授業前半に行う実験について説明する。また、次週の参考実験として、異なる比重液で繊維の沈降速度を測定し、その違いを確認する。	実験を安全に行うために必要なことをまとめる。 4時間
第2回	繊維の比重（浮沈法） 浮沈法により、繊維の浮き沈みが逆転する2つの比重液を調べ、各種繊維の比重（範囲）を測定する。	繊維の種類と比重の関係の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第3回	繊維の染色性 3種類の染料を使用し、同一条件で染色した各種繊維の染まり具合を確認する。また、市販の繊維鑑別用染料とマルチファイバートストクロスを用いて繊維を鑑別する。	繊維の種類と染色性の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第4回	繊維の溶解性 酸、アルカリ、有機溶剤に繊維片を浸漬し、これらの試薬に対する各種繊維の溶解性（耐薬品性）を調べる。また、酢酸鉛水溶液による呈色反応の確認も行う。	繊維の種類と溶解性の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第5回	繊維の融点測定 融点測定装置を使用して、繊維の融点を測定する。また、引き裂き試験で使用するのり付け綿布を作製する。	繊維の種類と融点の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第6回	繊維の鑑別① テキスタイル基礎実験や前回までに習得した種々の鑑別手法を駆使し、未知試料の鑑別を行う。	未知の繊維が何であるかを実験結果から導く。 4時間
第7回	繊維の鑑別② 前回の続きを行う。また、鑑別が終わった班から発表用のスライド作成に移る。	未知の繊維の鑑別実験の方法、結果から明らかにした結果を報告するためのプレゼン資料を作成する。 4時間
第8回	繊維の混用率、発表と後半の実験の説明 溶解法により混紡布の混用率を求める。また、繊維の鑑別結果についてグループ発表を行い、後半の実験について説明する。	繊維の混用率の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第9回	糸の強伸度 糸引張試験機を用い、ミシン糸の強伸度を測定する。得られたチャートから荷重と伸びを読み取り、引張強さ、伸び率、ヤング率を計算する。	糸の強伸度の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第10回	織物の強伸度 定速引張試験機を用い、織物の強伸度を測定する。得られたチャートから荷重と伸びを読み取り、伸度を求める。	織物の強伸度の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第11回	引き裂き試験 エレメンドルフ引き裂き試験機により、織物の引き裂き強さを測定する。	織物の引き裂きの実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第12回	破裂試験、保温性 ミュレン型破裂強度試験機による破裂強さの測定を行う。保温性の実験では、班ごとに1種類の試料を担当し、ASTM型保温性試験機による測定を行う。	織物の破裂試験と保温性の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第13回	吸水性 バイレック法による各種布の吸水速度の測定を行うとともに、浸漬法により吸水率を求める。	織物の吸水性の実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第14回	ドレープ性 ドレープ投影図より面積を測定し、ドレープ係数およびドレープ形状係数を算出する。	ドレープの実験結果をまとめ、考察する。 4時間
第15回	実験結果の報告 これまでの実験やレポート・課題の総括を行う。グループごとに分担し、全員が自分の行った実験についてみんなの前で発表する。	実験結果の報告会で指摘された事項について自分でしっかりと考察して自分の考えを説明できる資料を作成する。 4時間

授業科目名	被服整理学実験				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣料管理士資格取得において必要な知識の一つである、繊維製品や染色物の洗浄時における取扱いについて科学的に理解すると共に、必要に応じて適切な方法で性能試験を行うことの出来るスキルを実験的に身に付ける。本授業では、1回生時のテキスタイル基礎実験で修得した被服整理に関する実験的素養を基礎にして、JIS規格に準じた精度の高い実験を行い、そのデータ評価をコンピュータ解析により詳細に行い、将来衣料品管理を行う現場で通用する知識と技術を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

具体的内容：

被服整理に関する総合的な知識と技術に身に付ける。

目標：

衣料管理士として衣服整理のあらゆる事案に対して対処するための技術を身に付ける

実験指針と異なる事態となった際に、如何にして現状を理解して対応策を講じるかを考える力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

実験レポート

評価の基準

： 5点×15回を40点満点に換算
実験結果に対する科学的考察の有無や評価方法の把握度の判定

40%

実験操作の取り組み状況

： 5点×15回を30点満点に換算
事前説明における注意点や重要ポイントを把握した上での作業か否かの判定

30%

定期試験

： 整理実験評価の専門技術に関する実技試験を実施し、30点満点で評価する。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実験テーマごとに適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

衣料管理士を取得するために必須の実験です。修得済みの被服整理学、およびテキスタイル基礎実験の内容を十分に理解しておいて下さい。本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）

場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画			授業外学習課題にかかる目安の時間
第1回	実験の全般説明、直接染料による堅牢度試験用染色布の作成 ・被服整理学実験の内容について説明する。 ・直接染料による染色の基礎事項をマスターする。	衣料管理士取得を目指し、その整理分野の内容を理解する	4時間
第2回	建染染料による堅牢度試験用染色布の作成 建染染料の特徴、および染色のメカニズムや堅牢性についての基礎事項をマスターする。	建染染料の特性を理解し、日常生活の中にある建染染料による染色布の特徴の関連を調べる	4時間
第3回	洗浄試験の説明と汚染布の表面反射率測定 洗浄試験において使用する汚染布の特徴を理解し、洗浄による反射率変化から得られる洗浄効率の意味を解説する。	日常における衣類の洗浄と汚れ落ちの評価方法について考える	4時間
第4回	データ整理と実験説明 ・パソコンを用いた実験データの整理方法、各種グラフの描画や考察方法について解説する。 ・次週から3回にわたる実験内容を説明する	パソコンを用いてデータをもとに、種々の評価方法を理解する	4時間
第5回	綿布への糊付実験及び浴比の洗浄効果評価実験 ・種々の糊剤を用いた綿布への糊剤塗布の実験を行う。 ・種々の浴比における洗浄効果への影響を確かめる。	糊剤の意味を理解する。洗濯物と水の量の関係について理解する	4時間
第6回	界面活性剤濃度変化による洗浄効率評価の実験 種々の界面活性剤濃度における洗浄試験を行い、洗浄効率との関係を理解する。	適切な洗剤濃度とは何か、そして理論的にそれは何を意味するのかを理解する	4時間
第7回	反応染料による堅牢度試験用染色布の作成 反応染料による染色のメカニズムや基礎事項をマスターする。	反応染料と直接染料の違いを理解できるようになる	4時間
第8回	データ整理及び紫外線堅牢度試験布の作成 ・過去3回の実験で得られたデータの交換および整理 ・長期にわたって行う、紫外線暴露用試験布の作成	エクセルによるデータ整理がスムーズに行えるようになる	4時間
第9回	洗濯堅牢度用複合試験布の作成 洗濯堅牢度評価法の説明を行い、試験片の作成を行う。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第10回	洗濯堅牢度試験および摩擦試験 以前に作成した堅牢度試験用布を用いて洗濯堅牢度試験および摩擦試験をそれぞれJIS規格に準じて行い、その結果を評価する。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第11回	表面張力測定 界面活性剤濃度を変化させ、表面張力の変化と界面活性剤濃度の関係を調べる。	表面張力の変化とcmcの関係について理解できるようになる	4時間
第12回	糊付け効果の測定および分散染料染色 ・以前に作成した糊付け布の剛軟度と糊剤の相違の関係を評価する。 ・分散染料の染色を種々の条件下において行う。	カンチレバー式剛軟度測定の手段を理解する。グレースケール取扱いおよび評価方法をマスターする。	4時間
第13回	紫外線堅牢度の評価 数週にわたって実施してきた紫外線堅牢度試験の結果を評価する。	染料の相違による紫外線堅牢性の相違を理解する	4時間
第14回	実験評価と衣料管理士業務 衣料管理協会の基幹事業実施の一環を受け、被服整理学実験で実施した実験内容や評価方法が、衣料管理士として現場でどのように現場で活かされるかについて、業界人を招いたセミナー方式での討論会を行う。	今まで実施した実験内容の実際の現場における応用作業を理解する	4時間
第15回	まとめ 整理分野の全ての実験内容を総括し、衣料管理士の役割について説明する。	整理分野において行った実験について、その意味を理解する	4時間

授業科目名	ヘアメイク演習				
担当教員名	三宅詩織				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美容師、メイクスクール講師を経てヘアメイクとして活動。海外挙式専門のブライダルヘアメイクとしてニューカレドニアへの駐在経験あり。現在はフリーランスとして和装婚礼を主に年間100件の挙式を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ヘアの基礎知識を知ること。
自分でヘアアレンジをする技術を身につけること。
相モデル演習により多少他人のヘアもスタイリングできるようにする。
ブライダルやファッション業界では自身のヘアアレンジは必須であり、お客様に対してもヘアを含めたトータルプロデュースができることで信頼関係を築きやすい。
週に一度授業で学んだヘア技術を、他の日の朝トライする時間が取れる貴重な期間（学生時代）にヘアアレンジ力を身につけることで今後の女性人生をさらに充実させ華やかに送る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	自分のイメージしたヘアアレンジができる	得意スタイルを3つ作る
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		一度は展示モデルになり参加する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

受講態度

30%

評価の基準

： 授業に取り組み参加する意欲

準備力

10%

： 毎回必要になる道具を事前に揃えて来ているか

技術力

20%

： 展示に基づいた手順と技術が身についているか

定期試験（筆記・実技）

20%

： 定期的にある筆記、実技の確認テストによる評価

作品提出

20%

： 最後の授業でのフリーテーマによる製作力の評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間程度の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業時の教室

備考・注意事項： 授業前後の質問歓迎します

授業計画		必要な道具を揃える	授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	授業概要説明 ・講師自己紹介・授業内容の説明・現時点でのヘア知識を図る簡単な小テスト・次回からの持ち物についての説明をする・ヘアセットデモンストレーション	必要な道具を揃える	1時間
第2回	ヘア道具の種類と使用法・実習（ゴムだけでできるヘアアレンジ） 基本のヘアセットに必要な道具（選び方）とその正しい使用法を学ぶ 頭の部位の名称を学ぶ 実習：自分の髪でセルフアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第3回	前髪と印象の関係 実習（前髪アレンジ） 人のイメージを作る前髪の種類、分け目について学ぶ 実習：ナナメ、おろす、巻く、ねじる、編む、上げる などの前髪アレンジにチャレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第4回	アイロンの種類と使用法 実習（アイロンでつくるスタイル） カールアイロン・ストレートアイロンの正しい使い方のデモンストレーション どのようにして毛髪に変化がおこるのかを講義 実習：アイロンを使って髪の形状を変える	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第5回	ヘアピンの種類と打ち方 実習（ピンでねじり留め） 目的に合わせたピンの種類を学ぶ 頭皮に負担のかからないピンの打ち方の練習 実習：ピンを見せないように毛束を留める	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第6回	筆記テスト 実習（イベント用スタイル） 今までの授業で学んだ基礎知識を筆記テストで確認 和装やパーティなど特別なスタイルに対応できるヘアアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第7回	人の髪に触れる 実習（ヘッドマッサージとシンプルアレンジ）相モデル 人の髪に触れる時の注意事項 実習：相モデルでマッサージ、コーミング、ねじり留めを使ったシンプルアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第8回	実習（ポニーテールとシニョン）相モデル 人の髪でポニーテールを作る、シニョンにアレンジ 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第9回	実習（編みスタイル）相モデル 実習：ねじる、三つ編み、方編み、フィッシュボーンなどを使い編んでアレンジする 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第10回	技術確認テスト（ねじり留め）実習（アイロンを使ったアレンジスタイル1）相モデル カールアイロン、ストレートアイロンを使ってスタイルを提案する 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第11回	実習（アイロンを使ったアレンジスタイル2）相モデル カールアイロン、ストレートアイロンを使ってスタイルを提案する 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第12回	実習（ディズニーから学ぶ）相モデル ディズニーのキャラクターのヘアスタイルを解説し実際に仕上げる 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第13回	実習（イベント用スタイル）相モデル 浴衣やパーティなど特別なスタイルに対応できるヘアアレンジ 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間
第14回	日本髪の実習（最終回のヘアアレンジのための練習）相モデル 次回の製作に向けての練習時間 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間
第15回	フリーテーマ制作・評価（相モデル） ヘアスタイルを一点制作する 制作時間25分、制作後に評価 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間

授業科目名	CAD演習				
担当教員名	森本千里				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業パターンナー・フリーとしてCAD使用によるパターン作成。(全15回)				

開放科目の指示「不可」

授業概要

本授業では、現在では多くの企業でパターン作成時に使用されているアパレルCADソフトの操作方法を学びコンピュータを使用した製図方法を身につける。
CADを使用するメリットである、時間の効率化、パターンの正確性、パターン管理の基本を理解する。実寸大のパターンとは違う、モニター内のパターン感覚を感じることから始め、さらに実践的に使用できるように操作方法を身につけていく。
個々のメニューの使い方を熟知し、自分で工夫してメニューを使える企画力、発想力などを養う訓練をおこなう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

アパレルCADの実践的使い方を理解する。

目標：

CADを使ってイメージ通りのパターンを作成することが出来る。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP7. 完遂

デザイン画に沿って効率の良い手順を考え操作することができる。

誰にでもわかりやすいパターンを完成することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	: 授業終了後 PCの画面を確認して毎回10段階で評価する。
受講状況	20%	: 授業への積極的参加、授業マナー（私語 スマートフォン）PC操作のルール等を授業内課題と同様毎回10段階で評価する。
習得度確認テスト	20%	: 数回復習テストを行い習得度を確認し評価する。
試験（レポート）	20%	: 全講義終了後にレポートにて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業はレジュメに沿って行うので次回の授業時必ず持ってくること。
PCが一人1台使用できない場合、譲り合って使用し、使用できない時も画面を見て積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： その他 連絡を取りたい場合はEメールで（アドレス：accasatof1all@ezweb.ne.jp）。氏名と学籍番号を明記してください

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	アパレルCAD概要 CADの使用時の全般的な流れの説明。 機器の使用法説明。 初期画面の機能説明。 ファイル操作、マウスに慣れる。	アパレルCADとは？ネットで検索しておく。 1時間
第2回	家-1作成 曲線練習 保存パターンの検索方法の説明 直線メニューを使って、課題家-1を作図する。 マウスを使って曲線を描く練習。	初期画面の復習をしておく。 1時間
第3回	家-2作成 Tシャツ作成1-完成までの流れを知る 初期画面の復習。 課題家-2を作図する。 Tシャツのパターン作成について完成までの全体の流れを知る。	家-1で学習したメニューを復習しておく。 1時間
第4回	Tシャツ作成2-具体的な操作法・アレンジ Tシャツ作成の完成までの各メニューを説明し、実際に操作をして完成させる。 完成したパターンに各自アレンジを加えていく。	各メニューの大きな分類と位置を覚えておく。 1時間
第5回	1回～4回までの操作確認 9AR原型作成1-後見頃 今までの基礎的な操作が出来てるか確認。 9AR原型の後見頃作成。	初期画面と基本メニューを復習しておく。 1時間
第6回	9AR原型作成1-前見頃 原型9ARを完成させる。 正確に完成出来ているか確認。	後見頃と前見頃のメニューの違いを考えておく。 1時間
第7回	9AR原型復習 ショートカット説明 9AR原型をレジメなしで操作する。 他のメニューも応用して使ってみる。 9AR原型に関する質疑応答。 ショートカットの説明 練習。	基本メニューのショートカットを覚えておく。 1時間
第8回	回転練習 使用頻度が高く理解が難しい回転メニューの操作を学ぶ。 パラメータの使い方を学ぶ。 複雑な操作もある為、自分で完成出来るよう練習を繰り返す。	学習したメニューを確実に使用できるようにしておく。 1時間
第9回	ヨークAラインスカート作成1-ヨーク作成 スカート原型からヨーク作成 フレアー展開の操作を学ぶ。 線カット、曲線の調節方法を学ぶ。	パターン完成の為に必要な作業手順を考える。 1時間
第10回	ヨークAラインスカート作成2-完成 ヨークAラインスカートを作成させる。 ステッチ、文字入力、縫い代付け等の練習。	完成までの手順を考え、完成時のイメージをとらえておく。 1時間
第11回	ヨークAラインスカート確認 作成したパターンがミスなく仕上がっているか確認作業をする。 作成したパターンが解りやすいか互いにチェックする。 違ったメニューを使って作成する方法を考えてみる。 質疑応答。	パターン作成時に使ったメニューを復習して確実に操作できるようにしておく。 1時間
第12回	台衿ピンタックブラウス作成1-手順を考える デザイン画を見て、パターン作成の全体的なイメージをとらえる。 基本デザイン以外は自分で考えパターンを作成する。 個々に作成手順、使用メニューを考える。	完成時までの効率の良いパターン作成順を考えておく。 1時間
第13回	台衿ピンタックブラウス作成2-完成 縫い代付け迄を行いパターンを完成させる。 未知のメニューに対しても工夫して使用出来るよう学習する。	ブラウスのアレンジデザインを考えておく。 1時間
第14回	台衿ピンタックブラウス作成3-確認 アレンジ 作成したパターンがミスなく仕上がっているか確認する。 裾のライン、ボタン間隔 ステッチ巾が等が自分のイメージ通りか確認する。 基本のブラウスを使ってアレンジしたパターンを作成。	学習してないどのようなメニューがあるか一覧をみて確認しておく。 1時間
第15回	要尺計算の仕方 その他便利な使い方 学習したメニューの復習 CADを使用して必要メーター数を計算する方法を学習し、実際に各アイテムの必要メーター数を出す。 その他CADならではの便利な機能を学習する。 全てのメニューを再操作して確認する。	学習したメニューの復習をしておく。 1時間

授業科目名	マーケティング論				
担当教員名	橋本洋平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義によりマーケティングの基本を学び、グループディスカッションにより課題について仮説をたて、アンケートを作成します。また統計処理を行い、結果をグラフにより読み取り、考察します。社会科学的な思				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自社アパレルブランドのショップ経営、商業施設内でセレクトショップ運営。（全15回）				

開放科目の指示「不可」

授業概要

この講義では、マーケティングの基本知識とその実践力をつけるために、理論や具体的な手法を学びます。具体的にはグループディスカッションにより①市場調査（定性調査）及び消費者調査（定量調査）を実施し、消費者行動を考察します。②①の結果をもとに、「モノ」「コト」企画から「プロモーション戦略」として、ファッション雑誌を企画し、作成します。さらに、プレゼンテーションを行い、ビジネスにおけるPDCA(Plan、Do、Check、Action)を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

具体的内容：

マーケティングの基本的理論を理解し、消費者行動を分析する。

目標：

市場のニーズを予測できる経営学的センスを身につける。

消費者行動分析による結果から、未来を予測したり課題を発見したりできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 授業内課題の内容によって、基本的理論の理解度・分析能力を、科目独自のルーブリックに基付けて評価します。

40%

課題レポート

： 課題レポートの内容によって、基本知識の理解度を、科目独自のルーブリックに基づいて評価します。

20%

資料に基づくプレゼン

： 調査結果の発表や制作紙面の発表について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

20%

定期試験(レポート)

： 期末レポートの内容について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜講義で示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は、授業の前後に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	マーケティングとは何か なぜマーケティングが必要なのか、マーケティング活動の事例からビジネスにおけるマーケティングの全体像を知る。	マーケティングとは何か、事例をあげてレポートを書く。 4時間
第2回	ブランドマーケティング ブランドを育て、普及し、ブランド向上をさせるかについて、お菓子、ファッションなどを事例にその方法と展開、課題について学ぶ。	ブランドマーケティングの事例をあげ、レポートを書く。 4時間
第3回	サービスマーケティング 「モノ」から「コト」へのマーケティング事例について学ぶ。	サービスマーケティングの事例をあげ、レポートを書く。 4時間
第4回	企業アンニュアルレポートの分析 ファッション企業のアンニュアルレポートをもとに、複数のブランド戦略を学ぶ。	アンニュアルレポートを考察し、企業戦略をまとめる。 4時間
第5回	リテールマーケティング 小売店などのリテール業態のマーケティング活動の実際を学ぶ。タウンリサーチと商業施設リサーチを行い、地域特性とファッションマーケットの関係について調査する。	タウンリサーチ結果についてレポートを書く。 4時間
第6回	消費者行動分析の実際 顧客分析の実際について、調査事例やデータについて考察する。	調査事例をもとに考察レポートを書く。 4時間
第7回	消費者行動についての課題設定 グループにより、女子大学生を対象としたテーマを設定し、課題を抽出する。KJ法やブレインストーミングにより、仮説をたてる。	テーマおよび仮説を検討する。 4時間
第8回	課題についてのアンケート作成およびその実施 仮説をもとにアンケート項目を検討する。調査の基本を学び、アンケートを作成する。	アンケートを完成させる。 4時間
第9回	データの入力および統計解析 アンケート調査をもとに、素データ入力を行い、SPSS統計解析ソフトにて分析を行う。	アンケートについて再考しておく。 4時間
第10回	アンケート調査結果の考察 結果をもとにグラフを作成し、考察する。さらに発表資料を作成する。	発表資料を完成させる。発表の練習をしておく。 4時間
第11回	プレゼンテーション グループごとに、調査結果を発表する。	振り返りシートを作成する。 4時間
第12回	雑誌のコンテンツ分析 雑誌のマーケティングの特徴について学ぶ。さらに雑誌分析を行う。	コンテンツ分析を完成させる。 4時間
第13回	雑誌の製作 アンケート調査結果をもとに、「売れる」雑誌を企画する。内容について、グループで話し合い、紙面担当者を決める。	紙面のため画像や動画を作成する。 4時間
第14回	紙面の編集 雑誌の紙面をテーマごとに担当し、文章やレイアウトを整え、完成させる。	担当ページを完成させる。 4時間
第15回	プレゼンテーション ファッション雑誌の紹介と内容について、発表する。	課題レポートを作成する。 4時間

授業科目名	フェースメイク演習				
担当教員名	福西由美子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	メイクアップアーティストとして、メイクサロン主宰、一般企業へのレッスン講座、舞台メイクの担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ファッション表現の専門的な学びの一環として、ファッションスタイルをトータルで表現する為のメイクアップの基礎技術を習得することを目的とする。
まず、メイクのベースとなる皮膚の構造を理解し、スキンケアの重要性を学び、化粧品目的、役割等の技術を裏付ける基礎的理論を学ぶ。その後、ファッションイメージを表現するメイクアップ方法を、カラー・デザイン・テクスチャーの面から表現できるようになることを本科目の目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

メイクアップの専門的知識と技術を学ぶ。

ファッションのテイスト、シーンを理解しファッションとメイクのトータルコーディネート完成させる為の表現力を身につける。

目標：

皮膚の構造を理解した上でのスキンケア、メイクアップの理論と技術を理解し実践することができる。
ファッションテイスト、目的に応じたメイクアップバリエーションの表現ができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP5. 計画・立案力

学んだことを、自らの日々のコーディネートや、学内のファッションショー等で実践することができる。
テーマ設定から方法手段、実施までの計画をプランニングできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

30%

評価の基準

： 各回授業内の実習、ワークシートで評価する。

受講状況

20%

： 各回授業への積極的参加（実践と質問等）や授業態度（受講マナーや私語、スマートフォン等の授業妨げになる場合は減点）を基に総合的に評価する。

授業内小レポート

20%

： 授業内容をふまえた記述（10点）と図解的確に示しているか（10点）で評価する。

期末試験

30%

： 最終課題のメイクとファッションコーディネート作品と発表で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

美容皮膚科学辞典（中央書院）
顔分析鎌田塾（講談社）

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本科目は、理論に基づく演習が重要であるため、聴講のみの受講は認めません。（当日の肌トラブルの場合は例外）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	授業概要説明とメイクアップ概論 ・授業内容の説明、メイク演習で使用する道具等の解説をし、メイクアップの歴史を学ぶ。	配布資料を通読し、自身の使用備品を確認する。 1時間
第2回	皮膚学 化粧の技術を習得するうえで、肌、皮膚の構造、表皮の役割、ターンオーバーの仕組みを理解し、肌トラブルのメカニズム、紫外線に対する知識を学ぶ。	資料を通読し、レポートをまとめる。 1時間
第3回	化粧品について ・スキンケアの役割、スキンケア化粧品の選び方、薬事法 表示数値の読み方を理解し、肌の状況に合わせた適切なスキンケアを身につける。	資料を通読し、レポートをまとめる。 1時間
第4回	スキンケアの方法とベースメイク 自分にあったスキンケア方法や、ベースメイクの基本テクニックを身につける。	学んだ技術を、日々実践する。 1時間
第5回	アイブロウ・メイク 基本のアイブロウバランスを理解し、描き方・道具の使い方・テクニックを学ぶ。	ワークシートを使用して描き方をマスターする。 1時間
第6回	アイメイク・チーク・リップメイク ・基本のアイメイク・チーク・リップのメイクアップの方法、道具の使い方、テクニックを学ぶ。	雑誌等でメイクの配色をリサーチする。 1時間
第7回	トータルメイク ・第6回までに学んだ基本テクニックを使って、スキンケアからフルメイクを行う。	次回のテストマップ用の資料を収集する。 1時間
第8回	ファッション・イメージ&テスト別メイクアップカラーの配色 Ⅰ マップ作成 ファッションのイメージやテストの分類と把握し、テストを表現するマップを作成する。	今回のメイクアップ画像資料の収集をする。 1時間
第9回	ファッション・イメージ&テスト別メイクアップカラーの配色 Ⅱ メイクアップ表現 前回のマッピングをもとにそれぞれのイメージ、テストに合ったメイクアップのカラーでデッサンを作成する。	今回のマップ、デッサンをもとに備品の準備をする。 1時間
第10回	ファッション・イメージ&テスト別メイクアップカラーの配色表現 デッサンに基づいて、自分の顔でメイクアップを行う。	ビジネスシーンのファッションをリサーチする。 1時間
第11回	メイクとファッション・コーディネート演習 1. オフィシャル・ビジネスシーン ファッションのシーン別で求められるメイクの解説、就職活動用のメイクアップ表現を行う。	フォーマルドレスのファッションをリサーチする。 1時間
第12回	メイクとファッション・コーディネート演習 2. フォーマルシーン ファッションのシーン別で求められるメイクの解説、華やかさを意識したメイクテクニックとコスメの応用を学び、メイクアップ表現を行う。	コレクション情報の画像の収集をする。コレクション情報の画像の収集をする。 1時間
第13回	ステージメイクについて ファッションショーにおけるメイク表現の解説、テクニックのデモンストレーションを学び、コレクションに向けてのメイク企画をする。	最終課題にむけてのコーディネート資料の収集をする。 1時間
第14回	トータルコーディネート企画 メイク、衣装、小物のトータルコーディネートスタイルを企画する。	企画書を完成させる。ポージングの情報収集をする。 1時間
第15回	トータルコーディネート企画のプレゼンテーションとコメント 企画内容とスタイリングのプレゼンテーションを行う。	他者のコーディネートを画像として保存、研究する。 1時間

授業科目名	繊維加工学				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維製品には付加価値を高めるために各種の加工が施されている。その加工技術は、我が国のみならず世界各国において目指しい早さで発展しており、現在も進行している。本授業では、そのような繊維加工に関する現在までのさまざまな既存技術について解説を行うと共に、その問題点を考える。さらに、環境問題を含めた将来への課題についても考察できるようになることを目標とする。また、現状の各加工法による効果や、加工剤の分析法についても理解できるようになることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

繊維加工を施す意義とその効果についての専門知識を身に付けることができる。

目標：

繊維材料と加工の可否の関係について、材料の知識を基に推測することのできる専門知識を身に付けることができる

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現在の繊維加工技術の課題や問題点について考え、どのような解決法が考えられるか、について考察出来る力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

ミニレポート

評価の基準

： 毎回5点満点として15回実施し、総計を30点満点に換算する。 自己の考えを含めて詳細に記載されている (5点) 講義内容のみから記載されている (3点) 論点が的確ではない。(1点)

30%

特定テーマに対する課題考察力

： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。 社会的背景も含めて考察出来ている (20点) 授業内容のみで考察出来ている (20点)

40%

定期試験

： 学期末に繊維加工に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、30点満点として成績評価に加える。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

榎本雅穂ら 繊維材料にフォーカスした生活材料学 アイ・ケイコーポレーション
その他、各テーマに応じて適宜プリント配布等により紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

繊維加工は現在の衣料品には大なり小なり施されている手段であり、その事実を改めて認識することで今後の快適な衣生活を送れるようになってもらいたい。

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	繊維加工の歴史と概論 繊維加工の目的は何か？ 現在と過去の繊維加工の意味合いや、現状の繊維加工に対する概要を初回導入編として解説する。	繊維加工の目的と概念を理解出来るようになる。 4時間
第2回	シルケット加工について マーセライズの意味合いを理解すると共に、そのような加工に至る背景や現代における必要性等について解説する。	絹と綿の構造上の違いを理解出来るようになる。 4時間
第3回	樹脂加工について さまざまな種類の樹脂加工について紹介し、繊維製品のみならずプラスチックに応用されている技術について紹介する。	樹脂の種類や加工前後に人が感じる感性的な相違について理解する。 4時間
第4回	形態安定加工について 形態安定加工が必要な繊維と加工後に人体に与える影響を含めた解説を行い、前週の樹脂加工を応用した形態安定加工との相違について説明する。	日常生活において使用している形態安定加工製品の特徴を見つける 4時間
第5回	難燃加工について 防炎・難燃・不燃について法的規制の現状も踏まえて、その手段を含めた内容について解説する。	身の回りに存在する、防炎・難燃・不燃材料の違いを理解出来るようになる。 4時間
第6回	防縮加工について 従来羊毛を対象中心として施されてきた防縮加工の現状について、そのメカニズムと実際の相違について解説しながら、環境・安全を考えた加工法について解説する。	洗濯時における防縮剤の役割と製品前の加工の役割の差が理解出来るようになる。 4時間
第7回	ブリーツ加工について 古くから存在するブリーツ加工について、繊維ごとの適性や取扱いについて解説する。	市販のブリーツ加工製品がどのような手段により加工されたかについて、理解出来るようになる。 4時間
第8回	防虫加工について 薬剤による防虫と繊維製品そのものに対する防虫機能付与の違いや持続性について解説し、健康との関連性について述べる。	家庭における防虫剤の種類と繊維への影響を理解出来るようになる。 4時間
第9回	減量加工について 繊維の種類によって手段の異なる減量加工の相違と、それを施す意味合いや必要性について解説する。	減量加工することにより得られる長所と短所が理解出来るようになる。 4時間
第10回	帯電防止加工について 「静電気発生の防止のため」、と捉えられがちなこの加工法について、実際の用途や加工手段の多様性について解説する。	日常生活で可能な簡便な帯電防止の知恵について理解出来るようになる。 4時間
第11回	表面親水加工について 本来親水性を持たない種類の繊維表面にこの加工を施すことによるメリットやデメリットについて解説し、この加工法の意味合いを考える。	撥水・防水・吸水・吸湿のキーワードについて理解出来るようになる。 4時間
第12回	抗菌・防カビ加工について さまざまな繊維製品に応用されるようになったこの加工法について、その手段だけでなく、混同しがちな目的の相違について解説する。	SEKマークについて理解出来るようになる。 4時間
第13回	その他の加工、繊維加工と安全性について 前回までのメインテーマでは解説出来ていない他の加工法について網羅的に解説する。	今回の授業にて得られた知識により、今まで気付いていなかった加工が身の回りにたくさん存在していることを理解出来るようになる。 4時間
第14回	加工剤の分析法について 試験機関等において実際に行われている分析方法について、衣料管理士として理解しておくべき事項を総合的に解説する。	衣料管理士資格を活かして将来検査機関等で実際に自身が分析に携わるということを前提に、どのような検査方法があるかを理解出来るようになる。 4時間
第15回	繊維加工の展望について 現時点では未だ実用化されていないものの、研究段階であるものや実用化の一手手前の段階であるさまざまな加工法の最前線について解説する。	今回の授業をもとに、将来望まれる加工法について提案出来るようになる。 4時間

授業科目名	ファッション文化論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣服は、常に個人と社会の間にあります。個人は衣服を着ることで、自分が一体どんな人であるのかを社会に対してあらわして周りの人たちに知らせています。社会はその約束ごとや決まりごとを、衣服に込めて個人に課して社会にとって望ましい存在へと整えていきます。ファッションは時代とともに変化して人や社会の移り変わりを映し出しているのです。本講義は、産業革命を皮切りに大きく移り変わってきた市民社会と、そこにおけるファッションの変遷について学び、現代へとつながる流れを把握することが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みやデザインに関する知識を得る	様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッションのデザインと衣服の役割に関する専門的知識	ファッション業界で働くために必要な基礎的知識を学び、将来的に自ら考え、活用していけるようになる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		様々な資料や知識をもとにして、現代のファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解や方向性を持てるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

40%

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『衣服のアルケオロジー—服装からみた19世紀フランス社会の差異構造』 フィリップ・ペロー 文化出版局 1985
『おしゃれの社会史』 北山清一 朝日選書 1991
『洋服・散髪・脱刀』 刑部芳則 講談社現代メチエ 2010
『たたずまいの美学』 矢田部英正 中公文庫 2011

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 3限

場所：生活デザイン第2研究室

授業計画

授業外学修課題にか
かる自安の時間

第1回	<p>ガイダンスー着衣について考え直す</p> <p>誰もが毎日当たり前のように繰り返している、衣服を着る行為＝着衣。でもあまりに当たり前のように思っているこの行為は、自然界の動物の中でも、人間だけが唯一おこなっている特殊な行為なのです、この一連の授業では、わたしたちホモ・サピエンスの行為としての着衣の起源から、ファッションの現在、そして未来の着衣の可能性まで考えていきます。</p>	人がなぜ着衣をはじめたのか、その理由について、自分なりに考えてみる。	4時間
第2回	<p>無毛化するサル</p> <p>わたしたちホモ・サピエンスが登場する以前には、さまざまな類人猿が登場していますが、中でもホモ・エレクトスはおそらく初めてその体毛を失ったホモ属だと考えられています。この授業では、わたしたちの遠い先祖であるホモ・エレクトスが体毛を失ったことで、どのように着衣が始まったのかを推測していき、衣服の起源について考えていきます。</p>	最近の社会現象の一つである脱毛について、なぜそのような現象が流行しているのか分析してみる。	4時間
第3回	<p>着衣のはじまり</p> <p>“原始人”を再現した時に、よく毛皮を着ている姿で表現されます。しかし、はたして本当に、人類が一番最初に身にまとったのは、毛皮なのでしょう。実際、毛皮を着られるように加工しようとすると、そこには数々の高度な技術が必要とされます。そして、それらの技術は、一朝一夕には人類が獲得できないものもあるのです。この授業では、着衣のはじまりについて、可能な限りの人類学や考古学の証拠を使って、考えていきます。</p>	授業で話されたこと以外に、衣服のはじまりについて考えられることはないか、自分なりに調べてみる。	4時間
第4回	<p>境界としての衣服</p> <p>衣服を着ることで、わたしたちはいろいろなことを表現していますが、その由来をたどっていくと、着衣が始まったことにより、社会の中で、《われわれ》と《かれら》を分け隔てるのが容易になったことがわかります。その《われわれ》と《かれら》の境界としての着衣は、やがて共同体を水平と垂直に区別していったのです。この授業では、衣服が境界としての意味と機能を持ちはじめたことによって、どのような社会が形成されたかを学んでいきます。</p>	いま自分が着ている服によって、自分がつなげられているものと分けられているものについて、考え直してみる。	4時間
第5回	<p>衣服の物質的進化</p> <p>わたしたちの祖先たちが、今のわたしたちが着ているような衣服に近いものを着るようになったのはいつ頃のことでしょう？動植物の繊維から、糸を作り、糸を染め、布を織り、裁断し、縫製する。1着の衣服を作るために必要な膨大な作業は、気も遠くなるような長い年月の中で培われてきた技術の賜物なのです。この授業では、ホモ・エレクトスやネアンデルタール人から、ホモ・サピエンスへと至る衣服の物質的な進化について、学んでいきます。</p>	自分のクローゼットの中から、1着の服を選び出して、それがどのような工程を経て、自分の手元に来ているのか、可能な限り詳細に調べてみる。	4時間
第6回	<p>身体の装い</p> <p>ボディペイントやタトゥー、ピアシングやスカリフィケーションなど、皮膚や身体そのものへの装飾の事例は、古今東西を問わず、およそ人類の歴史の中で、数多く見られます。また、足先や頭蓋骨の形を変形したり、腰をこれ以上ないほど締め上げたり、まるで粘土のように人間は自らの身体を変形し、そこに独特の美意識を見出してきたのです。この授業では、身体そのものに働きかける数多の事例を見ながら、身体を装うことの意味について考えていきます。</p>	ピアスやタトゥーなどの身体加工について、自分なりの考え方を人に話せるくらいに考えをまとめておく。	4時間
第7回	<p>都市と着衣</p> <p>人類が初めて都市の文化を築いた時、そこにはこれまでにないほどたくさんの人々が住むようになり、その人たちをつなぎ束ねると同時に、階級をもうけて峻別する必要が出てきました。衣服は、その「同じであること」と「異なること」を同時にしかも明確に表すための装置として、機能し始めることになったのです。この授業では、人類の都市の形成と、そこでの衣服の役割について、考えていきます。</p>	街中で出会う人たちを、いくつかのグループに分類してみて、その人たちがどのような衣服の類似性を持っているか、観察してみる。	4時間
第8回	<p>複雑化する着衣</p> <p>中世からルネサンスの時期にかけて、都市はさらに発展し、そこに暮らす人たちは、その職分とともに細分化されていきました。また、職人たちの組合が作られ、さまざまな保証制度ができはじめると、衣服も一気に高度化して、細やかな違いを表すことができるようになり、さらに贅を尽くした流行も現れるようになりしました。この授業では、中世からルネサンス期に高度化し複雑化した着衣が、社会においてどのような役割をはたしたか考えていきます。</p>	いまでも残っているさまざまな服飾の伝統技術について、自分の気になるもの一つを選び、その起源と変遷について、できるだけ詳しく調べてみる。	4時間
第9回	<p>ゆらぐ階級と服飾の闘争</p>	袖口に飾られる小さなレース飾りがお城一つ分の価値を持つまでになったことの意味について、自分なりに考察してみる。	4時間

	<p>17世紀になって、さらに財力を高め、社会において勢を増す商人たち。彼らがお金で貴族の地位を手に入れ始めると、ゆらぐ階級制度の中で、熾烈な服飾の闘争が始まったのです。その闘争の中で、贅沢な工芸品はどんどんとその技術が高度化して、やがて人類最高とも言える技巧の極地へと達しました。この授業では、ルイ14世の時代からロココの時代まで、ゆらぐ階級制度とそこでくり広げられた服飾の闘争について、考えていきます。</p>		
<p>第10回</p>	<p>平等と自由の革命</p> <p>1789年、バスティユ牢獄の襲撃とともに、フランス革命は起こりました。それは、王侯貴族の時代から平等な市民の社会への大きな転換点となりました。それまで法律で定められていた階級ごとの服装の違いは取り払われ、誰もが等しく自由に好きな衣服を着ることができるようになったのです。この授業では、フランス革命がもたらした服装の自由が、どのように次の時代を開くことになったのか、その歴史的意味について考えていきます。</p>	<p>自分はいま、どこまで自由に衣服を着ているのか、あるいは不自由に衣服を着ているのか、考えてみる。</p>	<p>4時間</p>
<p>第11回</p>	<p>着衣の資本主義</p> <p>18世紀の半ばごろ、イギリスの田舎町で、その後の世界を大きく変える変革が訪れました。それは、糸を紡ぐ作業の機械化です。やがてその流れは発展していき、のちに産業革命と呼ばれるようになり、さらには資本主義という仕組みを生み出すことになりました。それは、「着心地のいいコットンをもっと着たい」という欲求から始まったのです。この授業では、着るこだわりから始まった大きな仕組みと、それが着衣にもたらした変化について考えていきます。</p>	<p>それまでチクチクするウールしか着られなかった人たちが、肌触りのいいコットンを手にして感じた喜びを思いながら、自分の肌着に触れ直してみる。</p>	<p>4時間</p>
<p>第12回</p>	<p>消費社会とファッションというシステム</p> <p>資本主義がどんどんと拡大していき、人々の暮らしを飲み込んでいく中で、商品を生み出していくための新しい仕組みが必要とされるようになりました。チャールズ・フレデリック・ワースは、女性用高級仕立て服の組合を組織して、オートクチュールという画期的な仕組みを始めました。デザインが価値を持ち、デザイナーが力を発揮するようになったのです。この授業では、ファッションというシステムがどのように誕生し、資本主義をより推進するようになっていったか、考察していきます。</p>	<p>ファッションショーはどのようにして今のような形態になったのか、その変遷を自分なりに調べてまとめておく</p>	<p>4時間</p>
<p>第13回</p>	<p>グローバリズムとファッション</p> <p>産業革命により大量生産された商品は、大量消費されなければなりません。しかし、国内の需要には限界があり、ヨーロッパの国々は新しい市場と新しい原料の供給地を探し求めて、アジアやアフリカに勢力を拡大していきました。その拡大に従って、大量に作られた布や衣服が、新しい消費者を獲得していったのです。この授業では、19世紀に拡大していった帝国主義がファッションにもたらした影響について、考えていきます。</p>	<p>自分のクローゼットにある服が、どこの国で作られているか、またどのように作られているか、可能な限り詳しく調べてみる。</p>	<p>4時間</p>
<p>第14回</p>	<p>着衣の未来</p> <p>衣服は布という柔らかい素材でできているため、その製造工程を機械化することは今のところできません。それにも関わらず、最近では非常に安い衣服が市場に出回っています。そこには安い賃金で長時間労働する人たちの影の支えが存在するのです。そして、最近では、これまでなかった服の作り方、流通、販売の方法が日々あらわれて、私たちのファッションの仕組みは刻々と変わりつつあるのです。この授業では、今のファッションのシステムが抱える問題を鑑みながら、これからの着衣の未来の可能性について、考えてみます。</p>	<p>インターネットとファッションの関係性について、自分なりの切り口でテーマを絞り、調査してみる。</p>	<p>4時間</p>
<p>第15回</p>	<p>まとめーファッションは文化か？</p> <p>「ファッションは芸術だ」と言う人もいれば、「ファッションはビジネスだ」と断言する人もいます。日々消費され、着られ、消耗していく衣服。そして、売ることばかりを目的とするようになりつつあるファッション。ファッションの今後の可能性はどこに見出せるのか？これまでの授業を振り返りながら、いま求められるファッションの可能性について、意見を交換する。</p>	<p>まだ試みられていないファッションとは何か、未だ誰も見たことがない着衣の可能性はどこにあるのか、授業を振り返りながら自分の意見をまとめ、レポートに書く。</p>	<p>4時間</p>